

目 次

I.	教 育 課 程 に つ い て	2
	カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー	
II.	単 位	6
III.	成 績 評 価 基 準	6
IV.	履 修 科 目 単 位 内 訳 表	7
V.	コ ー ス の 概 要	8
VI.	服飾学部服飾学科カリキュラム表	15
VII.	履 修 の 方 法	21
VIII.	教 職 課 程 に つ い て	25
IX.	学 芸 員 課 程 に つ い て	31
X.	授 業 計 画	39

本学の教育課程は、学則第 2 条の目的にそって、構成されています。

教育課程（学則第25条）に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧 15 頁の服飾学部服飾学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

カリキュラムポリシー（教育方針）

本学の教育の使命と目的を効果的に実現するための教育組織として、1 年次では共通の初年次教育課程と 2、3、4 年次で 6 つのコースに分かれた専門教育課程を設けています。初年次教育課程では、教養科目によって一般的教養を養い、服飾関係科目によって芸術性・技術力、ビジネス基礎力を育成します。その基礎の上に立って、専門教育課程で、創造力をもった専門職業人を養成することを目指しています。

教養科目は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・総合・国際関係・外国語の科目を多数開講し、外国語は 8 単位以上、それ以外の科目で 26 単位以上の履修を要求しています。また 1 年次生には初年次科目の「学習基礎」を必修として、大学で 4 年間学ぶためのスキルを修得させています。外国語については 3、4 年次での受講も可能にし、服飾業界での必要性に対応しています。

初年次教育課程では、服飾関係科目の共通必修科目と専門選択科目を設けています。共通必修科目の中核科目としてファッション・フィールドリサーチ、服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通・商業入門、ファッションビジネス概論があり、これらを全員に履修を義務付け、服飾造形に関する基礎的な技術とファッションビジネスに関する基礎的な知識を全学生が共通に修得することとしています。これが本学の初年次教育課程の特徴です。

専門教育課程では、モードテクノロジー系の 4 つのコースとファッションビジネス系の 2 つのコースに分かれて、各コースごとに独自の必修科目（35 単位～38 単位）を設定しています。ファッションビジネス系の 2 年次では、2 つのコースの専門基礎必修科目は共通していますが、各コースの教育目的と目標が異なり、基礎以外はそれぞれの専門に特化した授業が展開されます。

各コースの教育目的と目標を達成するために必要な必修科目をコースごとに 17 科目ないし 20 科目設定しています。初年次教育課程の科目、専門教育課程での選択科目と合わせて専門教育課程でコースの必修科目を履修することによって、各コースの目指す専門職業分野の人材育成を可能とする方針のもとにカリキュラムを編成しています。

本学の履修科目の単位内訳は次の表の通りです。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では下記の表に掲げる専門課程のコース別の教育目的に従って、目標の欄に掲げている服飾関係の専門的職業で活躍できる人材の育成を目標としています。

入学時にモードテクノロジー系のコースを志望するクラスとファッションビジネス系のコースを志望するクラスに分かれて1年間初年次教育課程の教育を受けますが、その間に服飾造形系とビジネス系の基礎科目で17単位を両系共通の必修科目として履修します。これによって、ビジネスの基礎を知るモードテクノロジーの専門家と服飾造形の基礎を知るファッションビジネスの専門家の素地を培うこととしています。さらに初年次で系ごとに共通の専門基礎必修科目2単位と2年次で専門教育課程のコースに進学した後、モードテクノロジー系の各コースでは10単位、ファッションビジネス系の各コースでは7単位の共通の専門基礎必修科目を履修します。

2年次から4年次までの専門教育課程では、コースごとに専門必修科目35単位ないし38単位の履修を求めています。この専門必修科目は、ファッションビジネス系の2年次では、2つのコースの科目は共通していますが、これ以外は各コース間で同一の必修科目はありません。

さらにコースごとに23単位から29単位の専門選択科目の履修を求めています。以上の専門基礎科目と専門科目を合わせて90単位を履修することでコース別の教育目的と目標を達成することとしています。

また教養科目34単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざしています。

教養科目34単位と専門科目90単位の合計**124単位**を修得することで卒業を認定し、学士（服飾）の学位を授与することとしています。

専門教育課程 コース別教育目的と目標

コース名	目的	目標
①モードクリエイションコース	服飾造形表現に必要とされる知識・技術・感性を修得し、イメージを的確に造形として表現・判断できる能力の育成を目的とする。	ファッション産業の現場で活躍できるデザイナー、パタンナー、縫製技術士などの人材育成を目標とする。
②インダストリアルパターンコース	ファッションの色や素材、人体におけるサイズ等を最も良い状態へ改良しながら個々の人体に対応して、パターン開発できる能力の育成を目的とする。	3D 計測器を使用した人体計測およびアパレル CAD による個々の人体に対応したパターン開発が提案できるパタンナーの人材の育成を目標とする。
③テキスタイルデザインコース	服飾の原材料や素材を理解し、表現技法の修得によってテキスタイルデザイン、設計をもとに自由にテキスタイル作品の制作ができる能力、またニットにおいてはニット CAD システムによるニット作品の制作ができる能力を育成することを目的とする。	創造的なテキスタイルデザイン・設計を通してイメージ通りに表現したテキスタイル作品を制作できる能力によって、ファッション業界において織物デザイナー、ニットデザイナー、プリントデザイナーとして活躍できる人材の育成を目標とする。
④ファッションプロダクトデザインコース	ファッションプロダクトの分野でアイデアを創出する豊かな発想力並びにそのアイデアを具体的な形にする造形力と実際に制作する技術力の育成を目的とする。	バッグ、帽子、アクセサリ、シューズ等ファッション関連製品のデザインなど、プロダクトデザイナーとして広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする。
⑤ファッションビジネス・マネジメントコース	ファッションビジネスにかかわる企画創作能力・企画作成技術力・プレゼンテーション能力の育成を目的とする。	ファッションビジネスを企画・提案でき、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けたマーチャンダイザー等の CCO（チーフクリエイティブオフィサー）となる人材の育成を目標とする。
⑥ファッションビジネス・流通イノベーションコース	SPA（製造小売業）、オムニチャネル（統合販売）など変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と課題解決力などの能力の育成を目的とする。	店舗販売とネット販売の併合した事業運営などファッション流通イノベーションを推進する CMO（チーフマーケティングオフィサー）となる人材の育成を目標とする。

アセスメントポリシー（学修[教育]成果測定の指標）

1. 初年次教育課程の学修成果測定

- ・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後2年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。
- ・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。
- ・表現学科は5つの専攻によって指標を行う。
- ・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

2. 服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

3. 各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

4. 卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次4年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率
- 服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。
- ・卒業年次の3年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の2年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科2年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

5. 就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
- *専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

Ⅱ. 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の1時限は正味45分ですがこれを1時間と計算します。従って1コマ（2時限続き）は90分としています。

1. 講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を1単位とします。

2. 実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を1単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

Ⅲ. 成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	—	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

◆GPA(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をS→4、A→3、B→2、C→1、D→0と点数に置換えて算出するのがGPAです。

$$GPA = (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した科目の総単位数}$$

IV.履修科目単位内訳表

(大学2022年度生)

		修得単位数					
		モードテクノロジー系				ファッションビジネス系	
共通専門基礎必修科目	1年次	17					
	2年次	7					
系別専門基礎必修科目	1年次	4				4	
	2年次	3				0	
コース別専門必修科目		モード 37	インダストリアル 37	テキスタイル 38	プロダクト 35	マネジメント 39	イノベーション 37
	2年次	14	16	12	12	13	
	3年次	14	14	17	14	16	16
	4年次	9	7	9	9	10	8
専門選択科目		22	22	21	24	23	25
専門科目合計		90単位					
教養科目	初年次 キャリア	必修	10				
	一般 体育 国際関係	選択	16				
	外国語	選択必修	8				
教養科目合計		34単位					
総合計		124単位					

■【進級条件】

各学年開講必修科目は、原則全て修得すること。

1年次の共通必修(服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通商業入門、ファッションビジネス概論、ファッション・フィールド・リサーチ、衣服材料学、ファッション画Ⅰ・Ⅱ、ドローイングⅠ)17単位とその他の科目で36単位以上修得しない場合には、2年次のコースに原則進めない。

■【卒業制作・論文履修条件】

1・2年次の必修科目を修得していない場合には、原則コースの専門応用・【卒業制作・論文】を履修できない。

V. コースの概要

モードクリエーションコース

世界に通用するクリエイターを目指し、服飾造形表現に必要とされる知識・技術そして豊かな感性をはぐくみ、イメージしたデザインを服飾造形作品として表現する力と、作品を正しく評価・判断する力、自分の作品をプレゼンする能力を育てていきます。

このコースでは、各自の様々なイメージを的確にとらえ、服飾造形作品として具現化できる能力を修得するために、デザイン考案とデザイン表現テクニック、ドレーピングやパターンメイキング、服飾造形テクニック等を学び、それらを総合して作品を制作する授業を中心としています。特にモードデザインやアパレルCADなど、アパレル業界で活かせる授業によって編成されています。各自の学習の成果はポートフォリオや産学コラボレーション、各種コンテストへの参加で確認することができます。

卒業後は、クリエイター、デザイナー、パターンメーカー、モデリスト、縫製技術者などを目指します。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 ファッション史 服飾デザイン概論	〈実験・実習〉 ドレーピング&パターンメイキング I ドレーピング&パターンメイキング II
〈実験・実習〉 モードクリエーション I モードクリエーション II	モードデザイン I 装飾技法
3 年次	
〈演習〉 アパレル CAD I アパレル CAD II	〈実験・実習〉 ドレーピング&パターンメイキング III ドレーピング&パターンメイキング IV
〈実験・実習〉 モードクリエーション III モードクリエーション IV	モードデザイン II モードデザイン III
4 年次	
〈演習〉 モードデザイン IV	〈実験・実習〉 卒業制作 I (モード) 卒業制作 II (モード)

V. コースの概要

インダストリアルパターンコース

インダストリアルパターンコースは、衣服を理解するために人体を学び、パターンを素材に連動させる役目であるパタンナー（モデリスト）を育成するコースです。3次元計測システムおよび着装シミュレーションを使って、人体における動きを論理的に分析し、快適な衣服設計を行います。工業パターンの制作をCADで行い、1/2大で作品を制作し、様々な素材に適合するパターンを修得します。人体設計、体型分類、サイズ設定など一連の技術を身につけた上で、現代ファッションに即した色彩やコンセプトを考案し、イメージしたデザインを的確に表現できるように学習するコースです。卒業制作はファッションショー形式で行い、各自のコレクションを発表します。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 人体工学設計技術Ⅰ 人体工学設計技術Ⅱ	〈実験・実習〉 インダストリアルパターンⅠ インダストリアルパターンⅡ
〈演習〉 感性産業デザインⅠ 感性産業デザインⅡ	CGデザインⅠ CGデザインⅡ
3年次	
〈演習〉 CAD&3D演習Ⅰ CAD&3D演習Ⅱ 感性産業CADⅠ 感性産業CADⅡ	〈実験・実習〉 インダストリアルパターンⅢ インダストリアルパターンⅣ CGデザインⅢ CGデザインⅣ
4年次	
〈実験・実習〉 卒業制作Ⅰ（インダストリアルパターン） 卒業制作Ⅱ（インダストリアルパターン）	

V. コースの概要

テキスタイルデザインコース

本コースでは繊維を知ることから始まり、糸や布を使ってオリジナルテキスタイル作品を制作します。その過程でデザイン考案、設計理論、制作プロセス、技術を身につけ制作を軸とした科目設定によって、テキスタイルエキスパートの育成を目指しています。具体的には織物、ニット、染色、フェルティングなどの表現技法を学び、制作を通して学修する教育システムを実施しています。

ファッションデザインが同じでも素材が異なれば多様なファッションを提案することも可能です。素材の基礎をしっかりと学び、アパレルテキスタイルの提案、アート作品の提案など、自由な発想で「テキスタイルデザイン・作品」が提案できる人材の育成をしていきます。

目標・・・テキスタイルデザイナー、プリントデザイナー、ニットデザイナー、テキスタイルプランナーの育成

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 素材設計論 I 素材設計論 II	〈実験・実習〉 テキスタイルデザイン I テキスタイルデザイン II ダイイングテクニック I ダイイングテクニック II
3 年次	
〈演習〉 ニッティング I ニッティング II プリントデザイン演習 I プリントデザイン演習 II 画像表現演習 I 画像表現演習 II	〈実験・実習〉 テキスタイルデザイン III テキスタイルデザイン IV ダイイングテクニック III ダイイングテクニック IV 素材分析実験
4 年次	
〈演習〉 テキスタイルデザイン V	〈実験・実習〉 卒業制作 I (テキスタイル) 卒業制作 II (テキスタイル)

V. コースの概要

ファッションプロダクトデザインコース

ファッションプロダクトデザインコースでは、現代の社会的なニーズに対応し、ファッションプロダクト製品のデザイン、商品企画、トレンド情報発信、制作に関わる人材の育成を目指すカリキュラム編成となっています。2年次ではファッションプロダクトデザインの基礎課程と位置づけています。デザインの発想法、描画による表現訓練、製図、デザインモデルの制作技法、素材の特性と制作技術、アイデアを具体的な形にする造形能力を訓練する科目の設定になっています。その他リサーチの目的と分析結果の検証など、本コース3年間の教育課程を通じ核となる学修を行います。

卒業制作では、2・3年次に学んだ事を更に発展させ、作品制作を行います。デザインの対象をより幅広く設定しアイデアを産み出す発想力を鍛え、機能性、装飾性、トレンド性など様々な要素を基に製品化を目指し実物の制作を行う科目の設定となっています。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 ファッションプロダクトデザイン論	〈演習〉 アクセサリーデザイン
〈演習〉 ファッションプロダクトデザイン I ファッションプロダクトデザイン II デザインプロセス	〈実験・実習〉 プロダクトデザイン演習 I デジタルデザインワーク I デジタルデザインワーク II
3年次	
〈演習〉 ファッションプロダクトデザイン III ファッションプロダクトデザイン IV プロダクトデザイン演習 II	〈実験・実習〉 ファッションプロダクトデザインゼミ マテリアル実習 I (金属) マテリアル実習 II (金属) デジタルデザインワーク III
4年次	
〈実験・実習〉 卒業制作 I (プロダクト) 卒業制作 II (プロダクト)	

V. コースの概要

ファッションビジネス・マネジメントコース

このコースの目標は、ファッションビジネスにおける国際的なファッションリーダーの養成です。そこで必要なのは、1) ファッションデザインのセンス、創造力、感性、企画・思考技術、2) 高度知識、コンピューターによる情報収集・発信・分析・判断能力、3) ファッションビジネス・マネジメント能力です。これら3つの観点から、高い「志」を持ち、「夢と希望」に向かってファッション界に貢献できる人材の養成を目指しています。以上3つのコンセプトを融合してファッション業界において新しい価値観を持った考え方がこのコースのスタンスです。

ファッションビジネス・マネジメントコースでは、ファッションビジネスの企画・提案を行い、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けた人材を育成することを目的としたカリキュラム編成となっています。まず2年次では講義を中心に、専門的な基礎知識を学びます。次に3年次では、ファッション・アパレルメーカーでのファッションブランド戦略の現況、商品開発、生産、小売業、店頭販売、それらを展開したグローバル・ビジネスなどを講義形式で学び、さらに特徴的な授業形態として、産学コラボレーションをあげることができます。学生達がグループでバーチャルカンパニーを設立し、自社ブランドを立ち上げ、マーケティング活動、企画立案、新製品（商品）提案、デザイン開発、生産、販売までの一気通貫を企画・提案することを学習します。4年次においては、3年次に学んだことをアカデミックに探究し、企業研究を課題①として調査、分析、考察し、さらに学士論文を課題②として、卒業課題としています。それらの過程において、理論（講義）と実践（ファッションの現場で実学を重視した）、企業間との連携（産学連携によるプロジェクトやバイヤーでの体感実習）による、両面で実務型（実践力）の育成ができるカリキュラム編成になっています。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 消費者行動論 I 企業会計入門 グローバルマネジメント特論 I ファッションマーケティング論	〈演習〉 ビジネスプレゼンテーション技法 ファッションエディトリアル I プレゼミ(マネジメント)
3年次	
〈講義〉 ブランド・マネジメント論 P.R, マネジメント論 新製品(商品)開発論 生産管理論 バイヤーの実践学	〈講義〉 リテールマーチャンダイジング 〈演習〉 「産学連携」プロジェクト演習 I 「産学連携」プロジェクト演習 II
4年次	
〈講義〉 グローバルマネジメント特論 II 店舗開発マネジメント論 ファッションMD評価システム	〈演習〉 卒業論文 I (マネジメント) 卒業論文 II (マネジメント)

V. コースの概要

ファッションビジネス・流通イノベーションコース

このコースは商学・マーケティングの理論を中心に、新しいファッションビジネスのあり方を学びます。イノベーションとは革新の意味です。ファッション産業はとりわけ変化の激しい業界で、SPA（製造小売業）業態への転換の時代を経て、スマートフォンなどで買い物をするネットビジネスが伸びてきました。今後はリアル店舗とネット販売の融合を考えた「オムニチャネル」が重要になってきます。そうした変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と、デジタルマーケティングの知識を使った能力の育成を目標とします。

ユビキタス社会（ネットでいつでも、どこにも、誰とでもつながる）の到来、グローバル化、企業のIoT化、AI（人工知能）の導入などで「働き方」「職種」も大きく変わってきました。コース専門科目では写真の編集やネットビジネスで対応できる文章表現などの実際を学んだ後、メディアやSNS、ファッションアプリなどに特化したファッション流通関連企業への就職、あるいは仲間同士や個人でネットショップを開くことを目指します。

ファッションビジネスでこれから発展するであろう「ファッション・テック」（ファッション×テクノロジー）の実践を体験する授業も行います。新しいテクノロジーを活用した販売方法を考えながら、どのようにしたらファッション製品やサービスが消費者の期待に沿えるのか、売れるのか、心理的作用や行動原則を考え、さらに顧客満足の考え方、顧客とのエンゲージメントを築くことを中心に学ぶゼミ方式が特徴です。最終目標は卒業論文の執筆ですが、コースで学ぶ新しいファッション・マーケティングを理解することは、社会においてもコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の基本となります。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 消費者行動論 I 企業会計入門 グローバルマネジメント特論 I ファッションマーケティング論	〈演習〉 ビジネスプレゼンテーション技法 ファッションエディトリアル I プレゼミ(イノベーション)
3 年次	
〈講義〉 消費者行動論 II 現代流通論 流通イノベーション特講(オムニ、ダイヤモンド) グローバルマーケティング特講 フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	〈演習〉 ファッションエディトリアル II 流通イノベーションゼミ I 流通イノベーションゼミ II
4 年次	
〈講義〉 顧客関係論 ファッションテック論	〈演習〉 卒業論文 I (イノベーション) 卒業論文 II (イノベーション)

VI.服飾学部服飾学科カリキュラム表

(2022年度生)大-1

授業科目名	単位数				履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考	
	講 義	演 習	実 習	共 修	卒業を目的とするもの											前 期	後 期		
					コース別必修														
					モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ア ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス					フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス
服飾造形基礎Ⅰ	3			○													1	6	
服飾造形基礎Ⅱ	3			○													1	6	
流通・商業入門	2			○													1	2	
ファッションビジネス概論	2			○													1	2	
ファッション・フィールド・リサーチ	1			○													1	2又	は2
衣服材料学	2			○													1	2又	は2
西洋服飾文化史	2			○													1	2又	は2
ファッション画Ⅰ	1			○													1	2	
ファッション画Ⅱ	1			○													1	2	
色彩演習	2				○	○	○	○					○				1	2又	は2
ドローイングⅠa	2				○	○	○	○									1	4又	は4
ドローイングⅠb	2								○	○							1	4又	は4
経営学入門	2									○	○	○					1	2又	は2
日本服飾文化史	2			○													2	2又	は2
アパレル素材論	2			○													2	2又	は2
色材演習	1			○													2	2又	は2
マーケティング・データサイエンス論	2			○													2	2又	は2
現代ファッション論	2				○	○	○	○									2	2又	は2
CADパターンメイキング	1				○	○	○	○									2	2又	は2
計	20	15	0																
専門科目(服飾関係)必修科目については、テクノロジー系については31単位、ファッションビジネス系については28単位を修得すること 1年次で必修科目を含む36単位以上取得しないと2年次のコース科目は履修出来ません																			
モードクリエイションⅠ			3	○													2	9	
モードクリエイションⅡ			3	○													2	9	
ドレーピング&パターンメイキングⅠ			1	○													2	3	
ドレーピング&パターンメイキングⅡ			1	○													2	3	
モードデザインⅠ			1	○													2	3	
服飾デザイン概論	2			○													2	2	
装飾技法			1	○													2	3	
ファッション史	2			○									○				2	2又	は2
モードクリエイションⅢ			4	○													3	12	
モードクリエイションⅣ			4	○													3	12	
ドレーピング&パターンメイキングⅢ			1	○													3	3	
ドレーピング&パターンメイキングⅣ			1	○													3	3	
モードデザインⅡ			1	○													3	3	
モードデザインⅢ			1	○													3	3	
アパレルCADⅠ	1			○													3	2	
アパレルCADⅡ	1			○													3	2	
モードデザインⅣ	1			○													4	2	
卒業制作Ⅰ(モード)			4	○													4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
卒業制作Ⅱ(モード)			4	○													4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
インダストリアルパターンⅠ			2		○												2	6	
インダストリアルパターンⅡ			2		○												2	6	
感性産業デザインⅠ			3		○												2	6	
感性産業デザインⅡ			3		○												2	6	
CGデザインⅠ			1		○												2	3	
CGデザインⅡ			1		○												2	3	
人体工学設計技術Ⅰ	2				○												2	2	
人体工学設計技術Ⅱ	2				○												2	2	
インダストリアルパターンⅢ			2		○												3	6	
インダストリアルパターンⅣ			2		○												3	6	
CGデザインⅢ			1		○												3	3	
CGデザインⅣ			1		○												3	3	
CAD&3D演習Ⅰ	1				○												3	2	
CAD&3D演習Ⅱ	1				○												3	2	
感性産業CADⅠ			3		○												3	6	
感性産業CADⅡ			3		○												3	6	
卒業制作Ⅰ(インダストリアル)			3		○												4	9	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
卒業制作Ⅱ(インダストリアル)			4		○												4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可

専服 門飾 科関 目係	授業科目名	単位数		履修方法											配 当 年 次	週時間数		備考	
		講 義	演 習	卒業を目的とするもの												職 業 課 程	学 員 課 程		前 期
				実 験	共 通 必 修	コース別必修					選 択	自 由	資格取得を 目的と するもの						
						モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ッ マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト				フ ァ ッ シ ョ ン ノ ベ ー シ ョ ン	フ ァ ッ シ ョ ン ノ ベ ー シ ョ ン				
	テキスタイルデザイン I		2				○								2	6			
	テキスタイルデザイン II		2				○								2	6			
	ダイニングテクニク I		2				○								2	6			
	ダイニングテクニク II		2				○								2	6			
	素材設計論 I	2					○								2	2			
	素材設計論 II	2					○								2	2			
	テキスタイルデザイン III		2				○								3	6			
	テキスタイルデザイン IV		2				○								3	6			
	ダイニングテクニク III		2				○								3	6			
	ダイニングテクニク IV		2				○								3	6			
	ニットデザイン I	2					○								3	4			
	ニットデザイン II	2					○								3	4			
	プリントデザイン演習 I	1					○								3	2			
	プリントデザイン演習 II	1					○								3	2			
	素材分析実験		1				○								3	3			
	画像表現演習 I	1					○								3	2			
	画像表現演習 II	1					○								3	2			
	テキスタイルデザイン V	1					○								4	2			
	卒業制作 I (テキスタイル)		4				○								4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		
	卒業制作 II (テキスタイル)		4				○								4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		
	ファッションプロダクトデザイン論	2					○								2	2			
	ファッションプロダクトデザイン I	2					○								2	4			
	ファッションプロダクトデザイン II	2					○								2	4			
	デザインプロセス	1					○								2	2			
	アクセサリーデザイン	1					○								2	2			
	デジタルデザインワーク I		1				○								2	3			
	デジタルデザインワーク II		1				○								2	3			
	プロダクトデザイン演習 I	2					○								2	4			
	ファッションプロダクトデザイン III	4					○								3	8			
	ファッションプロダクトデザイン IV	4					○								3	8			
	ファッションプロダクトデザインゼミ		1				○								3	3			
	マテリアル実習 I (金属)		1				○								3	3			
	マテリアル実習 II (金属)		1				○								3	3			
	プロダクトデザイン演習 II		2				○								3	4			
	デジタルデザインワーク III		1				○								3	3			
	卒業制作 I (プロダクト)		4				○								4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		
	卒業制作 II (プロダクト)		5				○								4	15	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		
	消費者行動論 I	2						○	○						2	2			
	ビジネスプレゼンテーション技法	1						○	○						2	2			
	企業会計入門	2						○	○	○					2	2			
	グローバルマネジメント特論 I	2						○	○						2	2			
	ファッションエディトリアル I	2						○	○						2	4			
	ファッションマーケティング論	2						○	○						2	2			
	プレゼミ(マネジement)	2						○							2	2	2		
	プレゼミ(イノベーション)	2								○					2	2	2		
	ブランド・マネジement論	2							(○)						3	2			
	トレンド分析とディレクション制作	2						(○)	(○)	○					3	2			
	P.R.マネジement論	2						○							3	2			
	新製品(商品)開発論	2						○							3	2			
	生産管理論	2							(○)						3	2			
	バイヤーの実践学	2						○	(○)	○					3	2			
	リテールマーチャンダイジング	2						○		○					3	2			
	「産学連携」プロジェクト演習 I		2					○							3	4			
	「産学連携」プロジェクト演習 II		2					○							3	4			
	グローバル・マネジement特論 II	2						○							4	2			
	店舗開発マネジement論	2						○							4	2			
	ファッションMD評価システム	2						○							4	2			
	卒業論文 I (マネジement)		2					○							4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		
	卒業論文 II (マネジement)		2					○							4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		

専 門 科 目	授業科目名	単位数			履修方法											配 当 年 次	週時間数		備 考	
		講	演	実 験	卒業を目的とするもの												前 期	後 期		
					共 通	コース別必修							選 択	自 由	職 業 課 程					学 員 課 程
						モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ・ ア マ ツ シ ョ ン	フ ・ ア マ ツ シ ョ ン	フ ・ ア マ ツ シ ョ ン								
専 門 科 目	消費者行動論Ⅱ	2															3	2		
	現代流通論	2															3	2		
	ファッションエディトリアルⅡ		2														3	4		
	流通イノベーション特講(オムニ、ダイヤモンド)	2															3	2		
	流通イノベーションゼミⅠ		2														3	4		
	グローバルマーケティング特講	2															3	2		
	フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	2															3	2		
	流通イノベーションゼミⅡ		2														3	4		
	顧客関係論	2															4	2		
	ファッションテック論	2															4	2		
	卒業論文Ⅰ(イノベーション)		2														4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	卒業論文Ⅱ(イノベーション)		2														4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	専門コース必修合計	56	69	89																
1, 2年次の必修科目とコース必修科目を取得していない場合は、各コースの卒業制作は履修できません																				
専門科目(服飾関係)のコース必修科目についてはコースのいずれかを選んで上記の○印の単位を修得すること。コース別必修科目を当該コース以外の学生が選択科目として履修した場合、修得単位は卒業の要件に算入する。																				
専 門 科 目	服飾造形応用		2			○											1	4		
	人体工学論	2															1	2		
	現代デザイン論	2															1	2又	は2	
	ファッション販売論	2															1	2又	は2	
	流行論	2															1	2又	は2	
	画像設計演習		1														2	2又	は2	
	ドローイングⅡ			1													2	3又	は3 原則としてドローイングⅠ修得者のみ履修可	
	写真表現演習		1														2	2又	は2	
	立体造形演習		1														2	2又	は2 プログラムコース希望者は履修することが望ましい	
	和服構成論・実習Ⅰ			1													2	3		
	和服構成論・実習Ⅱ			1													2	3		
	衣服管理	2															2	2又	は2	
	染色化学	2															2	2		
	繊維ファッション産業構造論	2															2	2又	は2	
	映像制作			1													2	集中	45h	
	基礎デザイン(平面)		1														2	2	プログラムコース希望者は履修することが望ましい	
	基礎デザイン(立体)		1														2	2	プログラムコース希望者は履修することが望ましい	
	ファッション販売論上級	2															2	2		
	色彩実践学	2															2	2		
	ブライダルファッションプランニングゼミ		2														2	2	2023年新規開講	
	インターンシップ			2													2	集中90h		
																	3	又は集中	又は集中	
	長期インターンシップ			4													2	180h		
																	3	又は180h	又は180h	
	服飾手芸(ニットを含む)			1													3	3又	は3	
	ショップディスプレイ	2															3	2又	は2 プログラムコース履修者は履修することが望ましい	
	服飾クラフト			1													3	3又	は3	
	メディアコミュニケーション論	2															3	2		
	ファッション画(CG)			1													3	3又	は3	
	アパレル産業論特講	2															3	2又	は2 2024年度廃止	
	民族衣裳論	2															3	2又	は2	
	染 織 史	2															3	2		
	ファッションプレゼンテーション演習		2														3	4		
	ドレーピング&パターンメイキング(選)			1													3	3		
	近代日本モード史	2															3	2又	は2	
	リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	2															3	2		
	コミュニケーション論	2															3	2	2024年度廃止	
	ファッション3DモデリングⅠ		1														3・4	4	2024年新規開講 モード・インダストリアルコースのみ履修可	
	ファッション3DモデリングⅡ		1														3・4	4	2024年新規開講 モード・インダストリアルコースのみ履修可	

専 門 科 目	授業科目名	単位数		履修方法										配		週時間数		備考		
		講 義	演 習	実 験	共 通 必 修	卒業を目的とするもの						選 択	自 由	資格取得を 目的と するもの	職 業 課 程	教 育 課 程	当 年 次		前 期	後 期
						コース別必修														
						モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ア ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ・ ア マ ツ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト	フ ・ ア マ ツ シ ョ ン メ ジ ネ ス ト									
専 門 科 目	家庭経営学(家族関係学 及び家庭経済学を含む)	2											○	○		2	2			
	家庭電気・機械	1											○	○		2	1			
	食物学(実践栄養学)	2											○	○		2		2		
	家庭情報処理	1											○	○		2		1		
	食物学(食品学)	2											○	○		3	2			
	住居学(製図を含む)	2											○	○		3		2		
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	2											○	○		3		2		
	食文化論	2											○			3	2			
	食物学(調理実習・実験) I			1									○	○		3	3			
	食物学(調理実習・実験) II			1									○	○		3		3		
	専門選択小計	48	13	16																
	専門科目小計	124	97	105																
	専門科目合計		326																	
専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として 21~25 単位以上を修得すること。																				
専 門 科 目	初年次 学習基礎	2			○											1	2			
	キ ャ リ ア	文章表現	2			○											1	2又	は2	
		情報演習Ⅰ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○											1	2		
		情報演習Ⅱ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○											1		2	
		キャリアプランニング	2			○											2	2又	は2	
	一 般 科 目	社会人基礎A	2											○			1	2		
		社会人基礎B	2											○			1		2	
		心理学A	2											○			1・2	2		
		心理学B	2											○			1・2		2	
		文学	2											○			1	2又	は2	
		日本美術史	2											○		○	1	2又	は2	
		西洋美術史	2											○		○	1	2又	は2	
		憲法	2											○	○		1・2	2又	は2	
		社会福祉学A	2											○			1・2	2		
		社会福祉学B	2											○			1・2		2	
	体 育	化学A	2											○			1・2	2		
		化学B	2											○			1・2		2	
		体育A		1										○	○		1	2又	は2	
		体育B		1										○	○		1・2		2	

授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考				
	講 義	演 習	実 験 実 習	卒業を目的とするもの											教 職 課 程	学 芸 員 課 程		前 期	後 期		
				共 通 必 修	コース別必修						選 択	自 由	学 科 外								
					モ ー ド ド ク リ エ ー シ ヨ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ヨ ン ブ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ヨ ン ビ ジ ネ ス ト	フ ァ ッ シ ヨ ン メ ジ ネ ス ト										フ ァ ッ シ ヨ ン ノ ベ ー シ ヨ ン	フ ァ ッ シ ヨ ン ビ ジ ネ ス ト
言語と服飾文化	2																3・4	2又	は2		
日本文化・日本事情 I	2																	1・3	2		外国人留学生は履修のこと
日本文化・日本事情 II	2																	1・3		2	外国人留学生は履修のこと
英語(総合)A	2																	2	2		
英語(総合)B	2																	2		2	
ワールド・カルチャーA	2																	2	2		
ワールド・カルチャーB	2																	2		2	
国際関係 実用英語 A	2																	2	2		
実用英語 B	2																	2		2	
ファッション英語 A	2																	2	2		
ファッション英語 B	2																	2		2	
フランス語(総合) A	2																	2	2		
フランス語(総合) B	2																	2		2	
ファッションフランス語 A	2																	2	2		
ファッションフランス語 B	2																	2		2	
中国語(総合) A	2																	2	2		
中国語(総合) B	2																	2		2	
中国語(会話) A	2																	2	2		
中国語(会話) B	2																	2		2	
外国語 英語(総合) I	2																	1	2		
英語(総合) II	2																	1		2	
基礎英会話 I	2																	1	2		
基礎英会話 II	2																	1		2	
フランス語(総合) I	2																	1	2		
フランス語(総合) II	2																	1		2	
フランス語(会話) I	2																	1	2		
フランス語(会話) II	2																	1		2	
中国語(総合) I	2																	1	2		
中国語(総合) II	2																	1		2	
中国語(会話) I	2																	1	2		
中国語(会話) II	2																	1		2	
日本語 I	4																	1・3	4		*外国人留学生は下記の欄を参照
日本語 II	4																	1・3		4	*外国人留学生は下記の欄を参照
教養科目合計	102	4																			

教養科目については初年次の「学習基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習 I」「情報演習 II」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれか I～IIまで8単位を修得すること。(母国語を除く)

*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。
 具体的には実力テストの結果に応じて①「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修する
 ②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。
 但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修することができる。

教職課程履修者は教職課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

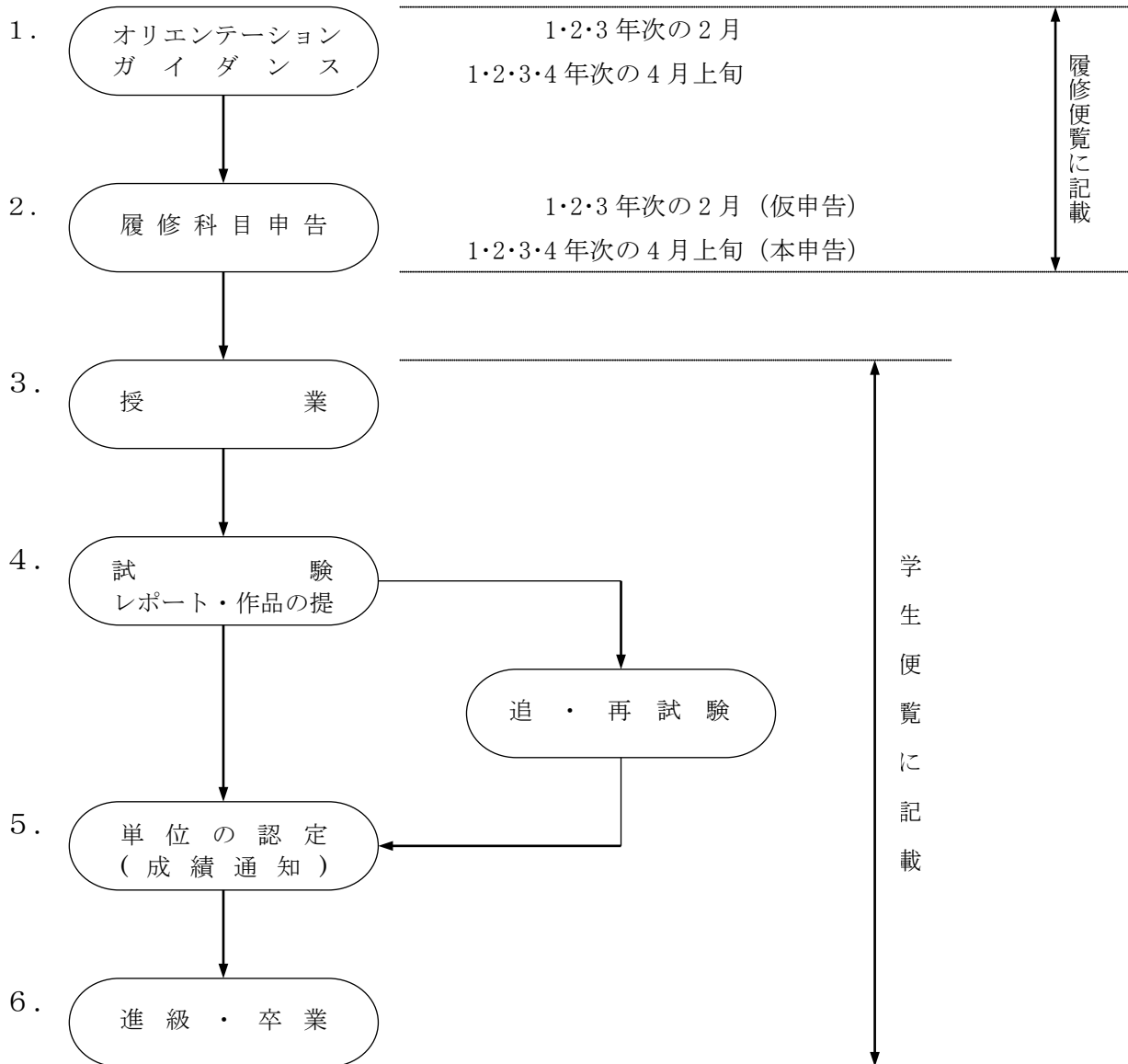
授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考			
	講 義	演 習	実 習	卒業を目的とするもの											教 職 課 程	学 員 課 程		前 期	後 期	
				共 通 必 修	コース別必修						選 択	自 由	教 職 課 程							学 員 課 程
					モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ッ マ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト	フ ァ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト										
教師論	2														○	1	2			
教育心理学	2														○	1	2			
教育制度論	2														○	1	2			
教育原理	2														○	2	2			
教育課程論	2														○	2	2			
特別支援教育概論	2														○	2	2			
道徳の指導法	2														○	2	2			
生徒指導論(進路指導を含む)	2														○	2	2			
教科教育法基礎(家庭)	1														○	2	1			
教育現場でのICT活用	1														○	2	1			
特別活動の指導法	2														○	3	2			
教育方法論	2														○	3	2			
家庭科教育法(基礎)	2														○	3	2			
総合的な学習の時間の指導法	2														○	3	2			
家庭科教育法	2														○	3	2			
教科教育法(家庭)	2	1													○	3	2	模擬授業を含む(集中)		
教育法規	2														(○)	3	2			
教育相談(カウンセリングを含む)	2														○	3	2			
教育実習(事前事後指導を含む)		1	4												○	4	2	他に中・高校で3週間実習		
教職実践演習(中等)		2													○	4	2			
計	34	4	4																	
教職課程履修者は、教職に関する科目必修40単位を修得すること。他に7日以上の期間、介護・介助・交流等の体験が義務づけられている。																				
生涯学習概論	2														○	1	2			
博物館概論	2														○	1	2			
博物館経営論	2														○	2	2			
博物館資料論	2														○	2	2			
博物館資料保存論	2														○	2	2			
博物館展示論	2														○	3	2			
博物館教育論	2														○	3	2			
博物館情報・メディア論	2														○	3	2			
博物館実習			3												○	4	3 3及 集中	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学		
計	16		3																	
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。																				
カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。																				
1)原則として開講学年順とします。																				
2)個々の履修状況に応じて審議決定します。																				
コース選択要件については、別紙に記載してあります。																				

(注) 各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。

VII. 履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



1. オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。(2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施)

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

2. 履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度学期の開始時に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一か年の学習計画を立て、履修することにより名簿・成績原簿等を作成されます。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

1) 《履修申告にあたっての注意事項》

- ① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講(申告)は禁止されています。
- ② 申告した科目以外は試験(レポート、作品等の提出を含む)を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。
- ③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。
- ④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。
- ⑤ 2・3・4年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

2) 《年間履修単位制限(CAP 制度)》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として1年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 50 単位 です。

※資格関係科目(教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目)は履修制限科目から除外されます。

3) 《履修申告の方法》

履修申告は「[学生ポータル](#)」に登録することにより行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力します。

定められた入力期間内に入力します。入力期間内であれば削除・追加が可能です。

ただし、入力期間内であっても、必修科目、外国語科目及びコース別必修科目のキャンセルは、原則として認めません。

- ① 1年次の年度始め
1年次前期に受講する科目をすべて申告してください。
- ② 1・2・3年次の年度末(次年度の受講予定科目の申告のための準備)
これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の計画をたててください。
- ③ 2・3・4年次の年度始め(2年次以降の受講科目を入力)
※ 一部の科目については、人数調整をする場合があります。
- ④ 1・2・3・4年次 後期開始前(9月上旬)
後期開講科目について、申告入力期間に入力してください。

4) 《履修科目申告上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

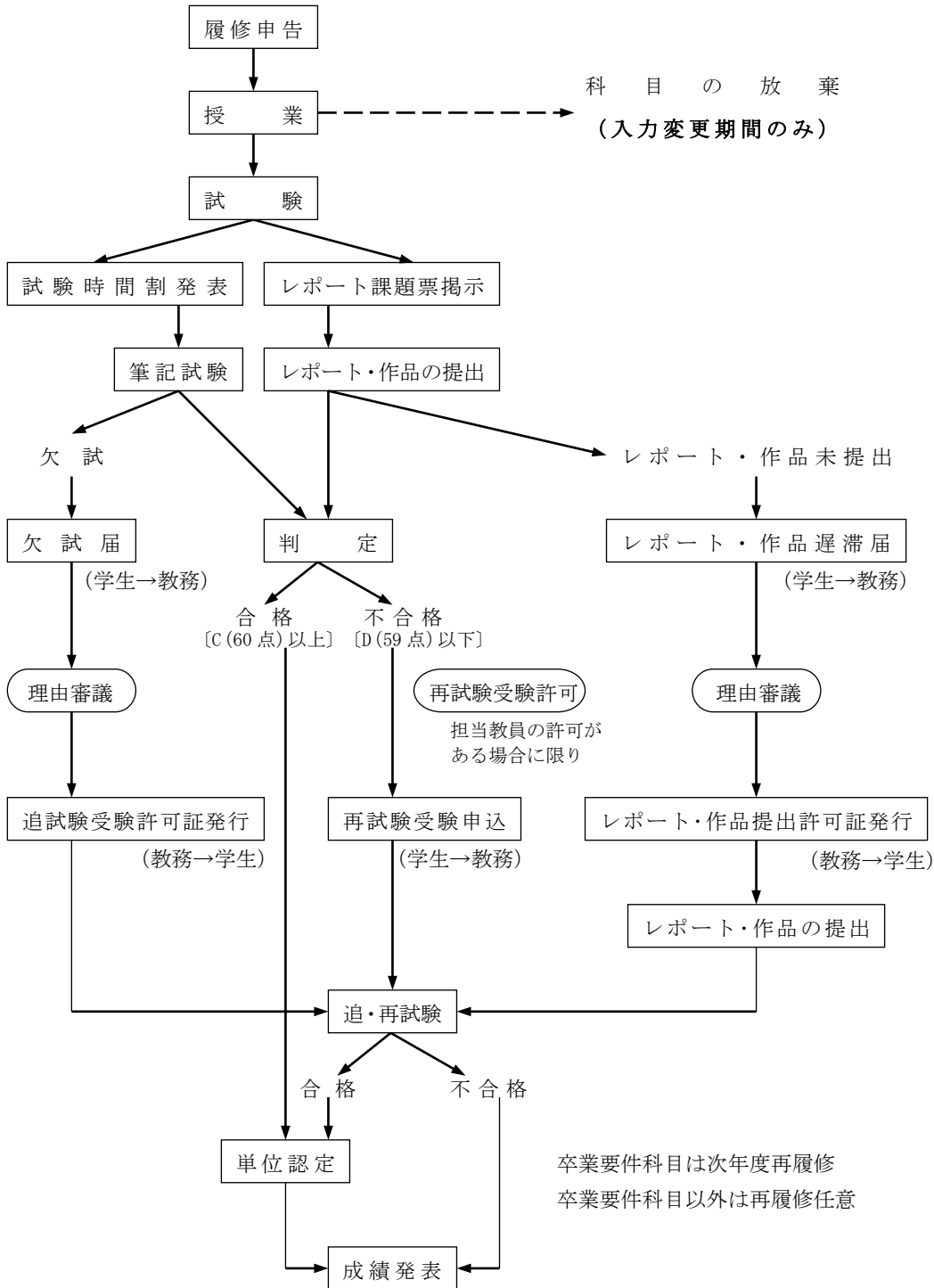
◆入力について

1. 履修科目を確認して入力してください。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程科目も入力してください。
3. 自主ゼミの受講希望者は教務課に申し出てください。
4. 履修単位の表の数字を確認してください。
5. 他学年開講科目(再履修科目等)は各自検索をして入力してください。

《履修科目の放棄について》

- ① 学期初めに本申告をした科目は、一定の入力申告変更期間を設けているため、学期途中で放棄することはできません。 キャンセルをしないまま欠席すると当該科目の成績は不合格となります。また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。

履修科目申告から単位認定まで



VIII. 教職課程について

I 教育職員免許法に基づき、本学で取得できる免許状の種類

免許状の種類	免許教科
中学校教諭一種免許状	家庭
高等学校教諭一種免許状	家庭

II 免許状取得のための基礎条件

- (1) 中学校および高等学校教諭の免許状を取得するために必要な基礎資格と条件は、教育職員免許法第 5 条（別表第一）にその免許状の種類によって第 I 表の通り定められています。
- (2) 「教科に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 3 条・第 4 条により、大学が授業科目と単位数を第 II 表の通り定めています。
- (3) 「教職に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 6 条により、大学が授業科目と単位数を第 III 表の通り定めています。
- (4) 中学校および高等学校教諭の免許状の授与を受けようとする者について、特に必要なものとして文部科学省令で定める科目と単位数については、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 により、大学が授業科目と単位数を第 IV 表の通り定めています。
- (5) 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律（平成 9 年法律第 90 号）により、18 歳に達した後、7 日以上の期間、特別支援学校（旧の盲学校、聾学校若しくは養護学校）又は社会福祉施設などで文部科大臣が厚生労働大臣と協議して定めるものにおいて、障害者、高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験（介護等体験）が義務づけられています。

第 I 表 基礎資格と最低修得単位数

所要資格 免許状の種類		基礎資格	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数		
			教科に関する科目	教職に関する科目	大学が独自に設定する科目
中学校教諭	二種免許状	短期大学士の学位を有すること	12	19	4
	一種免許状	学士の学位を有すること	28	27	4
	専修免許状	修士の学位を有すること	27	27	28
高等学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること	24	23	12
	専修免許状	修士の学位を有すること	24	23	36

第Ⅱ表 教科に関する科目表

(2022年度生)

教科に関する科目	教育職員免許法施行規則に定める最低修得単位数		本学の該当科目										備考			
	(第4条) 中学校 1種	(第5条) 高等学校 1種	授業科目名	必修	履修単位数									教職		
					モード	インダストリアル	テキスタイル	プロダクト	マネジメント	イノベーション	選択	必修		選択		
家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む)	1	1	家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む)											2	2	
			小計											2	2	
被服学 (被服製作実習を含む)	1	1	服飾造形基礎Ⅰ	3												
			服飾造形基礎Ⅱ	3												
			衣服材料学	2												
			アパレル素材論	2												
			和服構成論・実習Ⅰ										1	1		
			和服構成論・実習Ⅱ										1	1		
			衣服管理										2	2		
			服飾手芸(ニットを含む)										1	1		
			モードクリエイションⅠ		3											
			モードクリエイションⅡ		3											
			ドレーピング&パターンメイキングⅠ		1											
			ドレーピング&パターンメイキングⅡ		1											
			感性産業デザインⅠ			3										
			感性産業デザインⅡ			3										
			CGデザインⅠ			1										
			CGデザインⅡ			1										
			ダイニングテクニクⅠ				2									
			ダイニングテクニクⅡ				2									
			テキスタイルデザインⅠ				2									
			テキスタイルデザインⅡ				2									
			ファッションプロダクトデザインⅠ				2									
			ファッションプロダクトデザインⅡ				2									
			プロダクトデザイン演習Ⅰ				2									
			プロダクトデザイン演習Ⅱ				2									
			消費者行動論Ⅰ							2	2					
			グローバルマネジメント特論Ⅰ							2	2					
			ファッションエディトリアルⅠ							2	2					
			ファッションマーケティング論							2	2					
			ドレーピング&パターンメイキングⅣ(選)										1			
			小計	10	8	8	8	8	8	8	8	6	5			
食物学 (栄養学・食品学及び調理実習を含む)	1	1	食物学(実践栄養学)											2	2	
			食物学(食品学)											2	2	
			食物学(調理実習・実験)Ⅰ											1	1	
			食物学(調理実習・実験)Ⅱ											1	1	
			小計											6	6	
住居学	1	1 (製図を含む)	住居学(製図を含む)											2	2	
			小計											2	2	
保育学	1 (実習を含む)	1 (実習及び家庭看護を含む)	保育学 (実習及び家庭看護を含む)											2	2	
			小計											2	2	
家庭電気・機械及び情報処理	0	1	家庭電気・機械											1	1	
			家庭情報処理											1	1	
			小計											2	2	
教科及び教科の指導法 に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目																
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	8	4	教科教育法基礎(家庭)													1
			家庭科教育法(基礎)													2
			家庭科教育法													2
			教科教育法(家庭)													3
			小計													8
合計	28	24	合計	10	8	8	8	8	8	8	8	20	27			

第Ⅲ表 教職に関する科目表

教職に関する 科 目	教育職員免許法施行規則 第6条に定める教職に関する科目			本学の該当科目		
	各科目に含めることが必要な事項	単位数		授業科目名	単位数	
		一種			必修	選択
		中学	高校			
教科及び教科の指導法に関する科目	イ 教科に関する専門的事項 ロ ■各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	28	24	別表 第Ⅱ表	28	24
教職の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ロ 教育の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ホ ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解(1単位以上) ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	10	10	教育原理 教師論 教育制度論 教育法規 教育心理学 特別支援教育概論 教育課程論	2 2 2 2 2 2 2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ■道徳の理論及び指導法(一種:2単位、二種:1単位) ロ 総合的な学習の時間の指導法 ハ 特別活動の指導法 ニ 教育方法及び技術 ホ 情報通信技術を活用した教育の理念及び方法(1単位以上修得) ヘ 生徒指導の理論及び方法 ト 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 チ 進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)の理論及び方法	10	8	道徳の指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育方法論 教育現場でのICT活用 生徒指導論 (進路指導を含む) 教育相談 (カウンセリングを含む)	2 2 2 2 2 2 2 2	
教育実践に関する科目	イ ■教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を2単位まで含むことができる。)(5単位) ロ ■教育実践演習(2単位)	7	5	教育実習(事前事後指導を含む) 教職実践演習(中等)	5 2	
大学が独自に設定する科目						
合 計		55	47	合 計	61	2

第IV表 その他に関する科目表

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める最低修得単位	中学校1種・高等学校1種免許状取得のための最低修得単位数	本学の該当科目			備考
		授業科目名	単位数	履修方法	
日本国憲法	2	憲法	2		
体 育	2	体育 A 体育 B	1 1		
外国語 コミュニケーション	2	基礎英会話 I 基礎英会話 II フランス語（会話） I フランス語（会話） II 中国語（会話） I 中国語（会話） II	2 2 2 2 2 2	いずれか 4単位を 選択履修	
数理、データ活用及び 人工知能に関する科目 又は情報機器の操作	2	情報演習 I（学修ポートフォリオを含む） 情報演習 II（学修ポートフォリオを含む）	2 2		

【履修申告にあたり】

大学における教員養成には、教員養成を目的とした国立大学を中心とした「目的大学」と、教員養成を主たる目的としないで、文部科学省から課程認定をうけた教職課程を別に設け、教員の免許状が取得できる「一般大学」とがあります。

本学は勿論後者ですが、一般大学には目的大学にはないその大学独自の教員養成が求められています。

本学は服飾学部・服飾学科の単科大学で、教員養成の課程認定は高等学校教諭一種免許状「家庭」と中学校教諭一種免許状「家庭」の養成機関として認可を受けています。同じ「家庭」教員養成機関でも大学によって専門のバックグラウンドには違いがあります。本学は「服飾学」を専門の中心においております。その専門に加え、中学校・高等学校で指導する「家庭経営学」「食物学」「住居学」「保育学」「家庭電気機械及び情報処理」といった科目を履修していきます。これが前ページの第II表の「教科に関する科目表」の科目です。

第III表の「教職に関する科目表」は、中・高等学校の各教科免許状取得を目指す学生が共通に学ぶ科目です。大学によって授業科目名は違いますが、表の「各科目に含めることが必要な事項」が各学習内容です。教科指導同様、教科外の指導や教員としての姿勢、態度の育成が目的となります。

第IV表の「その他に関する科目表」も、現在教員に求められる4領域の科目です。履修申告の際には、申告忘れないように注意してください。

【本学が養成したい教員像】

上記のように、本学は教員養成の「目的大学」ではなく教職課程を認可された「一般大学」ですが、本学の教員養成の姿勢は「目的大学」に期待される養成と同じく、責任・監督官庁である文部科学省や社会の要請・期待に応えるべく、優れた教員の育成を目指しています。

よって、平易な言い方ですが、1年生の教職課程履修希望者の履修動機は、資格だけほしいとか他者の勧めで履修したとか様々でしょうが、本学の教職課程は、教員職に就くか就かないかは本人の問題ですが、「教員」になることを前提とした教育を行っています。すなわち「教科に関わる科目」を通して、中等教育における「家庭科教育」の重要性と知識を伝え、「教職に関わる科目」を通して、「教員として、家庭科教員として求められる資質の養成と向上」を4年間を通して行っています。履修者の立場でその教員像を示すなら、家庭科教員としては「家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項」について専門的な知識と技能を身につけます。また「教員として求められる知識」を習得し、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」他などの汎用的技能を身につけている教員を目指します。さらに教員の態度として求められる、自ら律して行動できる「自己管理能力」、他者と協調して行動できる「チームワーク力」、「リーダーシップ性」、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる「倫理観」、社会の一員としての「社会的責任感」、生涯を通しての「学習力」などを全学的な学習環境、教職課程の教科、特に教職課程での諸活動を通して身につけます。

免許取得後については、必ずしも学校教育に携わることがすべてではありません。自己評価、他者評価を通して、学校教育の教員としての適正があるかを確認、社会人、民間企業でも教職課程の学習を活かせればよいとも考えています。また善き学校理解者として学校教育外から「教育」を支援できることも教職課程での成果と考えています。

教職課程の履修にあたり、上記を理解し、前向きな姿勢で履修し専門教育と両立させてください。

【本学の教員養成の理念を実現するための教職課程指導体制】

本学では、「杉野服飾大学教職委員会規程」のもと全学的な指導体制を構築する為に、委員会構成メンバーは、「学部長」「教育職員免許法が規定する「教職に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教育職員免許法が規定する「教科に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教務部長」「その他学長が必要と認めた者」から構成されています。本年度は11名で運営しています。年度内に委員会を4回開催し、教職課程の運営上の問題に関する事項、教職課程で実施する諸活動に関する事項、教育実習・介護等体験の許可等に関する事項、その他教職課程に関する事項について審議・報告・情報交換を行い、教授会に報告しています。特に教育実習校訪問指導は、全実習校を対象に実施しているので全学的な協力を要請しています。今後皆さんが履修を進めて行く上で、委員会で半期ごとに履修状況を確認して指導をしていきます。詳しくは後述（「教職課程履修に関わる注意事項」）しますので、あらかじめ内容を理解しておいてください。

【履修モデル】

1年生4月、7月に開催する教職課程説明会で「杉野服飾大学 教職関連科目及び教職諸活動一覧」を用いて説明します。出席も履修条件ですので、必ず出席してください。

教職課程履修に関わる注意事項

1年生①後期の履修開始前に実施する前期末の「教職課程説明会」と後期始めの「教職課程履修説明会」に必ず出席すること。

②後期開講科目の「教師論」「教育心理学」「教育制度論」のいずれか1科目が不合格になると、原則として2年次以降の教職課程は履修できない。1年次の3科目の合格をもって2年次の科目を履修できる。よって1年次科目の再履修の場合は卒業時に免許状取得が不可能となる。

2年生 下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4年次の中学校・高等学校での「教育実習」の依頼活動を許可する。この時点で不許可の者は、4年生開講の「教育実習」は履修できない。

3年生①「教壇模擬演習」を実施する。

②下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4年次の教育実習を許可する。この時点で不許可の者は4年生開講の「教育実習」は履修できない。

4年生 教員免許状取得に必要な全ての修得単位、「介護等体験」「教育実習」の実施を確認の上、本学から東京都教育委員会に免許状申請する。免許状は本学卒業式に授与する。

★ 教育職員免許状を取得するためには、必修・専門科目などの履修に加えて、卒業時までに教職に関する（教科・教職）科目を62単位以上修得することが必要です。心身共に余裕を持ち、全学年を通じて明確な意志を継続し、全ての授業に臨むこと。

教育実習許可要件

1. 教職委員会が許可する者

- ① 1・2年次における必修科目、3年次におけるコース別必修科目、教養科目の単位の修得状況を参考にする。
- ② 教育実習実施までの教職に関する（教科・教職）科目の履修状況、及び教職課程諸活動へのかわり方を参考にする。
- ③ 編入生及び科目等履修生については上記①②に準じて個別に検討する。

2. 教職課程履修費を納入済みの者

博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を發揮することが期待されています。

学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

(平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋)

学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

博物館法（平成26年6月4日最終改正より一部抜粋）

（この法律の目的）

第1条 この法律は、社会教育法に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2. この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。
3. この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

（博物館の事業）

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- 1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
 - 7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - 10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
2. 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員、その他の職員）

第4条 博物館に、館長を置く。

2. 館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
3. 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4. 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
5. 博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
6. 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
2. 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

I. 大学における資格取得のための基礎条件

上記、博物館法第5条（1）に規程されている通りです。

II. 学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第1条に次のように規定されています。（平成27年10月2日最終改正）

科目名	単位数	ね ら い	内 容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の意義 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育 ・生涯学習関連施策の動向 ・社会教育の意義 ・社会教育の内容・方法・形態 ・社会教育指導者 ・社会教育施設の概要 ・学習情報提供と学習相談の意義
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の定義 ・博物館の歴史 ・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性) ・博物館の現状 ・学芸員の役割 ・博物館の館種・設置者 ・博物館関係法規
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム・マネージメントの必要性 ・博物館倫理 ・博物館の行財政制度 ・博物館の施設・設備 ・博物館の組織 ・博物館の職員 ・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等) ・博物館の財務、資金調達 ・マーケティング、広報・宣伝 ・博物館利用者の把握 ・博物館の危機管理 (リスクマネージメント) ・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等) ・博物館のネットワーク
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の収集 ・博物館資料の整理保管 ・博物館資料の保存 ・博物館資料の展示 ・博物館における調査研究活動の意義と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館保存科学の意義 ・資料保存の諸条件とその影響(温湿度・光・振動・大気など) ・収蔵庫と展示室の保存環境 ・伝統的保存方法とIPM ・生物被害の防除と対策 ・資料と環境の点検と記録(機器に対する知識を含む) ・災害の防止と対策(火災・地震・水害・盗難など) ・資料の現状の調査と把握 ・資料の修復 ・資料の移動(梱包と輸送の方法と知識)
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の意義 ・展示の歴史 ・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作 ・業者の評価・効果の検証及び改善方法 ・展示の技術と効果 ・博物館展示の情報伝達機器 ・展示解説書の製作(展示図録・パンフレット等) ・展示活動と情報
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の本質及び目標 ・生涯発達と教育 ・博物館教育の意義と方法 ・博物館教育の理念と理論(コミュニケーション、構成主義等) ・教育活動の企画と実施 ・博物館教育の諸形態(展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等) ・教育普及とコミュニケーション ・博物館と学校との連携 ・生涯学習と博物館 ・博物館教育の評価の目標と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開課題等について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館における情報の意義 ・資料収集保管活動と情報 ・研究活動と情報 ・博物館における情報の提供と活用の方法 ・博物館における情報機器 ・博物館における著作権 ・資料公開の理念(アクセス権)と方法(IT技術等を用いた広報発信等を含む) ・博物館における情報管理と情報公開 ・ICT社会の中の博物館 ・博物館における情報化の現状と課題 ・博物館のホームページ ・コレクション情報のデータベース化とネットワーク化
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館種の実態や学芸員の業務の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の取扱い、展示、博物館の運営等についての学内(見学を含む)及び博物館における実習。事前・事後の指導を含む。

- 1) 博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するものとする。
 - 2) 「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。
2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授 業 科 目 名	
文 化 史 美 術 史 考 古 学 民 俗 学 自 然 科 学 史 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第1条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
規定科目	単位数				
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第6条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
系	列				
選択	文化史	2 履修 系列 以上 に わ た り	現代デザイン論	2	
			西洋服飾文化史	2	
			日本服飾文化史	2	
			染織史	2	
			ファッションプレゼンテーション演習	2	
	美術史		西洋美術史	2	
			日本美術史	2	

X. 授業計画

【整理番号】

- | | | | |
|------|-------------------|------|-----------------------|
| 【1】 | モードクリエイションⅢ | 【47】 | 流通イノベーション特講 |
| 【2】 | モードクリエイションⅣ | 【48】 | 流通イノベーションゼミⅠ |
| 【3】 | ドレーピング&パターンメイキングⅢ | 【49】 | グローバルマーケティング特講 |
| 【4】 | ドレーピング&パターンメイキングⅣ | 【50】 | フィールドリサーチ実践論(国内、海外) |
| 【5】 | モードデザインⅡ | 【51】 | 流通イノベーションゼミⅡ |
| 【6】 | モードデザインⅢ | 【52】 | 服飾手芸(ニットを含む) |
| 【7】 | アパレルCADⅠ | 【53】 | ショップディスプレイ |
| 【8】 | アパレルCADⅡ | 【54】 | 服飾クラフト |
| 【9】 | インダストリアルパターンⅢ | 【55】 | インターンシップ |
| 【10】 | インダストリアルパターンⅣ | 【56】 | 長期インターンシップ |
| 【11】 | CGデザインⅢ | 【57】 | メディアコミュニケーション論 |
| 【12】 | CGデザインⅣ | 【58】 | ファッション画(CG) |
| 【13】 | CAD&3D演習Ⅰ | 【59】 | 民族衣裳論 |
| 【14】 | CAD&3D演習Ⅱ | 【60】 | 染織史 |
| 【15】 | 感性産業・CADⅠ | 【61】 | ファッションプレゼンテーション演習 |
| 【16】 | 感性産業・CADⅡ | 【62】 | ドレーピング&パターンメイキング(選) |
| 【17】 | テキスタイルデザインⅢ | 【63】 | 近代日本モード史 |
| 【18】 | テキスタイルデザインⅣ | 【64】 | リテールビジネスにおけるVMDマネジメント |
| 【19】 | ダイイングテクニクⅢ | 【65】 | ファッション3DモデリングⅠ |
| 【20】 | ダイイングテクニクⅣ | 【66】 | ファッション3DモデリングⅡ |
| 【21】 | ニットイングⅠ | 【67】 | 食物学(食品学) |
| 【22】 | ニットイングⅡ | 【68】 | 住居学(製図を含む) |
| 【23】 | プリントデザイン演習Ⅰ | 【69】 | 保育学(実習及び家庭看護を含む) |
| 【24】 | プリントデザイン演習Ⅱ | 【70】 | 食文化論 |
| 【25】 | 素材分析実験 | 【71】 | 食物学(調理実習・実験)Ⅰ |
| 【26】 | 画像表現演習Ⅰ | 【72】 | 食物学(調理実習・実験)Ⅱ |
| 【27】 | 画像表現演習Ⅱ | 【73】 | 言語と服飾文化 |
| 【28】 | ファッションプロダクトデザインⅢ | 【74】 | 日本文化・日本事情Ⅰ |
| 【29】 | ファッションプロダクトデザインⅣ | 【75】 | 日本文化・日本事情Ⅱ |
| 【30】 | ファッションプロダクトデザインゼミ | 【76】 | 日本語Ⅰ |
| 【31】 | マテリアル実習Ⅰ(金属) | 【77】 | 日本語Ⅱ |
| 【32】 | マテリアル実習Ⅱ(金属) | 【78】 | 特別活動の指導法 |
| 【33】 | プロダクトデザイン演習Ⅱ | 【79】 | 教育方法論 |
| 【34】 | デジタルデザインワークⅢ | 【80】 | 家庭科教育法(基礎) |
| 【35】 | ブランド・マネジメント論 | 【81】 | 総合的な学習の時間の指導法 |
| 【36】 | トレンド分析とディレクション制作 | 【82】 | 家庭科教育法 |
| 【37】 | P.R.マネジメント論 | 【83】 | 教科教育法(家庭) |
| 【38】 | 新製品(商品)開発論 | 【84】 | 教育法規 |
| 【39】 | 生産管理論 | 【85】 | 教育相談(カウンセリングを含む) |
| 【40】 | バイヤーの実践学 | 【86】 | 博物館展示論 |
| 【41】 | リテールマーチャンダイジング | 【87】 | 博物館教育論 |
| 【42】 | 「産学連携」プロジェクト演習Ⅰ | 【88】 | 博物館情報・メディア論 |
| 【43】 | 「産学連携」プロジェクト演習Ⅱ | | |
| 【44】 | 消費者行動論Ⅱ | | |
| 【45】 | 現代流通論 | | |
| 【46】 | ファッションエディトリアルⅡ | | |

モードクリエーションⅢ

安部 智子・中村 枝里子・設水 彩加

3年 前期 モード必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

1、2年次の学修を基に、コースの目標である「服飾造形表現に必要なとされる知識・技術・感性を修得し、イメージを的確に造形として表現・判断できる能力を修得する」ために、テーマごとに各自の考えを明確にまとめ、服飾造形作品として完成させます。授業は実習を主とするアクティブ・ラーニングで展開し、完成作品は縫製仕様書、制作プロセスをまとめた資料と共にプレゼンテーションを行い、思考を言語化する能力を養います。各種コンテストやプロジェクトなどに積極的に参加します。

■到達目標（学修成果）

応用としてのパターンや縫製の知識と技術を修得することで、イメージを服飾造形作品としてつくり上げる「創作力」を身につけることが可能となります。また、作品制作プロセスを通して課題解決の考え方を修得することができようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はモードクリエーションコース専門科目（服飾関係）の必修科目として卒業認定に関わる科目です。デザインとパターン、縫製テクニックや素材の知識など、服飾造形に関わる科目を総合的に考察し具現化する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 1,2年次に学修した基礎的なパターンと縫製方法の復習と確認 知的財産権について考える	予習：シラバスを読む 復習：服飾造形の基礎となる知識と技術を再確認する	60分
2回	課題1 ファンデーション作成 人体の採寸方法、ファンデーションの理解と補正実習	予習：人体の採寸法の確認 復習：ファンデーションを完成させる	60～90分
3回	課題1 ファンデーション作成実習 課題2 パターン研究1 身頃続きの袖制作実習	予習：身頃続きの袖のパターンを調べる 復習：パターンを完成させ制作する	60～90分
4回	課題2 パターン研究1 身頃続きの袖制作実習 検討会 作品1 パターンから発想した作品① 作品制作実習	予習：検討会の準備をする デザインを考案する 復習：パターンを完成させる	60～90分
5回	作品1 パターンから発想した作品② 作品制作実習 途中経過確認、個別ディスカッション→実物制作	計画にあわせ作品制作を進める	60～90分
6回	作品1 パターンから発想した作品③ 作品制作実習 途中経過確認、個別ディスカッション→実物制作	計画にあわせ作品制作を進める	60～90分
7回	作品1 パターンから発想した作品④ 作品制作実習 途中経過確認、個別ディスカッション→実物制作→完成	計画にあわせ作品制作を進める	60～90分
8回	作品1 パターンから発想した作品⑤ 実物制作→完成 プレゼンテーション・講評	予習：作品制作を進め、完成させる 資料をまとめ、プレゼンテーションの準備	60～90分
9回	課題3 デザイン発想実習	復習：考案したデザインをまとめる	60～90分
10回	作品2 装飾技法を取り入れた作品① 作品制作実習 デザイン考案→パターン→トワル補正→サンプル確認	予習：装飾技法について調査しデザイン考案 復習：パターン作成	60～90分
11回	作品2 装飾技法を取り入れた作品② 作品制作実習 制作準備→実物制作→途中経過確認 個別ディスカッション	途中経過確認を踏まえ、計画にあわせ作品制作を進める	60～90分
12回	作品2 装飾技法を取り入れた作品③ 作品制作実習 途中経過確認 個別ディスカッション→制作	途中経過確認を踏まえ、計画にあわせ作品制作を進める	60～90分
13回	作品2 装飾技法を取り入れた作品④ 作品制作実習 制作→途中経過確認 個別ディスカッション	途中経過確認を踏まえ、計画にあわせ作品制作を進める	60～90分
14回	作品2 装飾技法を取り入れた作品⑤ 作品制作実習 制作→途中経過確認 個別ディスカッション→完成	途中経過確認を踏まえ、計画にあわせ作品を完成させ、資料をまとめる	60～90分
15回	作品2 装飾技法を取り入れた作品プレゼンテーション・講評 作品3 大学祭にむけた作品（グループワーク）前期のまとめ	予習：プレゼンテーション資料作成 復習：夏期休業中の課題を検討する	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

作品、課題、プレゼンテーションに対しては、個別のディスカッションや講評を行いフィードバックします。

事前調査やレポート、プレゼン資料などの提出は、学内システム manaba を使用します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢(出欠を含む)	30%	出席状況、課題への取り組み状況、課題の提出状況は必ず評価に含めます。
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%	作品は創作力(イメージをかたちにする力)を重視して採点する。 提出課題の完成度・プレゼンテーション能力も評価対象とする。
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 必要に応じプリントを配布します。

■参考文献 ドレメ原型、PATTERN MAKING I II、SEWING I II III IV、基礎テキスト、杉野服飾大学 Online text 服飾造形編等

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：第1回目の授業で指示します。

研究室： 研究棟 3F 6032A (中村) 6032B (設水) 6033 (安部)

■備考 日程および予定は、授業進度などにより、変更することもあります。

準備学修の必要時間はあくまで目安であって、各自課題の進捗状況にあわせ必要な時間を確保してください。

モードクリエーションⅣ

安部 智子・中村 枝里子・設水 彩加

3年 後期 モード必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

前期に引き続き、授業は実習を主とするアクティブ・ラーニングで展開する。テーマごとに考えをまとめ、服飾造形作品として完成させ、制作プロセスをまとめた資料と共にプレゼンテーションを行います。後期は次年度の卒業制作を視野に入れ、各自の研究テーマを意識しながら服飾造形の知識や技術を深めます。コンテストやプロジェクト、大学祭にも積極的に参加します。

■到達目標（学修成果）

応用としてのパターンや縫製の知識と技術を修得することで、イメージを服飾造形作品としてつくり上げる「創作力」を身につけることが可能となります。また、作品制作プロセスを通して課題解決の考え方を修得することができるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はモードクリエーションコース専門科目（服飾関係）の必修科目として卒業認定に関わる科目です。デザインとパターン、縫製テクニックや素材の知識など、服飾造形に関わる科目を総合的に考察し具現化する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	作品3 大学祭にむけた作品（グループワーク）作品制作実習 夏期課題を確認→ディスカッション→制作	予習：シラバスを読む 計画にあわせ 作品制作を進める	60～90分
2回	作品3 大学祭にむけた作品（グループワーク）作品制作実習 途中経過確認→ディスカッション→制作	途中経過確認を踏まえ、計画にあわせ作 品制作を進める	60～90分
3回	作品3 大学祭にむけた作品（グループワーク）作品制作実習 途中経過確認→ディスカッション→制作	計画にあわせ作品制作を進める 作品制作を進め完成させる	60～90分
4回	作品3 大学祭にむけた作品（グループワーク）完成 大学祭 で完成作品の共同展示を行う 課題造形技法研究②準備	予習：大学祭の展示プランを考える 復習：課題4の準備を完成させる	60～90分
5回	課題4 パターン研究②（グループワーク）既製品からパタ ーンを学ぶ 縫製方法の確認→パターン調査	計画にあわせ課題を完成させる	60～90分
6回	課題4 パターン研究②（グループワーク）既製品からパタ ーンを学ぶ 縫製方法の確認→パターン調査	予習：ファンデーションを作成する	60～90分
7回	課題5 造形技法研究 素材による縫製方法研究 実習	予習：テーマの検討とデザイン考案 復習：パターンを完成させる	60～90分
8回	課題5 造形技法研究 素材による縫製方法研究 実習	計画にあわせ作品制作を進める	60～90分
9回	作品4 各自のテーマに沿った作品 作品制作実習 テーマのディスカッション→テーマ決定→調査・	予習：各自のテーマを検討しリサーチを 行い、結果をまとめる	60～90分
10回	作品4 各自のテーマに沿った作品 作品制作実習 途中経過確認（個別ディスカッション）→制作	途中経過確認を踏まえ、計画にあわせ作 品制作を進める	60～90分
11回	作品4 各自のテーマに沿った作品 作品制作実習 途中経過確認（個別ディスカッション）→制作	途中経過確認を踏まえ、計画にあわせ作 品制作を進める	60～90分
12回	作品4 各自のテーマに沿った作品 作品制作実習 途中経過確認（個別ディスカッション）→制作	作品制作を進め完成させる 予習：資料 をまとめプレゼンテーションの準備	60～90分
13回	作品4 各自のテーマに沿った作品 作品制作実習 途中経過確認（個別ディスカッション）→制作	予習：既製品のパターンをリサーチする 復習：パターン調査を進める	60分
14回	作品4 各自のテーマに沿った作品 作品制作実習 途中経過確認（個別ディスカッション）→制作	復習：調査結果をまとめる 予習：プレゼンテーション資料作成	60分
15回	作品4 各自のテーマに沿った作品 制作→完成 プレゼン テーション・講評 後期のまとめ・卒業制作に向けて	復習：3年次の課題を振り返り、4年次 の卒業制作についてまとめる	60～90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

作品、課題、プレゼンテーションに対しては、個別のディスカッションや講評を行いフィードバックします。
事前調査やレポート、プレゼン資料などの提出は、学内システム manaba を使用します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、作品や課題への取り組み状況及び提出状況は必ず評価に含めます。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品は創作力（イメージをかたちにする力）を重視して採点します。 提出課題の完成度・プレゼンテーション能力も評価対象とします。
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 必要に応じ資料を適宜配布します。

■参考文献 ドレメ原型、PATTERN MAKING I II、SEWING I II III IV、基礎テキスト、杉野服飾大学 Online text 服飾造形編
その他逐次紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：第1回目の授業で指示します。

研究室： 研究棟 3F 6032A（中村） 6032B（設水） 6033（安部）

■備考 日程および予定は、授業進度などにより、変更することもある。

準備学修の必要時間はあくまで目安であって、各自課題の進捗状況にあわせ必要な時間を確保して欲しい。

ドレーピング& パターンメイキングⅢ

高橋 彩香

3年 前期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

立体上で形を見る目を養い、将来自由な発想を形にするために、基本訓練をする。

二年次で学んだドレーピング（立体裁断）と、平面上で立体を考慮しながら製図を操作するパターンメイキングとの兼ね合いを基に、服作りの基礎となる原型からの展開方法・的確な操作・作業を実習により身に付ける。

■到達目標（学修成果）

立体と平面の両面の兼ね合いをつかみ、効率の良い服作り方法の習得を目指す。ブラウス原型が作れるようになる。またブラウスのパターンメイキングができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエイションコースの卒業認定に必修な科目で、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【実習・課題】 応用スカートのドレーピング	予習（準備）：スカート丈天竺の用意 復習：1回目の終了段階までの授業課題内容の完了	30分
2回	【実習・課題】 応用スカートのドレーピング	復習：2回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10～30分
3回	【実習・課題】 応用スカートのパターンメイキング	復習：3回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：スカートの天竺・タイトスカートパターン用意	40分
4回	【実習・課題】 プリンセスライン原型のパターンメイキング	復習：4回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：ドレス原型パターン・天竺用意	10～30分
5回	【実習・課題】 プリンセスライン原型のパターンメイキング	復習：5回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：次回の準備	10～30分
6回	【実習・課題】 シルエット原型のパターンメイキング	復習：6回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：プリンセス原型パターン・天竺用意	30分
7回	【実習・課題】 応用ブラウスのパターンメイキング 前後身頃・衿	復習：7回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：シルエット原型パターン・天竺用意	30分
8回	【実習・課題】 応用ブラウスのパターンメイキング 袖	復習：8回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：袖の原型パターン・天竺用意	10分
9回	【実習・課題】 応用ブラウスのドレーピング 前後身頃	復習：9回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：ブラウスの天竺用意	30分
10回	【実習・課題】 応用ブラウスのドレーピング ヨーク・衿	復習：10回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：ヨーク・衿天竺用意	10分
11回	【実習・課題】 応用ブラウスのドレーピング 袖	復習：11回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：袖の天竺用意	10分
12回	【実習・課題】 応用ブラウスのドレーピング 袖付け	復習：12回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10～30分
13回	【実習・課題】 ワンピースのドレーピング	復習：13回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：ワンピースの天竺用意	30分
14回	【実習・課題】 ワンピースのドレーピング	復習：14回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10～30分
15回	【実習・課題】 ワンピースのパターンメイキング	復習：15回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：プリンセス原型パターン・天竺用意	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で課題を点検し、その場で学生に対して個別指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

立体裁断 「基本理論」

小山千暁他著

(有)cfk1991

立体裁断 「基本理論から応用」

小山千暁他著

(有)cfk1991

■参考文献

「ジャケット&コート」

小山千暁他著

(株)アミコファッションズ

「工業用パターンガイドブック」

小山千暁他著

〃

■オフィスアワー・研究室

第2校舎 2402 教室 金曜日 13:00～14:30

【連絡研究室】ドレーピング&パターンメイキング研究室（第3校舎1階 3106 教室）

■備考

授業に必要なテキスト・道具・組立などの準備は必ず時間前に用意すること。

ドレーピング& パターンメイキングⅣ

高橋 彩香

3年 後期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

将来の目標、デザイナー、パターンメーカー、マーチャンダイザーなどの仕事内容を理解し、ファッション業界に順応できるよう、前期で学んだ基礎からの応用方法・考え方・展開方法・技術を基に、ジャケットという最も大切なアイテムを通して、さらに発展・応用させる方法を学びます。パターンメーカーの実務経験を活かし工業用パターンの展開方法までを学習します。

■到達目標（学修成果）

理論と合わせて立体上で服のシルエットの良否を判断する目を養うことを目標とする。ジャケット原型の作成、そこからジャケットへの応用ができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエイションコースの卒業認定に必修な科目で、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【実習・課題】ジャケット原型のパターンメイキング 身頃組立	予習（準備）：プリンセス原型パターン・身頃天竺用意 復習：1回目の終了段階までの授業課題内容の完了	40分
2回	【実習・課題】ジャケット原型のパターンメイキング 袖・JK原型トレース	予習（準備）：袖天竺用意 復習：2回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10～30分
3回	【実習・課題】ジャケット原型の展開 身頃に肩パットを入れる展開方法	予習（準備）：身頃天竺用意 復習：3回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10分
4回	【実習・課題】ジャケット原型の展開 袖に肩パットを入れる展開方法	予習（準備）：袖天竺用意 復習：4回目の終了段階までの授業課題内容の完了	30分
5回	【実習】ジャケットの応用デザイン展開 身頃の展開①	予習（準備）：肩パット入り身頃パターン・身頃天竺用意 復習：5回目の終了段階までの授業課題内容の完了	30分
6回	【実習・課題】ジャケットの応用デザイン展開 身頃②	復習：6回目の終了段階までの授業課題内容の完了	30分
7回	【実習・課題】ジャケットの応用デザイン展開 二枚袖のパターン作成 袖付け	復習：7回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：袖天竺用意	10分
8回	【実習・課題】ジャケットの応用デザイン展開 衿のパターン作成	復習：8回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：衿天竺用意	10～30分
9回	【実習】工業用パターン作成 表衿 見返し 裏地 縫い代付け	復習：9回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：ジャケットパターン用意2セット	30分
10回	【実習】テーラードジャケットのドレーピング 前後身頃	復習：10回目の終了段階までの授業課題内容の完了 予習（準備）：身頃・袖・衿の天竺用意	20分
11回	【実習】テーラードジャケットのドレーピング 前後脇身頃	復習：11回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10～30分
12回	【実習】テーラードジャケットのドレーピング パターントレース 組み立て 身頃修正	復習：12回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10～30分
13回	【実習】テーラードジャケットのドレーピング 衿ドレーピング パターン作成	復習：13回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10～30分
14回	【実習】テーラードジャケットのドレーピング 袖パターン作成（二枚袖）	復習：14回目の終了段階までの授業課題内容の完了	10～30分
15回	【実習・課題】テーラードジャケットのドレーピング 袖付け パターン修正	復習：15回目の終了段階までの授業課題内容の完了	15分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で課題を点検し、その場で学生に対して個別指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

立体裁断 「基本理論」	小山千曉他著	(有)cfk1991
立体裁断 「基本理論から応用」	小山千曉他著	(有)cfk1991
立体裁断 「ジャケット編 改訂版」	小山千曉他著	(有)cfk1991

■参考文献

「ジャケット&コート」	小山千曉他著	(株)アミコファッションズ
「工業用パターンガイドブック」	小山千曉他著	(株)アミコファッションズ

■オフィスアワー・研究室

第2校舎 2402教室 金曜日 13:00～14:30

【連絡研究室】ドレーピング&パターンメイキング研究室（第3校舎1階3106教室）

■備考

授業に必要なテキスト・道具・組立などの準備は必ず時間前に用意すること。

モードデザインⅡ

白木 ゆみ香

3年 前期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

モードデザインⅡは、モードクリエイションコースにとって必要不可欠な、「デザイン力」や「表現力」を養う授業です。モードデザインⅠで学んだ技術や手法を元に、更なるデザイン力を磨きながら各種コンテストにも積極的に取り組んでいきます。

各自のデザインテーマを模索し、そのコンセプトを意識しながらのデザイン構築を学ぶことにより、作品自体に強い説得力が生まれます。そしてそのデザインを表現するための画力を身に付けることも大切です。常にアンテナを張り意識しながら、繰り返しデザインし描くことにより、自分が表現したいデザインを、より魅力的に表現することが可能となるよう学修していきます。

■到達目標（学修成果）

各自の研究テーマを設定することにより、コンセプトに沿ったデザイン考案とデザイン展開を身に付けることができますようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、モードクリエイションコースの必修科目で、卒業要件の単位となります。ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション YKK ファスニングアワードに向けて デザイン発想Ⅰ テーマ：変化（アイデアスケッチ）①	予習：シラバスを読む。	20分
2回	デザイン発想Ⅰ テーマ：変化 （コンセプトシート+デザイン画+ハンガーイラスト）②	復習：作品課題を完成させる。	60分
3回	デザイン発想Ⅰ テーマ：変化 （プレゼン発表）③	復習：作品課題を完成させる。	60分
4回	クロッキー（10分程度） デザイン発想Ⅱ テーマ：素材から （素材のタッチ作成）①	予習：図書館・インターネットにて資料収集。	60分
5回	デザイン発想Ⅱ テーマ：素材から （コンセプトシート+デザイン画+ハンガーイラスト）②	復習：作品課題を完成させる。	60分
6回	デザイン発想Ⅱ テーマ：素材から （プレゼン発表）③	予習：プレゼン準備	60分
7回	好きなイラストレーターの絵を模写。	復習：作品課題を完成させる。	60分
8回	全国ファッションデザインコンテストへ向けて デザイン発想Ⅲ テーマ：各自で設定 （アイデアスケッチ）①	復習：作品課題を完成させる。	60分
9回	クロッキー（10分程度） デザイン発想Ⅲ テーマ：各自で設定 （コンセプトシート+デザイン画+ハンガーイラスト）②	予習：図書館・インターネットにて資料収集。	60分
10回	デザイン発想Ⅲ テーマ：各自で設定 （プレゼン発表）③	予習：プレゼン準備	30分
11回	バリエーション① 好きなブランドから1点+バリエーション2点（メンズとレディース）とそのハンガーイラスト	復習：作品課題を完成させる。	60分
12回	バリエーション② 好きなブランドから1点+バリエーション2点（メンズとレディース）とそのハンガーイラスト	復習：作品課題を完成させる。	60分
13回	クロッキー（10分程度） デザイン発想Ⅳ テーマ：各自で設定 （アイデアスケッチ）①	予習：図書館・インターネットにて資料収集。	60分
14回	デザイン発想Ⅳ テーマ：各自で設定 （コンセプトシート+デザイン画+ハンガーイラスト）②	復習：作品課題を完成させる。	60分
15回	デザイン発想Ⅳ テーマ：各自で設定 プレゼン発表	予習：プレゼン準備	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・作品課題の提出は、教室またはデザインCG研究室（研究棟1F）まで、指定された日時までに提出のこと。
- ・作品課題の返却は、採点または手直し後、教室にて返却。期末試験はなし。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書 必要に応じてプリント配布。

教材「Fashion Illustration Sheet」レディース

「Fashion Ruler」レディース・メンズ

■参考文献 MODE Et MODE、各種専門誌。

■オフィスアワー・研究室

【前期】木 14:30～16:00 【後期】水 15:30～16:30

【研究室】デザインCG研究室（研究棟1F）

■備考 進度により、日程および内容の変更あり。必要と思われる展示会や美術展などの見学あり。

コロナの感染状況に応じて、zoomでの遠隔授業対応になる可能性あり。

モードデザインⅢ (CG含む)

白木 ゆみ香

3年 後期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

モードデザインⅢでは、モードデザインⅠ・Ⅱで学んだデザイン力を元に、CGを駆使して作品をより魅力的に表現する方法を学びます。アパレル業界でもCGは必要不可欠なスキルですが、特に企画書やポートフォリオ制作、プレゼンテーションには欠かせない道具の一つです。

この授業では、モードクリエイションコースにとって必要不可欠な、「デザイン力」や「表現力」を、手書きの良さとCGの良さを生かしながら、総合的に学んでいきます。CGの主な使用ソフトは、Photoshop、Illustrator、PowerPointです。就職活動へ向けての企画書や各自の作品集制作なども併せて学修していきます。

■到達目標 (学修成果)

自分の研究テーマやコンセプトに沿ったデザインを、CGを駆使してイメージ通りに表現出来るようになる。客観的な視点でデザインを見る事が出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、モードクリエイションコースの必修科目で、卒業要件の単位となります。ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション、 Photoshop 基本操作	予習：シラバスを読む。	20分
2回	Photoshop デザイン画 着彩① 着色、カラーバリエーション、	復習：自習室PCにて作品課題を完成させる。	60分
3回	Photoshop デザイン画 着彩② レイアウト、色サンプル、	復習：自習室PCにて作品課題を完成させる。	60分
4回	Photoshop 制服やユニフォームのデザイン デザイン画をスキャン、着色、柄、素材、レイアウト	予習：デザイン画の下絵準備。	60分
5回	Illustrator パスの練習 ハンガーイラスト	復習：自習室PCにて作品課題を完成させる	60分
6回	Illustrator 各自デザインしたハンガーイラストをパスでトレース	復習：自習室PCにて作品課題を完成させる	60分
7回	Photoshop・Illustrator 各自のデザインをレイアウト、企画書まとめ、提出	復習：自習室PCにて作品課題を完成させる。	60分
8回	Power Point ブランド提案 ブランドイメージマップ作成 色彩検定用課題①	復習：色彩検定用課題。	60分
9回	Power Point ブランド提案 ポジショニングマップ	復習：自習室PCにて作品課題を完成させる。	60分
10回	Photoshop デザイン画 ブランドのデザイン考案、デザイン画着色 色彩検定用課題②	予習：デザイン画の下絵準備。 復習：色彩検定用課題。	60分
11回	Photoshop・Illustrator ブランドのデザイン画仕上げ、アイテムをパスでトレース	予習：ハンガーイラストの下絵準備	60分
12回	Illustrator・Power Point アイテムのラインシート作成、プレゼン資料作成 色彩検定用課題③	復習：色彩検定用課題。	60分
13回	Illustrator ブランド提案 ブランドロゴ、タグ作成	予習：ロゴの下絵準備。	60分
14回	Photoshop・Illustrator・Power Point プレゼン資料作成	復習：自習室PCにて作品課題を完成させる。	60分
15回	Power Pointにて各自のブランド提案をプレゼンテーション。 合評会	予習：プレゼン準備。	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

- ・作品課題の提出は、PC関係はデスクトップ上の配布提出BOXへデータでの提出。
PC以外は教室またはデザインCG研究室(研究棟1F)へ、指定された日時までに提出のこと。
- ・作品課題の返却は、採点または手直し後、教室にて返却。期末試験はなし。プレゼンテーションにて発表の際に講評あり。
- ・色彩検定試験(2級・3級)用、課題①②③実施。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	60%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	15%

■教科書 必要に応じてプリント配布。

教材「Fashion Illustration Sheet」「Fashion Ruler」
ファッション色彩能力検定試験2級準拠、2級問題集。

■参考文献

■オフィスアワー・研究室

【前期】木 14:30~16:00 【後期】水 15:30~16:30

【研究室】デザインCG研究室(研究棟1F)

■備考 進度により、日程および内容の変更あり。必要と思われる展示会や美術展などの見学あり。

アパレルCAD I

関 雅男

3年 前期 モード必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

コンピュータによるパターンメイキング・グレーディング・マーキングの実践能力を習得する。
主にCAD Iでは、コンピュータパターンメイキングの演習を行います。

■到達目標（学修成果）

アパレルCADシステムを使うことにより、パターンメイキングの基本操作と活用法を習得することができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエイションコースの専門必修科目で卒業要件の単位となります。
「アパレルCAD I」は、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	原型トレース	予習：ユルミ入れ展開方法を確認しておくこと。	60分
2回	原型のユルミ入れ I 前後身頃	復習：配布資料、トレース操作手順を振り返り、暗唱項目を整理する。	30分
3回	原型のユルミ入れ II 前後身頃・前後スカート	復習：ユルミ入れの操作手順、項目、機能を整理する。	30分
4回	ダーツ移動・分散	復習：ダーツ移動・分散の展開操作手順、項目、機能を整理する。	30分
5回	ダーツ移動・分散 アクティブラーニング	復習：ダーツ移動・分散の展開操作をグループで考え、作業する。	30分
6回	ギャザー展開 ウエストダーツをウエストギャザー・ネックラインギャザーに展開	復習：ギャザー展開の展開操作手順、項目、機能を整理する。	30分
7回	袖の展開 テーパードスリーブ・パフスリーブ	復習：袖の展開操作手順、項目、機能を整理する。	30分
8回	袖の展開 ギャザースリーブ・他	復習：袖の展開操作手順、項目、機能を整理する。	30分
9回	プリンセス原型の作成 I	予習：配布データを振り返り、プリンセス原型の作成展開手順を整理する。	30分
10回	プリンセス原型の作成 II	復習：プリンセス原型作成の展開操作手順、項目、機能を整理する。	30分
11回	衿の作成 I シャツカラー・表衿の展開	復習：衿の展開操作手順、項目、機能を整理する。	30分
12回	衿の作成 II ステンカラー・ピーターパンカラー	復習：衿の展開操作手順、項目、機能を整理する。	30分
13回	ブラウス原型作成 I ストレートなシルエット	予習：配布データを振り返り、ブラウス原型作成の作成展開手順を整理する。	30分
14回	ブラウス原型作成 II ストレートなシルエット	復習：ブラウス原型作成の展開操作手順、項目、機能を整理する。	30分
15回	まとめ 課題のフィードバックを行う	復習：課題提出を振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説とテストデータを返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業の進行に合わせてプリント配付

■参考文献

パターンメイキングの原理 大野順之助著 (株)アミコファッションズ

■オフィスアワー・研究室

連絡 第三校舎1階 講師控え室 出講日 火曜日

■備考

状況により内容変更有り

アパレルCADⅡ

関 雅男

3年 後期 モード必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

前期に続きCADⅡでは、CADⅠで習得した技術を応用し、より高度なパターンメイキングを学習します。更に関連技術として、グレーディング・マーキングを学習します。

■到達目標（学修成果）

アパレルCADシステムを使うことにより、パターンメイキングの応用操作、グレーディング・マーキングの基本操作の習得することができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエイションコースの専門必修科目で卒業要件の単位となります。
「アパレルCADⅡ」は、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	テーラードジャケットのパターントレース	予習：授業で習った作図を確認しておくこと。	30分
2回	テーラードジャケットのパターン、確認・合印/長さ合わせアクティブラーニング	復習：合印の意味を理解する。 工業用パターンについてグループ考察	30分
3回	テーラードジャケットのパターン、書き込み	復習：衿、ポケットの展開方法を確認し、ソフトの特性を理解する。	30分
4回	テーラードジャケットのパターン、情報	復習：パーツの情報がグレーディング・マーキングに繋がることを理解する。	30分
5回	工業用パターンの作成①	予習：授業で習った裏地等の展開方法を確認しておくこと。	30分
6回	工業用パターンの作成②	復習：裏地と見返しの展開方法を確認し、配布資料を整理する。	30分
7回	工業用パターンの作成③	復習：縫い代の付け方を確認し、配布資料を整理する。	30分
8回	グレーディング操作Ⅰ グレーディング手順・グレーディング情報の設定	復習：グレーディング手順の暗唱項目を整理する。	30分
9回	グレーディング操作Ⅱ 補助ルール・シフトバリュー・移動量表の説明	復習：補助ルール・シフトバリューの暗唱項目を整理する。	30分
10回	グレーディング スカート・パンツ	復習：基本ルール、補助ルールの暗唱項目を整理する。	30分
11回	グレーディング ブラウス	復習：グレーディングポイント設定の暗唱項目を整理する。	30分
12回	マーキング操作 マーカー収集・マーキング条件設定	予習：ハンドマーキング実践しておくこと。	40分
13回	マーキング スカート・パンツ	復習：マーキング操作、条件設定の暗唱項目を整理する。	30分
14回	マーキング ブラウス・ジャケット	復習：マーキング操作、条件設定の暗唱項目を整理する。	30分
15回	まとめ 課題のフィードバックを行う	復習：課題提出を振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説とテストデータを返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業の進行に合わせてプリント配付

■参考文献

工業用パターンガイドブック 小山千暁他著 (株)アミコファッションズ
パターンメイキングの原理 大野順之助著 (株)アミコファッションズ

■オフィスアワー・研究室

連絡 第三校舎1階 講師控え室 出講日 火曜日

■備考

状況により内容変更有り

インダストリアルパターンⅢ

田原 美津子

3年 前期 インダストリアル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

ジャケット・ブラウス・パンツ・スカートなどアイテムごとの生産工程を学修します。製図で表記されている事項が実際の縫製工程でどのように展開されていくのか工業用パターン作成を通して理解していきます。部分縫製による衣服の内部構造を学び、衣服がどのように構成されているかを学修していきます。

■到達目標（学修成果）

衣服のアイテムごとの内部構造を理解し、工業用パターンでの縫製力を養うことができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はインダストリアルパターンコース必修科目であり、卒業認定に関わる要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 合成皮革ベルト デザイン画について（デザイン考案）	予習：シラバスを読んでおく	30分
		復習：サンプル縫製の終了	30分
2回	袖口 短冊あき（眠り穴穂丹ホール） 縫製 合成皮革ベルト デザイン相談	予習：素材準備 裁断	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
3回	ジャケット袖口（明き見せ） 縫製 合成皮革ベルト 製図	予習：素材準備 裁断	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
4回	ジャケット袖口（本切羽、鳩目穴ボタンホール） 縫製	予習：素材準備 裁断	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
5回	スカートあき（ウール・裏地、ファスナー） 縫製 合成皮革ベルト トワル作り	予習：素材準備 裁断	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
6回	パンツ（ポケット、ファスナー付け） 縫製	予習：素材準備 裁断	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
7回	パンツ（ファスナー付け、ベルト付け） 縫製 合成皮革ベルト トワル仮縫い、工業用パターン制作	予習：縫製手順を確認しておく	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
8回	ジャンパー（ナイロン ビニール素材・リブ） 縫製	予習：素材準備 裁断	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
9回	ジャンパー（ナイロン ビニール素材・リブ） 縫製	予習：縫製手順の確認	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
10回	合成皮革ベルト 製図、トワル仮縫い（裁断）	予習：参考製図を探す	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
11回	合成皮革ベルト 縫製手順書制作、縫製	予習：縫製手順を考える	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
12回	合成皮革ベルト 縫製	予習：縫製手順の確認	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
13回	素材の扱い方（合成皮革） 装飾 写真撮影、パターンまとめ 合皮について	予習：製図の見直し	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
14回	素材の扱い方（毛足のある素材） 裁断・縫製 企画書 写真まとめ	予習：毛足のある素材を調べる	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
15回	まとめ プレゼンテーション、グループディスカッション ポートフォリオ	予習：プレゼンテーション資料の準備 ファイルをまとめる	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題ごとに点検、指導を行う。ポートフォリオに対してはmanabaでコメント、指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

PATTERN MAKING I・II 学校法人 杉野学園

SEWING I～IV 学校法人 杉野学園

内容に応じて適時プリントを配付

■参考文献 なし

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第1回目の授業に指示。

■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は各自必要に応じて増減する。

インダストリアルパターンⅣ

田原 美津子

3年 後期 インダストリアル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

パターンとの関わりを含めてコートを作る過程を踏まえながら各部位の縫製方法を学修していきます。また、ボトム制作では、仮縫い、補正を通して、人体を意識した設計、素材とパターンを学修していきます。

■到達目標（学修成果）

アパレル仕様の縫製技術を習得し、工業用パターンと縫製のかかわりが理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業認定に必要な科目で、インダストリアルパターンコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	Aラインコート：製図について 裁断（表地、裏地）	予習：シラバスを読んでおく	20分
		素材の準備	30分
2回	Aラインコート：裁断（芯地） 芯貼り、テープ貼り ポケット 縫製	予習：作業工程の確認	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
3回	Aラインコート：打ち合い・比翼仕立ての縫製	予習：比翼仕立ての縫製手順を確認する	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
4回	Aラインコート：パンツ 縫製	予習：パンツの縫製手順を確認する	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
5回	Aラインコート：表袖、裏地作り半裏仕立て） 縫製	予習：半裏の縫製手順を確認する	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
6回	Aラインコート：衿作り、衿付け 縫製	予習：月腰付き衿の縫製手順の確認	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
7回	Aラインコート：裾の始末、ステッチ 縫製	予習：裾野縫製を確認	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
8回	Aラインコート：仕上げ 縫製 ポートフォリオ制作	予習：ポートフォリオ資料準備	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
9回	ボトム実物制作：デザイン考案・製図	予習：デザイン考案	30分
		復習：パンツ・市カート製図の確認	30分
10回	ボトム実物制作：仮縫い（トワル）・補正・修正	予習：ボトムの装飾について調べる	30分
		復習：仮縫い・補正のまとめ	30分
11回	ボトム実物制作：工業用パターン・布裁断・縫製	予習：縫製の手順を考えておく	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
12回	ボトム実物制作：縫製	復習：遅滞している箇所の作業	30分
13回	ボトム実物制作：縫製	復習：遅滞している箇所の作業	30分
14回	ボトム実物制作：縫製・仕上げ・写真撮影 ポートフォリオ、まとめ	予習：ポートフォリオの準備	30分
		復習：遅滞している箇所の作業	30分
15回	ボトム実物制作：プレゼンテーションまとめ（課題のフィードバックを含む）・グループワーク	予習：プレゼンテーションの準備	30分
		復習：グループワークのまとめ	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題返却時には個別にコメント、指導を行う。ポートフォリオに対してはmanabaでコメント、指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

PATTERN MAKING I・II 学校法人 杉野学園
SEWING I～IV 学校法人 杉野学園
内容に応じて適時プリントを配付

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第1回目の授業に指示。

■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は各自必要に応じて増減する。

CGデザインⅢ

水越 綾

3年 前期 インダストリアル必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

CGデザインⅠ・Ⅱでの学びを発展させ、服装デザインにおける色彩と形について学修を深めてゆく科目です。

社会は凄まじいスピードで変化がおき、価値観も変わってゆきます。その変化に柔軟に対応してゆくためには、柔軟な思考、創造力が大切になってきます。本授業では「モノを創る」経験を通して、多視点で事象を捉える力。異なる他者と協働し課題解決 (PBL) に取り組む力。他教科における学びを活かし (横断的な学び) 創造的な力を養う授業です。最終的には個人の卒業制作につながるようなリサーチ力・創造力を培う授業ではありますが、それにとどまらず社会の事象にも目を向け皆さんが専門で学んでいることを社会にどう活かすかを考えるきっかけになるような科目です。

また、本科目ではSTEAM教育としての役割も担って行きたいと考えています。従って、感性的な部分だけではなく根拠に基づいた情報の活用や場合によっては外部のデジタルファブリケーション施設を活用することも検討しています。

■到達目標 (学修成果)

1. リサーチをする方法を習得し、ブランド企画が出来るようになる。
2. 根拠に基づいた情報をベースに、感性・創造性を発揮する為の挑戦ができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

インダストリアルパターンコースの卒業認定・学位授与に関連する科目です。卒業制作に必要なリサーチ力と企画力を涵養する授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	・初回ガイダンス ・リサーチとは/リサーチの目的/リサーチソース/リサーチの対象① ・創造的思考と論理的思考について ・アイデア創出グループワーク『色』① (プレスト) 課題の到達目標と制作ループリックの提示	予習: 教科書 Chapter01 に目を通し概要を把握しておく。他 manaba にアクセスし教員からの指示の有無を確認しておく。 課題: グループごとに課題を進めておく。	60分
2回	・アイデア創出グループワーク『色』② (発散と収束) 発表用資料制作/発表ループリックの提示	予習: 指定資料に目を通しておく。 課題: グループごとに課題を進めておく。	60分
3回	・アイデア創出グループワーク『色』③ (発表準備)	予習: 指定資料に目を通しておく。 課題: グループごとに課題を進めておく。	60分
4回	・アイデア創出グループワーク『色』④ (発表と振り返り、次への課題) ・リサーチの為の図書館の活用について/クリエイターとして知っておくべき権利問題について①	予習: 発表の準備を行う 課題: 発表の振り返りを manaba に書き込む	60分
5回	・リサーチの対象『シェイプ (構造・ディテール・色・テクスチャ)』 ・個別ワーク『シェイプ (構造・ディテール・色・テクスチャ)』① (リサーチ) /リサーチ中間報告・ディスカッション 課題の到達目標と制作ループリックの提示	予習: 課題テーマとなる『シェイプ』についてテキストに目を通し、各自予め関連する情報にアクセスしておく。 課題: 個別に課題を進めておく。	60分
6回	・個別ワーク『シェイプ (構造・ディテール・色・テクスチャ)』② (リサーチとまとめ) /リサーチ中間報告・ディスカッション	課題: 個別に課題を進めておく。	60分
7回	・個別ワーク『シェイプ (構造・ディテール・色・テクスチャ)』③ (リサーチとまとめ) /リサーチ中間報告・ディスカッション	課題: 個別に課題を進めておく。	60分
8回	・個別ワーク『シェイプ (構造・ディテール・色・テクスチャ)』④ (まとめ) /リサーチまとめの報告・ディスカッション・講評	予習: 発表の準備を行う 課題: 発表の振り返りを manaba に書き込む	60分
9回	・リサーチの対象『模様と装飾』 ・個別ワーク『模様と装飾』① (リサーチ) /リサーチ中間報告・ディスカッション 課題の到達目標と制作ループリックの提示	予習: 課題テーマとなる『模様と装飾』についてテキストに目を通し、各自予め関連する情報にアクセスしておく。 課題: 個別に課題を進めておく。	60分
10回	・個別ワーク『模様と装飾』② (リサーチとまとめ) /リサーチ中間報告・ディスカッション	課題: 個別に課題を進めておく。	60分
11回	・個別ワーク『模様と装飾』③ (まとめ) /リサーチまとめの報告・ディスカッション・講評	予習: 発表の準備を行う 課題: 発表の振り返りを manaba に書き込む	60分
12回	・個別ワーク『ボタンをつくる』①これまでのリサーチをベースにオリジナルのボタンを作成する。(リサーチからアイデアスケッチ、ディスカッションを経てデーター作成)	予習: 課題テーマとなる『ボタン』についてリサーチを行い、デザインソースを収集しておく。 課題: 個別に課題を進めておく。	60分
13回	・個別ワーク『ボタンをつくる』②これまでのリサーチをベースにオリジナルのボタンを作成する。(リサーチからアイデアスケッチ、ディスカッションを経てデーター作成) 2チームに分かれ、デジタルファブリケーション施設にてボタン作成と教室でポートフォリオ制作を実施する。	課題: 個別に課題を進めておく。	60分
14回	・個別ワーク『ボタンをつくる』③これまでのリサーチをベースにオリジナルのボタンを作成する。(リサーチからアイデアスケッチ、ディスカッションを経てデーター作成) 2チームに分かれ、デジタルファブリケーション施設にてボタン作成と教室でポートフォリオ制作を実施する。	課題: 個別に課題を進めておく。	60分
15回	・個別ワーク『模様と装飾』⑤(まとめ) プレゼンテーション (アクティブラーニング: 意見交換して改善を話し合う) /振り返りと講評/まとめ	予習: 発表の準備を行う 課題: 発表の振り返りを manaba に書き込む	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題ごとに中間確認や発表をして頂きます。その都度フィードバックを実施致します。授業内では口頭によるフィードバック・manaba では書き込みによるフィードバック、添削。また、参加者同士によるディスカッション・相互評価・フィードバックもおこないます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manaba での等総合して成績評価致します。
ループリックによって評価ポイントを明確にした上で制作・発表をおこないます。加え、自己評価・履修者間による相互評価をおこないます。
それ以外の評価基準については、授業内に指示します。

■教科書

ファッションデザイン・リサーチ インスピレーションを得るための、調査の生かし方 (FASHION DESIGN BASICS) (Simon Seivewright 著、BNN)

■参考文献

伝わるデザインの基本 (技術評論社) なるほどデザイン (Mdn)、デザインを学ぶすべての人に贈る カラーと配色の基本 BOOK 大里浩二著 ソシム株式会社発行、デザインリサーチの教科書 (木浦幹雄著、BNN)、デザイン・アートの基礎課程 (ルーシーアレクサンダー、ティモシーミラー著、BNN)、<折り>の設計 (ポール・ジャクソン、BNN)、ファッションを変えた100のアイデア (HARRIET WORSLEY 著、BNN)、ファッションデザイン・リソース (桜井真砂美著、BNN)、FASHION DESIGN BASICS 世界共通、ファッションデザインの基礎知識 (Richard Sorger&Jenny Udale 著、BNN)、他あれば授業内・manaba で周知する。

■オフィスアワー・研究室: 初回授業時にアナウンスする・研究室 研究棟1階 6012B

■備考: 1年次の情報演習Ⅱ・色彩のテキスト、カラーペーパー等を使用する事があるので用意しておくように、また、授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスする。USB 等を用意しておくことと良いです。ポートフォリオ用のスケッチブック購入・デジタルファブリケーション施設利用料および、材料費等が必要です。費用に関しては授業内でお知らせします。

CGデザインⅣ

水越 綾

3年 後期 インダストリアル必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

CGデザインⅠ～Ⅲの学びを進展させ、服装デザインにおける色彩と形について学修を深めてゆく科目です。
 社会は凄まじいスピードで変化がおき、価値観も変わってゆきます。その変化に柔軟に対応してゆくためには、柔軟な思考、創造力が大切になってきます。本授業では「モノを創る」経験を通して、多視点で事象を捉える力。異なる他者と協働し課題解決 (PBL) に取り組む力。他教科における学びを活かし (横断的な学び) 創造的な力を養う授業です。最終的には個人の卒業制作につながるようなリサーチ力・創造力を培う授業ではありますが、それにとどまらず社会の事象にも目を向け皆さんが専門で学んでいることを社会にどう活かすかを考えるきっかけになるような科目です。
 また、本科目ではSTEAM教育としての役割も担って行きたいと考えています。従って、感性的な部分だけではなく根拠に基づいた情報の活用や場合によっては外部のデジタルファブリケーション施設を活用することも検討しています。

■到達目標 (学修成果)

1. リサーチをする方法を習得し、ブランド企画が出来るようになる。
2. 根拠に基づいた情報をベースに、感性・創造性を発揮する為の挑戦ができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

インダストリアルパターンコースの卒業認定・学位授与に関連する科目です。卒業制作に必要なリサーチ力と企画力を涵養する授業です。

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	・初回ガイダンス ・クリエイターとして知っておくべき権利問題について② ・テーマとコンセプト、それらを求める為の手法について講義と実践① (抽象的手法・概念的的手法)	予習：教科書 Chapter02 に目を通し概要を把握しておく。各自予め関連する情報にアクセスしておく。 課題：個別に課題を進めておく	60分
2回	・テーマとコンセプト、それらを求める為の手法について講義と実践② (物語的手法)	課題：個別に課題を進めておく	60分
3回	・様々なリサーチソース ・グループワーク『リサーチソースとなりうる事象を探す』①ディスカッション	予習：教科書指定頁に目を通しておく。他 manaba にアクセスし教員からの指示の有無を確認しておく。 課題：グループごとに課題を進めておく。	60分
4回	・グループワーク『リサーチソースとなりうる事象を探す』②グループごとの報告、ディスカッション	予習：発表の準備を行う 課題：発表の振り返りを manaba に書き込む	60分
5回	・リサーチのまとめかた・リサーチの分析 ・個別ワーク①『リサーチからアイデアの創出へ』① 収集した情報を元に分析し、ファッションデザインにまで落とし込む ・課題の到達目標と制作ループリックの提示	予習：教科書指定頁に目を通しておく。他 manaba にアクセスし教員からの指示の有無を確認しておく。 課題：個別に課題を進めておく	60分
6回	・個別ワーク①『リサーチからアイデアの創出へ』② 収集した情報を元に分析し、ファッションデザインにまで落とし込む／中間報告とディスカッション	課題：個別に課題を進めておく	60分
7回	・個別ワーク①『リサーチからアイデアの創出へ』③ 収集した情報を元に分析し、ファッションデザインにまで落とし込む	課題：個別に課題を進めておく	60分
8回	・個別ワーク①『リサーチからアイデアの創出へ』④ 収集した情報を元に分析し、ファッションデザインにまで落とし込む／まとめ報告とディスカッション・振り返り・講評	予習：発表の準備を行う 課題：発表の振り返りを manaba に書き込む	60分
9回	・個別ワーク①をカタチにする① リサーチを基に柄の考案 (用途や素材を考えて構図や配色も考える) 課題の到達目標と制作ループリックの提示	予習：教科書指定頁に目を通しておく。他 manaba にアクセスし教員からの指示の有無を確認しておく。 課題：個別に課題を進めておく	60分
10回	・個別ワーク①をカタチにする② リサーチを基に柄の考案 (用途や素材を考えて構図や配色も考える) / 中間報告・ディスカッション / ハンガーイラスト・ファッション画の作成	課題：個別に課題を進めておく	60分
11回	・個別ワーク①をカタチにする② リサーチを基に柄の考案 (用途や素材を考えて構図や配色も考える) / 中間報告・ディスカッション / ハンガーイラスト・ファッション画の作成	課題：個別に課題を進めておく	60分
12回	・個別ワーク①をカタチにする③ リサーチを基に柄の考案 (用途や素材を考えて構図や配色も考える) / ハンガーイラスト・ファッション画の作成 / プリントオーダー	課題：個別に課題を進めておく	60分
13回	・個別ワーク①をカタチにする④ リサーチを基に柄の考案 (用途や素材を考えて構図や配色も考える) / ハンガーイラスト・ファッション画の作成 / プリントオーダー	課題：個別に課題を進めておく	60分
14回	・個別ワーク①をカタチにする⑤発表資料制作 ・発表ループリックの提示	課題：個別に課題を進めておく	60分
15回	・個別ワーク①をカタチにする⑥プレゼンテーション (アクティブラーニング：意見交換して改善を話し合う) / 振り返りと講評 / まとめ	予習：発表の準備を行う 課題：発表の振り返りを manaba に書き込む	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

課題ごとに中間確認や発表をして頂きます。その都度フィードバックを実施致します。授業内では口頭によるフィードバック・manaba では書き込みによるフィードバック、添削。また、参加者同士によるディスカッション・相互評価・フィードバックもおこないます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manaba での等総合して成績評価致します。
 ループリックによって評価ポイントを明確にした上で制作・発表をおこないます。
 加え、自己評価・履修者間による相互評価をおこないます。
 それ以外の評価基準については、授業内に指示します。

■教科書

ファッションデザイン・リサーチ インスピレーションを得るための、調査の生かし方 (FASHION DESIGN BASICS) (Simon Seivewright 著、BNN)

■参考文献

伝わるデザインの基本 (技術評論社) なるほどデザイン (Mdn)、デザインを学ぶすべての人に贈る カラーと配色の基本 BOOK 大里浩二著 ソシム株式会社発行、デザインリサーチの教科書 (木浦幹雄著、BNN)、デザイン・アートの基礎課程 (ルーシーアレクサンダー、ティモシーミラー著、BNN)、<折り>の設計 (ポール・ジャクソン、BNN)、ファッションを変えた100のアイデア (HARRIET WORSLEY 著、BNN)、ファッションデザイン・リソース (桜井真砂美著、BNN)、FASHION DESIGN BASICS 世界共通、ファッションデザインの基礎知識 (Richard Sorger&Jenny Udale 著、BNN)、他あれば授業内・manaba で周知する。

■オフィスアワー・研究室：初回授業時にアナウンスする・研究室 研究棟 1階 6012B

■備考：1年次の情報演習Ⅱ・色彩のテキスト、カラーペーパー等を使用する事があるので用意しておくように、また、授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスする。USB 等を用意しておくとう良いです。ポートフォリオ用のスケッチブック購入・デジタルファブリケーション施設利用料および、材料費等が必要です。費用に関しては授業内でお知らせします。

CAD&3D 演習 I

笹部 小百合

3年 前期 インダストリアル必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

インダストリアルパターンコース保管資料によるパターンやデータを利用し、仕様書やサンプルを作成することによって、企画、生産・パタンナー、外注パタンナーそれぞれの立場になり連携を体験する。商品に対するクオリティへの審美眼を養う。アパレル企業での実務経験を授業に取り入れ、グループワークを行いながらアパレル企業やSPA（製造小売業）のステークホルダーを理解する。一部感性産業CAD Iとの連携をする。

■到達目標（学修成果）

生産・パタンナーにおける企画から量産に至るまでの過程を会得する。デザインから推測し有り型パターンを基にパターンを依頼することができる。検寸方法を理解し仕様書・トワルを作成、要求された寸法・デザインを時代に即した人体にあう量産パターンとして完成することができる。各ポジションでの認知の違いを感知し、コミュニケーション能力を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

インダストリアルパターンコース必修科目で卒業認定・学位授与の該当授業科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、連携授業の進め方について 著作権について グループワークについて デザイン決定 企画書作成	予習：シラバスを読んでおく 復習：企画書の見直し	30分
2回	パターン依頼 外注依頼準備 1ST仕様書作成 設定寸・指示寸・上がり寸について 有り型検討・出力・計測	予習：パターン依頼準備	30分
3回	外注依頼 1STパターン作成	予習：外注依頼準備	30分
4回	1STパターン作成	予習：生地を探す 復習：検討会に向けて準備	60分
5回	1STパターン作成 サンプルトワル作成	予習：生地購入 復習：検討会に向けて準備	60分
6回	1ST サンプルトワル作成 上衣検寸について サンプル検寸	復習：検討会に向けて準備	30分
7回	1ST サンプル検討会（プレゼンテーション、ディベート） 2ND仕様書作成 修正依頼	復習：検討会に向けて準備	30分
8回	2NDパターン修正	復習：検討会に向けて準備	30分
9回	2ND サンプル作成 サンプル検寸	復習：検討会に向けて準備	60分
10回	2ND サンプル検討会（プレゼンテーション） パターン修正	復習：仕様書作成準備	30分
11回	仕様書作成	復習：仕様書の見直し	30分
12回	縫製仕様書について ボトム検寸について	復習：検寸練習	30分
13回	縫製仕様図解バリエーション	復習：縫製仕様図解練習	30分
14回	課題によるプレゼンテーション資料作成	復習：プレゼン資料作成の準備	30分
15回	まとめ プレゼンテーション フィードバック 後期にむけて	予習：プレゼン準備 復習：授業全体の振り返り	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・プレゼンテーション・課題に対して授業内や学内システム（manaba）でフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業評価・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価	0%

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKING I・II、SEWING I・II・III、電子教材

■参考文献

図解服飾用語事典 その他（必要に応じ授業・manaba コースで紹介）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第1回目の授業に指示。文化学科服飾造形研究室（第3校舎3階3310）

■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は各自必要に応じて増減すること。

CAD&3D 演習Ⅱ

笹部 小百合

3年 後期 インダストリアル必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

CAD&3D演習Ⅰで作成したサンプルとパターンを利用し、同型異素材の縫製仕様を考案し、量産サンプルの製作・検品・修正、納品までの過程をグループワーク形式で体験する。アパレル企業やSPA（製造小売業）での実務経験を授業に取り入れ、生産・パタンナー、仕入先、第三者検品工場それぞれの立場で製造に関わることによってコミュニケーション能力を養い、ステークホルダーの理解を深める。素材によって同型パターンのクオリティの高め方、上りの違いを学修する。一部感性産業CADⅡとの連携をする。

■到達目標（学修成果）

生産・パタンナーにおける量産発注から納品に至るまでの過程を理解する。先上げサンプルから、素材によってふさわしい縫製仕様の考案と指示ができる。納品前技術検品を学修しA品B品の区別の目を養う。グループ（社内）や取引先の情報共有・意思疎通ができ、仕事上での信頼関係を築けるよう目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

インダストリアルパターンコース必修科目で卒業認定・学位授与の該当授業科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 連携授業の進め方について 著作権について グループワークについて 生地・縫製仕様の検討	予習：シラバスを読んでおく 縫製仕様のリサーチ	60分
2回	縫製仕様決定 縫製仕様書作成 量産パターン出力（2部）	予習：生地を探す 復習：縫製仕様書確認 生地を購入	60分
3回	量産パターン確認・修正 縫製仕様書き込みパターン作成 仕入先へ発注 先上げサンプル製作 芯地試験について	復習：量産準備	60分
4回	先上げサンプル製作	復習：先上げサンプル準備	60分
5回	先上げサンプル製作 品質管理について	復習：先上げサンプル準備	60分
6回	先上げサンプル製作	復習：先上げサンプル準備	60分
7回	先上げサンプル検品について 縫製仕様の再検討 量産仕様書先上げ・裁断前コメントについて	復習：量産仕様書先上げコメント の確認	30分
8回	裁断前サンプル製作	復習：裁断前サンプル準備	60分
9回	裁断前サンプル製作	復習：裁断前サンプル準備	60分
10回	裁断前サンプル製作 プレス工場・検品工場・納品倉庫について	復習：裁断前サンプル準備	60分
11回	裁断前サンプル製作 様々なサンプルについてまとめ	復習：裁断前サンプル準備	60分
12回	裁断前・納品前検品について 仕入先・第三者検品工場の検品結果報告書作成	復習：検品結果報告書確認	30分
13回	納品前サンプル検品 納品前検品報告書作成	復習：納品前検品報告書作成確認	60分
14回	プレゼンテーション資料作成 小試験	復習：プレゼン資料確認	60分
15回	まとめ プレゼンテーション フィードバック	予習：プレゼン準備 復習：授業全体の振り返り	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・プレゼンテーション・課題・小試験に対して授業内や学内システム（manaba）でフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業評価・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価	0%

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKINGⅠ・Ⅱ、SEWINGⅠ・Ⅱ・Ⅲ、電子教材

■参考文献

図解服飾用語事典 その他（必要に応じ授業・manabaコースで紹介）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第1回目の授業に指示。文化学科服飾造形研究室（第3校舎3階3310）

■備考

進度により、日程および内容を変更する場合もある。予習・復習の時間は各自必要に応じて増減すること。

感性産業 CAD I

羽賀 友美

3年 前期 インダストリアル必修 (3単位 演習)

■授業の方針・概要

2年の必修であるCADパターンメイキング及びインダストリアルパターンI・IIを基礎に、更に実用的なCADのメニューの操作を学ぶと共にCADによるパターンの応用を学修します。しっかり基本を学ぶことで応用力を養い、トワルを組み立てることにより平面(CAD)→立体の相互関係の理解を深め、アパレルでの考え方や見方も学修します。また手引きでの製図やピンワークも行い、パターン検定に備えます。一部CAD&3D演習Iとの連携をします。

■到達目標(学修成果)

衿・袖・身頃のデザインを読み取り、ジャケットのパターンメイキングができるようになります。また、マーキング、工業用パターンを作成することにより、アパレルに近いもの作りを学び、実践的なノウハウを修得することができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー(学位授与の方針)については、インダストリアルパターンコース必修科目であり、服飾造形の応用力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション パターン出力(CAD&3D演習Iと連携)	予習: シラバス、テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	45分
2回	工業用パターン(縫い代付け、グレーディング) ・小テスト	復習: 授業で行った縫い代付け、グレーディングの確認	45分
3回	3枚パネルジャケット① ・小テスト	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	45分
4回	3枚パネルジャケット② ・小テスト	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	45分
5回	衿の考え方1(テーラード) ・小テスト	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	45分
6回	衿の考え方2(ピークドラペル、ヘチマカラー) 3Dフィッティングによる検証	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	45分
7回	プレゼンテーションを行い、アクティブラーニングでお互いに意見交換を行う。講評	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	45分
8回	デザインの読み取り方1(身頃) ・小テスト	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	45分
9回	デザインの読み取り方2(袖) ・小テスト	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	45分
10回	マーキング まとめ①	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行ったマーキングの確認	90分
11回	まとめ② CADパターンメイキング	予習: 授業全体を再確認してまとめられるようにしておく	45分
12回	デザインジャケット1(製図)	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	60分
13回	デザインジャケット2(組み立て)	予習: テキストを確認しておく、天竺準備 復習: 授業で行った製図・組み立ての完成	60分
14回	デザインジャケット3(製図)	予習: テキストを確認しておく 復習: 授業で行った製図の完成	60分
15回	デザインジャケット4(組み立て) まとめ③	予習: テキストを確認しておく、天竺準備 復習: 授業で行った製図・組み立ての完成	60分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

製図は教員が添削して後日学生に返却する。作成したトワルは教員と共にその場でシルエット確認をし、個別指導する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

PATTEEN MAKING II(杉野学園)、SEWING III(杉野学園)、配布プリント、パターンメイキング技術検定試験2級試験問題解答・解説集

■参考文献

PATTEEN MAKING II(杉野学園)、SEWING III(杉野学園)、ドレメ式原型(杉野学園)

■オフィスアワー・研究室

・オフィスアワーの日は初回の授業時にお知らせします ・インダストリアルパターン研究室(第3校舎2階 3211)

■備考 進捗により日程及び内容を変更することがあります。

感性産業 CAD II

羽賀 友美

3年 後期 インダストリアル必修 (3単位 演習)

■授業の方針・概要

感性産業 CAD I の授業を基礎とし、その応用としてパターンを具現化します。アイテムに落とし込みパターン作成します。トワルの組み立ても行うことにより、CAD でのバーチャル感を現実的感覚としてとらえられる技術を習得していきます。またアパレルで必須である工業用パターンについて学修します。一部 CAD&3D 演習 II との連携をします。

■到達目標 (学修成果)

CAD を使用することで短時間にパターンを作成出来、色々なアイテムを学び更にパターン力をレベルアップさせます。また、マーキングやグレーディングについても学修し、実践的なノウハウを修得することができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー (学位授与の方針) については、インダストリアルパターンコース必修科目であり、服飾造形の応用力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション、スキャニング・トレース (CAD&3D 演習 II と連携)	予習：シラバスを読んでおく 復習：CAD 操作の再確認	30分
2回	パーカー1 (基本製図/工業用パターン) 著作権について説明	予習：パーカーのサイズ・デザインに関する リサーチ、資料収集を行う	30分
3回	パーカー2 (応用製図/工業用パターン)	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図の完成	45分
4回	パーカー3 (3D フィッティング、トワル)	予習：ニット素材の準備 復習：授業で行ったトワル縫製の完成	45分
5回	パーカー4 (トワル)	復習：授業で行ったトワル縫製の完成	90分
6回	トレンチコート1 (基本製図)	予習：トレンチコートのサイズ・デザインに 関するリサーチ、資料収集を行う	45分
7回	トレンチコート2 (基本製図)	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図の完成	45分
8回	トレンチコート3 (工業用パターン) 見返し・裏地・芯地・縫い代付け	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った工業用パターンの完成	45分
9回	トレンチコート4 (応用製図)	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図の完成	45分
10回	トレンチコート5 (応用製図)	予習：天竺の準備 復習：授業で行ったトワル縫製の完成	90分
11回	トレンチコート6 (3D フィッティング、トワル)	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図の完成	45分
12回	グレーディング (身頃・スカート・ジャケット)	予習：天竺の準備 復習：授業で行ったトワル縫製の完成	90分
13回	まとめ1 ・製図	予習：ハンガーイラストを描く 復習：縫製仕様書の完成	45分
14回	まとめ2 ・マーキング	予習：授業全体を再確認してまとめられるよ うに準備しておく	45分
15回	まとめ3 プレゼンテーションを行い、アクティブラー ニングでお互いに意見交換を行う。講評	予習：授業全体を再確認してまとめられるよ うに準備しておく	45分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

製図は教員が添削して後日学生に返却する。作成したトワルは教員と共にその場でシルエット確認をし、個別指導する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	25%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	40%
外部評価・検定試験結果 (パターンマーキング技術検定2級)	10%

■教科書

PATTEEN MAKING II (杉野学園)、SEWING IV (杉野学園)、配布プリント

■参考文献

PATTEEN MAKING II (杉野学園)、SEWING IV (杉野学園)

■オフィスアワー・研究室

- ・オフィスアワーの日は初回の授業時にお知らせします。
- ・インダストリアルパターン研究室 (第3校舎2階 3211)

■備考 進捗により日程及び内容を変更することがあります。

テキスタイルデザインⅢ

田口 雅子

3年 前期 テキスタイル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

テキスタイルデザインⅡの延長上に位置し、織物制作を通して、レベルアップした制作理論を学ぶ。理論と技術と感性を活かしてテキスタイル作品制作ができる能力を育成する。

■到達目標（学修成果）

基本的なテキスタイル制作を踏まえ、応用課題や形状の異なる糸のデザイン設計から作品制作までができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	パネルキルトの制作 デザインの比較検討 4Dboxを使用した、手描きデザインとCGデザイン	(予習) タータンチェックについて調査し、コンセプトを決めデザインを手描きで考案する	120分
2回	パネルキルトの制作 設計・糸準備	(予習) 設計の方法について確認する	30分
3回	パネルキルトの制作 準備 グループワーク（工程補助）	(予習) テキスタイルデザインⅡテキスト染色を読み染色方法について確認する	30分
4回	パネルキルトの制作 織布1	(予習) テキスタイルデザインⅡテキスト準備 工程読み織機準備の手順を確認する	30分
5回	パネルキルトの制作 織布2	(予習) 糸配列の配色と組織における交錯の関係を確認する	45分
6回	パネルキルトの制作 織布3	(復習) 風合いと密度、縫製の際の柄合わせを確認する。織布。	60分
7回	パネルキルトの制作 織布4	(予習) 緯糸挿入角度と織物幅の関係を確認する。織布	60分
8回	パネルキルトの制作 織布5	(復習) 織物制作上の織幅収縮について意識する	30分
9回	パネルキルトの制作 仕上げ、測定、まとめ	(予習) 縮絨による風合い変化について考察する。型紙の作成と縫製	120分
10回	ファンシーヤーンを使用したテキスタイルの制作 色彩抽出 デザイン	(予習) 秋・冬シーズンのウール製品の市場調査する。	30分
11回	ファンシーヤーンを使用したテキスタイルの制作 4Dboxを使用した、手描きデザインとCGデザイン	(復習) PCでの織の表現と組織の提案準備 絵画についての調査と色彩表現の確認	30分
12回	ファンシーヤーンを使用したテキスタイルの制作 設計・糸準備	(予習) 秋・冬シーズンのウール製品の市場調査する	30分
13回	ファンシーヤーンを使用したテキスタイルの制作 織布	(予習) 自分の好きなアーティストの絵画をリサーチし色の使い方について考察する	30分
14回	ファンシーヤーンを使用したテキスタイルの制作 織布、仕上げ	(予習) 糸の太さと箆密度や組織についてフィードバックしておく	45分
15回	まとめ	(復習) 経糸と緯糸の構造によって表現される形状が異なることを確認する	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

・オリジナルテキスト配布

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

水曜日（15：00～17：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

- ・ダイニングテクニックと関連した授業展開である
- ・パネルキルトを使って「服」の制作を行う。大学祭時に学生自ら考えたショー企画と実際を行う
- ・産地見学旅行（9月上旬頃予定）
- ・ダイニングテクニックⅡ・テキスタイルデザインⅡの単位を取得していること

テキスタイルデザインⅣ

田口 雅子

3年 後期 テキスタイル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

テキスタイルデザインⅢで学んだスキルを活かし、テキスタイルデザイン・設計（糸・染色・組織・素材など）の条件設定を自らし、イメージを「布」で表現できる能力を育成する。

■到達目標（学修成果）

応用課題として、自らテーマを決め、それに適した材料と技法を選択し、設計・制作する。そのプロセスを理解し、プレゼンテーションできるようになる。また、産学連携ではコンセプトを設定し、自らの考えをまとめ、企画立案できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	緯絣織物の制作 柄を織物構造で捉える、緯絣織物 デザイン 実習	（予習）「絣」とは技法と作品を調査する 防染とズラシの効果について考察する	120分
2回	緯絣織物の制作 設計	（予習）技法を理解し、デザインに発展させる 方法を考える	60分
3回	緯絣織物の制作 織布準備 種糸について	（予習）組織と糸の特徴から適した色彩について 考える。	45分
4回	緯絣織物の制作 織布準備	（予習）制作工程から緯糸と柄の関係について 考える	30分
5回	緯絣織物の制作 織布	（復習）絣を応用したテキスタイル・商品について 考察する	30分
6回	緯絣織物の制作 織布	（復習）織布。配色の効果について考察する	30分
7回	緯絣織物の制作 織布	（予習）その他の伝統技法について調査する	30分
8回	仕上げ・まとめ 作品提出	（復習）絣織物を理解しまとめる	120分
9回	学内コンクール作品制作 ポートフォリオの作成	（予習）これまでの作品のプロセスを振り返る	30分
10回	学内コンクール作品制作 ポートフォリオの作成	（復習）PC技法の確認を行う	45分
11回	スクールユニフォーム コンセプトとチェック柄デザインの考案（CG）	（予習）デザインリサーチとコンセプト考案 学生同士のディスカッション	45分
12回	スクールユニフォーム デザイン検討 テキスタイルCGシミュレーション	（予習）デザインの制約を理解し、デザイン展開 を行う	30分
13回	スクールユニフォーム デザイン考案 依頼書作成	（予習）配色の効果と着装シミュレーションを 行う	30分
14回	チェック柄デザインの考案（CG） プレゼンテーション準備	（復習）効果的なプレゼンテーションのための 画像を考える	30分
15回	チェック柄デザインの考案（CG） プレゼンテーション準備	（復習）デザインの要素と作成のプロセスを理 解し、考案できたかを振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

作品完成度 プレゼンテーション内容

■教科書

・オリジナルテキスト配布

■参考文献

適宜配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（10：40～12：10）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

- ・ダイイングテクニック、テキスタイルデザインⅢの単位を取得していること
- ・ダイイングテクニックⅣと関連した授業展開である
- ・産学連携「スクールユニフォームの提案」プレゼンテーション審査会は2月中旬に実施
- ・ファッションショーのディスカッションを授業内で行う

ダイニングテクニックⅢ

田口 雅子

3年 前期 テキスタイル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

ダイニングテクニックⅡの延長上に位置し、作品制作を通してさらに様々な染色技法を学ぶ。技法と表現の関係を学び、テーマを理解し自己のイメージが染色（色彩）によって表現できる応用的な能力が身につくことを方針とする。

■到達目標（学修成果）

繊維、糸、布染めの基本的な技法に加え、染色プロセス、染色計画書の作成ができる能力を習得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	パネルキルトの制作 ウール糸の染色1	（予習）糸量から染色条件を計算し、正しく設計する方法を考える	60分
2回	パネルキルトの制作 ウール糸の染色2	（復習）チェックの商品リサーチ	30分
3回	パネルキルトの制作 ウール糸の染色3	（復習）糸量から染色条件を計算し、正しく設計し、その実際をまとめる	45分
4回	パネルキルトの制作 経糸準備	（復習）糸量から染色条件を計算し、正しく設計し、その実際をまとめる	45分
5回	スピニング 準備（原毛の精練と染色）	（予習）ウールとは、羊について調査	30分
6回	スピニング 原毛のミキシング	（復習）ミキシングの効果について考える	60分
7回	スピニング 原毛について 羊の種類、部位と製品の解説、ソーティング、洗毛	（予習）羊の種類と毛質について調査 工業用紡績工程の確認	60分
8回	カーディング、ローラグ、紡毛と梳毛について	（復習）羊の種類、部位による毛質の相違についてまとめる	60分
9回	スピニング	（復習）撚り効果について考察する	60分
10回	ファンシーヤーンを使用したテキスタイルの制作 染色 求める色の再現	（復習）形状の異なる糸の染法についてまとめる	30分
11回	ファンシーヤーンを使用したテキスタイルの制作 染色 求める色の再現	（復習）染料の調合方法についてまとめる	45分
12回	ファンシーヤーンを使用したテキスタイルの制作 準備 濃度の確認	（復習）濃度と色彩の関係についてまとめる	60分
13回	草木染めサンプル	（復習）媒染の役割まとめ	45分
14回	草木染めサンプル	（復習）草木の種類と染法	45分
15回	まとめ	（予習）各課題を振り返り、作品制作に繋げるためのデータのまとめをする	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

・オリジナルテキスト配布

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：20～17：50）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

- ・テキスタイルデザインとの関連した授業展開である
- ・テキスタイルデザインⅡ・ダイニングテクニックⅡの単位を取得していること

ダイニングテクニックⅣ

田口 雅子

3年 後期 テキスタイル必修 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

ダイニングテクニックⅢまでで習得した技術を応用し、染色の応用技法（緯緋）の修得とデザイン力を高め、オリジナル作品のデザイン考案と制作する能力のレベルアップを図る。

■到達目標（学修成果）

ダイニングテクニックⅠ～Ⅲを更に発展した授業で、伝統的な緋糸の染め技法などを学び広範囲な染色技法を身に付けることで、技術と創作力を持ち自己のイメージを的確に表現できる能力を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	緯緋織物の制作 染色準備 くくり	（予習）防染法の織物と緯緋織物の制作について調べる	60分
2回	緯緋織物の制作 染色準備 くくり	（予習）日本や世界における緋を調査する	30分
3回	緯緋織物の制作 染色	（予習）緋のデザインの仕組み、種糸について理解する	30分
4回	緯緋織物の制作 染色	（復習）経糸と緋糸の交錯点や緯糸密度、配色による表現の関係を考える	30分
5回	緯緋織物の制作 染色	（予習）効果的な配色について考える	60分
6回	作品課題Ⅱ 学内コンクール作品制作 デザインディスカッション	（予習）テーマの観察を行い、デザインを考案するための準備を行う	120分
7回	学内コンクール作品制作 サンプル制作①	（予習）コンセプトを設定し、デザインに適した素材、技法について調査する	120分
8回	学内コンクール作品制作 サンプル制作②	（復習）色彩や形状がどのような効果を成しているか観察、確認をする	60分
9回	学内コンクール作品制作 サンプル制作③	（復習）テキスタイルとの商品への展開を再度確認する	30分
10回	学内コンクール作品制作 サンプル検討のためのディスカッション	（予習）イメージと制作の相違の検討と改善	60分
11回	学内コンクール作品制作 制作	（予習）適切な素材、技法のリサーチと改善	60分
12回	学内コンクール作品制作 制作	（復習）技法と表面形状について観察と考察	45分
13回	学内コンクール作品制作 制作	（復習）作品のについて考える	45分
14回	プレゼンテーションのためのCG制作	（予習）プレゼンテーションのシナリオ効果的なプレゼンについて考える	60分
15回	コンクール形式：プレゼンテーション・審査会、外部評価員による講評、まとめ	（復習）学修した内容をまとめ、卒業制作デザイン考案に繋げる	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

コンテスト形式によるプレゼンテーション、および課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	作品完成度
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	20%	

■教科書

オリジナルテキスト配布

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：20～17：50）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

- ・テキスタイルデザインⅣに関連した授業展開である
- ・JFW 展示会やアーティスト展示会見学を積極的に行うこと
- ・テキスタイルデザイン、ダイニングテクニックⅢの単位を修得していること
- ・検定試験を受験する
- ・コース内コンクールは外部審査員による審査会の実施

ニットイング I

山川 智子

3年 前期 テキスタイル必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ニットのデザイン・企画を行うは、ニット生地知識や、コンピュータ制御横編機での編成についての技術的な知識が必要となる。そのため、ニット全般に関わる基本的な知識を学び、コンピューターニット CAD システムやコンピュータ制御横編機の基本操作を学ぶ。また、多種多様な編地に触れ、現場で業務に活かせる知識・技術の習得を目指す。

■到達目標 (学修成果)

ニットの基本的な知識とコンピュータ制御横編機の基本操作ができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	ニットとは、ニットの歴史、編物と織物の違い、ニットの分類、ニットの産地	予習：シラバスを読む 復習：市場のニットを改めて意識して見る	30分
2回	繊維の種類、糸の種類、番手、ゲージ、リンクングについて、編地の種類、ニットの加工	復習：糸の太さを表す単位を思い出す。品質表示を見てニット製品にはどんな糸が使用されているか調べる	30分
3回	編み目について・三原組織、手編み三原組織(実習)	復習：表目・裏目、編物の3原組織について構造・特徴を理解する	30分
4回	ニットCADについて、編機について、DSCSについて	復習：ニットCAD操作方法をノートにまとめ、操作方法を確認する	30分
5回	編地の種類①	復習：基本的な編地について見直し特徴を覚える	60分
6回	編地の種類②	復習：基本的な編地について見直し特徴を覚える	60分
7回	ニットCAD三原組織データ作成 ニット機SES操作方法	復習：ニットCAD入力・ニット機SES操作方法の確認	30分
8回	三原組織CAD入力・編立① ニット生地の復元①(グループワーク)	復習：編み目とCAD色番号、JIS記号を考え、CAD入力の準備をする	30分
9回	三原組織CAD入力・編立② ニット生地の復元②(グループワーク)	復習：編み目とCAD色番号、JIS記号を考え、CAD入力の準備をする	30分
10回	三原組織CAD入力・編立③ ニット生地の復元③(グループワーク)	復習：編み目とCAD色番号、JIS記号を考え、CAD入力の準備をする	30分
11回	三原組織CAD入力・編立④ ニット生地の復元④(グループワーク)	復習：編み目とCAD色番号、JIS記号を考え、CAD入力の準備をする	30分
12回	三原組織CAD入力・編立⑤ ニット生地の復元⑤(グループワーク)	復習：編み目とCAD色番号、JIS記号を考え、生地の特徴など発表準備をする	30分
13回	ニット生地の復元まとめ 担当した編地について発表する	復習：編出した生地の特徴、CAD入力色番号、JIS記号をまとめる	30分
14回	まとめ、課題の仕上げ・提出	予習：テキスト・ノートを見直す	90分
15回	ニットイング I のフィードバック	復習：前期の授業内容は後期にも必要になるので内容を振り返る。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

小試験の解答と説明。各学生に課題の評価と指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「ニットの基本」織研新聞社 鈴木美和子他 著

■オフィスアワー・研究室

水曜日 (16:00~17:00) 2104教室

■備考

なし

ニットⅡ

山川 智子

3年 後期 テキスタイル必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ニット製品の企画から生産を行うためには、サンプルアップから量産までを全体的に考えられる力が必要である。そのため、ニット製品のプロセスを学び、ニットⅠの編地の知識を合わせて企画及び量産をするために必要な知識やコンピュータ制御横編機を操作する技術を総合的に習得することを目指す。

■到達目標（学修成果）

ニットの基本から製品製造プロセスまでを理解し、ニット製品の企画と制作ができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ジャカード編地の種類 ジャカード柄の設計（デザイン）	予習：前期（ニットⅠ）の内容を振り返る	30分
2回	ジャカード柄のCAD入力（実習）・編立① マフラー（テーマ、コンセプトの決定）	復習：ジャカードのデザインを完成させる	30分
3回	ジャカード柄のCAD入力（実習）・編立② マフラー（袋ジャカード柄デザイン①）	復習：CAD入力について教科書とノートを見直す	30分
4回	ジャカード柄のCAD入力（実習）・編立③ マフラー（袋ジャカード柄デザイン②）	予習：編み出した袋ジャカードの生地を確認し、マフラーの柄を考える	60分
5回	ジャカードマフラーCAD入力・編立・仕上げ① マフラー（柄の配置を考える）	予習：CAD入力の方法の確認	30分
6回	ジャカードマフラーCAD入力・編立・仕上げ② 無縫製ニットサンプル編立・糸始末について	予習：自分の持っているニットの縫製をチェックする	30分
7回	ジャカードマフラーCAD入力・編立・仕上げ③ 無縫製ニットサンプル編立・糸始末について	予習：CAD入力の方法の確認	30分
8回	ジャカードマフラーCAD入力・編立・仕上げ④ 無縫製ニットサンプル編立・糸始末について	復習：CADによるデータの作成方法について、まとめる	90分
9回	ニット製品の種類、ニット製品の制作プロセス 製品の仕様書の書き方について	予習：プルオーバーセーターの市場調査 復習：製品を作るプロセスを再確認する	60分
10回	セーターの形についてリサーチ（形・名称）について	予習：セーターの形（各部位について）のリサーチ	60分
11回	製品の仕様書の作成① セーターを見ながら仕様書を作成	予習：セーターをみて仕様を考える	30分
12回	製品の仕様書の作成② オリジナルデザインの仕様書の作成	予習：ニット製品のデザイン・仕様を考える	60分
13回	製品の仕様書の作成③ オリジナルデザインの仕様書の作成	予習：ニット製品のデザイン・仕様を考える	60分
14回	カットソーについて・特殊ミシンについて まとめ、課題仕上げ・提出	予習：テキストと配布資料に目を通し、小試験に備える	60分
15回	オリジナルジャカードマフラーのプレゼンテーション ニットⅡのフィードバック	復習：教科書・ノートを見直し、ニット全般復習する	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小試験の解答と説明。各学生に課題の評価と指導を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「ニットの基本」織研新聞社 鈴木美和子他 著

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）2104教室

■備考

- ・ニットⅠの単位を取得していること
- ・ニットの展示会、ニット工場、機械メーカーのショールームなどの見学を行う。

プリントデザイン演習Ⅰ

土岐 千春

3年 前期 テキスタイル必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

テキスタイル業界におけるプリントの位置づけと各素材との関係性を理解し、オリジナルデザインの作成をする。素材開発の工程や加工の変遷、産地について解説する。商品化を見据えたデザインとプレゼンテーションを通して企画者としての提案力を身につける。講師の企業実務に基づき業界の現状と展望を紹介する。

■到達目標（学修成果）

プリントテキスタイルのデザイン・商品企画・配色・生産の工程を理解し、自らアイデアを出し、企画立案・柄作成・提案・プレゼンテーションが出来るようになる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業内容とスケジュールの説明 服飾業界におけるシーズンとファッションカレンダー作成	予習：プリントデザインについてリサーチする	30分
2回	生地の種類とプリントの種類、技法の解説 プリントに適した素材や制約について	予習：プリントの加工方法、技法についてリサーチする	30分
3回	プリントの生産地と加工方法の変遷 ・国内外の主要産地と新しい加工方法の解説	予習：プリントの生産地やメーカーについてリサーチする	60分
4回	プリント図案の制約と型作成の工程と手順	復習：型の作り方についてまとめる	30分
5回	著名ブランドのテキスタイルの特色と代表的な柄 ・モリス、リパティ、マリメッコ、ミナペルホネン等	予習：各ブランドの作品を調べる	30分
6回	時代を超えて多用されるデザインの特徴 ・アールデコ、アールヌーボー、50年代、70年代調、和柄等	予習：各デザインテーマの作品や時代背景を調べる	60分
7回	・デザイン毎の柄サンプルを収集し特徴を理解する	復習：時代と加工方法やそれらのデザインが求められた理由をまとめる	60分
8回	目的に合わせたデザインを作成する ・相手の意向に合わせたデザインを作成する	予習：身の回りのプリントの使われたものをサンプリングする	30分
9回	・テーマと用途を指定された場合のデザインの作成と提案を 考えプレゼンテーションする ※アクティブラーニング	予習：用途、目的に合わせたデザインとはどういったものか考える	30分
10回	・地塗り、線描き、糸目、ハケタッチなどの描画テクニック	予習：プリント柄の描画方法をリサーチする	60分
11回	・柄レンジ、カラーバリエーションの作成と提案	予習：プリントのカラーバリエーションをリサーチする	60分
12回	服飾以外のプリント、テキスタイルの用途について	予習：プリントの使われているものにはどのようなものがあるかリサーチする	60分
13回	・インテリア用途のテキスタイルとプリントのデザイン	予習：カーテンや壁紙などの柄をリサーチする	60分
14回	・柄デザイン作成 ・プレゼンテーション ※アクティブラーニング	復習：インテリアにおけるプリントの活用方法や効果をまとめる	30分
15回	SDGSの取組と今後の展望 ・アップサイクルのアイデアとデザイン方法をグループワークで研究する ※アクティブラーニング	復習：前期内容のまとめ	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポート、課題作品について返却時に講評します

■成績評価の方法・基準

授業態度、姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	レポート・課題作品 表現力、完成度
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜プリント資料配布

■参考文献

図書館内資料等

■オフィスアワー・研究室

テキスタイルデザイン研究室(3011)

火曜日(9:00～12:10)

■備考 なし

プリントデザイン演習Ⅱ

土岐 千春

3年 後期 テキスタイル必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

プリントデザイン演習Ⅰで学んだ内容を発展させ、トレンド情報の活用やコーディネート提案が出来るデザインを作成するグラフィックソフトを使用した描画によりデジタルデータでの作成を行う。展示会形式での表現の仕方、準備など講師の企業実務に基づき展示方法や企画全般の業務を解説し業界の実情やサプライチェーンの理解に繋げる。

■到達目標（学修成果）

プリントテキスタイルのデザイン・商品企画・配色・生産の工程を理解し、自らのアイデアから表現した企画立案・柄作成・提案が出来るようになる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期内容の確認とまとめ ・主な素材の製造方法の特徴のまとめ	予習：前期学習内容を振り返り確認する	30分
2回	トレンド情報の分析と活用方法 ・主なトレンド情報とコレクション分析の方法	予習：トレンド情報について図書館等でリサーチする	60分
3回	トレンドを意識した柄の作成とカラー展開、アイテムを提案	予習：昨シーズンと今シーズンの違いや流れを店頭や雑誌で確認する	60分
4回	・テーマを設定して柄を作成し図案化する	予習：テーマにする題材を考える	30分
5回	・カラーバリエーション、提案アイテムデザインを作成する	予習：色と柄のデザイン性を考える	30分
6回	・型出し、配色依頼(マス見本依頼)等依頼書を作成	予習：どのような情報を伝えなければならぬかを考える	30分
7回	CGソフトによる図案の作成	予習：グラフィックソフトの操作方法を確認する	30分
8回	・デザインのベースとなるスケッチの作成と手順書の作成	予習：デザインに適した作業方法と手順を考える	60分
9回	・CGによる図案リピート作成	予習：リピートの付け方を確認する	30分
10回	・CGによるカラーバリエーション作成 ※アクティブラーニング	復習：グラフィックソフトによる描画方法のポイントをまとめる	60分
11回	トータルコーディネートシーズンマップをグループワークで作成しプレゼンテーションする ※アクティブラーニング	予習：店頭における色や柄、素材の組合せをリサーチする	60分
12回	・コンセプト、テーマの設定 ・担当分担	予習：コーディネートに必要な素材とアイテムを考える	30分
13回	・コンセプトに合わせた柄、先染め等素材のデザインを考えコーディネートマップにまとめる	予習：プレゼンテーションの方法とシナリオを作成する	30分
14回	・プレゼンテーション(相互評価を行う) ※アクティブラーニング	復習：コーディネートして提案することによる効果をまとめる	60分
15回	まとめ	復習：プリントデザインのポイントと用途、効果についてまとめる	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題作品について返却時に講評します

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	課題作品 表現力、完成度
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜プリント資料配布

■参考文献

図書館内資料等

■オフィスアワー・研究室

テキスタイルデザイン研究室（3011）

木曜日（9：00～12：10）

■備考

プリントデザイン演習Ⅰを修得していること

素材分析実験

山川 智子

3年 後期 テキスタイル必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

アパレル素材を構成している繊維、糸、布などの基本的な材料の構造を理解するためにアパレル製品の解体を行う。繊維、糸、布の物理特性の測定や形状観察によって、測定値と布、布と製品の関係を捉え、分析結果をレポートにまとめる。その過程で素材についての理解と観察力、判断力、まとめる力を修得する。

■到達目標（学修成果）

アパレル製品を繊維まで解体（分析）するプロセスと測定機器の使い方を習得する。測定値、形状観察を通して素材特性とアパレル製品との関係を考察し、素材特性を踏まえたアパレル製品のデザイン・設計が再考できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	素材分析の重要性を説明する、測定機器の説明と測定方法	（予習）着装している衣服の品質タグを多数リサーチする	45分
2回	グループワーク①：アイテム1点担当する 代表的な素材が使われているアパレル商品アイテムの選出、観察、衣服解体をする	（予習）着装している衣服のパーツについて観察する	30分
3回	衣服解体によって、部位と衣服のパーツについて観察する 布→糸→繊維各工程で試料の作成をする	（復習）着装している商品アイテムによって部位と異なるパーツの個数と役割について思考する	30分
4回	天然繊維：綿、ウール、絹繊維の側面、形状の観察し、特徴を考察する	（予習）顕微鏡操作についてのプリントを確認する。天然繊維の顕微鏡写真を提示する	30分
5回	麻、合成繊維ポリエステル異形断面糸の側面、断面の観察 形状の特徴から考察する	（予習）「アパレル素材の基本」テキストの繊維について読む	45分
6回	グループワーク②：アイテム1点担当する 混紡・合成繊維：商品アイテムの選出 衣服解体	（予習）シーズンごとの身近な衣類についてリサーチする	60分
7回	衣服解体 布→糸→繊維 試料の作成	（予習）衣服材料学テキストの繊維・糸・布について読む	60分
8回	混紡糸の分解、各繊維の側面、断面の観察 形状の特徴から考察する	（予習）合成繊維の顕微鏡写真を提示、繊維断面・側面画像の確認をする	45分
9回	糸の太さの表示と実際 算出方法：番手とデニール（デシテックス）	（予習）身の回りの製品に焦点を当て、糸の太さと布の厚さについて観察する	30分
10回	撚り方向と撚り数、合糸数、撚り構造と糸の特徴	（予習）「アパレル素材の基本」テキストの撚りについて読む	30分
11回	布の強伸度、剛軟度測定	（予習）被服材料学関係図書の物理特性（強伸度、剛軟度）について読む	30分
12回	布のドレープ性、防しわ性の測定	（予習）被服材料学関係図書の物理特性（ドレープ性、防しわ性）について読む	30分
13回	グループワーク①②：試料の分析結果の測定値を比較、類似や相違などについてディスカッションし、繊維や糸から形成される布の特徴をアイテムとの関係で考察する	（復習）風合がいとどのような事から作られるか具体的に測定値を確認しながら考察する	30分
14回	分析のまとめ方、プレゼンテーション用パワポの作成、レポート作成のためのシナリオの作成	（復習）実験結果をまとめる	45分
15回	プレゼンテーション、講評、まとめ	（復習）プレゼン方法が適切かを考える 実験結果について考察・まとめをする	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポート返却時に講評する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

テキスト配布

■参考文献

繊維メーカ最新レポート

アパレル素材の基本（織研新聞社）、被服材料要論（コロナ社）など

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）2104 教室

■備考

・研究所見学：「カケンテストセンター」化学繊維製品検査協会

画像表現演習Ⅰ

水越 綾

3年 前期 テキスタイル必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

イメージをカタチにしてゆく上で大切な事は、自身が考えているイメージをまず明確にする事です。そのためには、コンセプトやイメージなどの言葉を丁寧に紡ぎ、その言葉から連想されるイメージをカタチにしてゆくことです。

本授業では、Adobe Photoshop・Illustrator、特にIllustratorに重点を置き、テキスタイルデザインや、ポートフォリオ等に生かすことができるような表現力・実践力を養ってゆきます。

また、イメージを適切に可視化する為には技術力だけではなく配色についても意識をして制作をおこなう必要があることから、本授業ではイメージ・カタチ・イロの組み合わせを考えて制作をおこなって頂きます。

その為には、まず皆さんがテキスタイルデザインに関する知識を広げておく必要があります。従って、時間外学習として様々な作品を見て表現手法をリサーチしたり、アイデアスケッチを行って頂きます。

また、なるべく客観的な視点をもって、自身の作品と対峙し、課題や問題に気づき、改良できる力を養うべく、課題毎にプレゼンテーションやディスカッション等をおこないます。これらの学びを対面・manabaを通じて双方型授業で実施してゆきます。

■到達目標（学修成果）

これまでの教育課程において培ってきた知識・技術・経験を活かし、よりの確に自身のイメージを可視化する為、それらを深め・探求することができる力。そして、そのためのアプリケーションスキルや配色・構成力の向上に自ら務めることができる。

また、客観的な視点を常に持ち、自身の作品と対峙する力を身に付けることを目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与）については、テキスタイルデザインコース必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	初回オリエンテーション プロフィールカードの作成を通してイラストレーター機能の確認①	予習：Illustratorの基礎的な操作を確認しておく。課題：授業内に終わらなかった課題を進めておく。 授業後半に実施する応募作品制作に向けた準備	30分
2回	初回オリエンテーション プロフィールカードの作成を通してイラストレーター機能の確認②	課題：課題を完成・修正して提出する。授業後半に実施する応募作品制作に向けた準備（manabaを通じて制作に向けたディスカッションをおこなってゆきます）	45分
3回	ハンガーイラストの作成を通してイラストレーター機能の確認③	課題：授業内に終わらなかった課題を進めておく。 授業後半に実施する応募作品制作に向けた準備（manabaを通じて制作に向けたディスカッションをおこなってゆきます）	45分
4回	ハンガーイラストの作成を通してイラストレーター機能の確認④ コンペ応募作品の為のディスカッション①	課題：課題を完成・修正して提出する。	45分
5回	簡単な柄作成（ドット柄・チェック柄・ストライプ柄・波型・うろこ柄）を行いながらイラストレーターの基本的操作を確認する	予習：単純な形で構成されているパターンを探してみる 課題：授業時間内に終わらなかった課題を完成させ、manabaに提出しておく。／授業後半に実施する応募作品制作に向けた準備（manabaを通じて制作に向けたディスカッションをおこなってゆきます）	90分
6回	幾何学形態を応用した柄（ヘリンボーン柄・ブロック柄・アーガイル柄・千鳥格子）	予習：幾何学形態で構成されているパターンを探してみる 課題：授業時間内に終わらなかった課題を完成させ、manabaに提出しておく。	90分
7回	曲線が美しい柄をつくる（ペイズリー柄・植物柄等） ペンツール	予習：美しい曲線で構成されているパターンを探してみる 課題：次課題の準備／授業時間内に終わらなかった課題を完成させ、manabaに提出しておく。／授業後半に実施する応募作品制作に向けた準備（manabaを通じて制作に向けたディスカッションをおこなってゆきます）	90分
8回	配色効果を考えた柄作成①準備学習で作成した素材をモチーフに柄を作成し、配色展開する。	予習：様々なテキスタイルデザインを見る。課題：課題を進めておく。	90分
9回	配色効果を考えた柄作成② コンペ応募作品の為のディスカッション②	予習：課題を進めておく／様々なテキスタイルデザインを見る。課題：発表の準備／授業後半に実施する応募作品制作に向けた準備（manabaを通じて制作に向けたディスカッションをおこなってゆきます）	90分
10回	配色効果を考えた柄作成③発表と振り返り／よりイメージに合わせてゆくためのブラッシュアップ	課題：発表の振り返り／他者の作品から学んだ事、気付いた事をmanabaに提出。／授業後半に実施する応募作品制作に向けた準備	90分
11回	テキスタイルデザインコンペ作品の制作 デザイン案についてプレゼンテーション、ディスカッション ／個別コメント／ブラッシュアップ	予習：制作に向けて必要な素材を作成、収集しておく 課題：制作を進めておく／復習：プレゼンテーションでの振り返り／デザインのブラッシュアップ	90分
12回	テキスタイルデザインコンペ作品の制作 ブラッシュアップ版確認・個別コメント／本制作	課題：課題を進める	90分
13回	テキスタイルデザインコンペ作品の制作／進捗確認	課題：課題を進めておく	90分
14回	テキスタイルデザインコンペ作品の制作／進捗確認	課題：課題を進めておく	90分
15回	発表・振り返り・修正の後提出／講評	課題：発表の振り返り／他者の作品から学んだ事、気付いた事をmanabaに提出。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題の提出及びインフォメーションはmanabaを利用する。課題のフィードバックに関しては、対面及びmanabaを通じて行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manabaでの振り返り等総合して成績評価致します。

ルーブリックによって評価ポイントを明確にした上で制作・発表をおこないます。評価は教員によるものに加え、自己評価・履修者間による相互評価をおこないます。

それ以外の評価基準については、授業内に指示します。

■教科書

なし

■参考文献

幾何学パターンづくりのすべて（ポール・ジャクソン著、BNN出版）、新しい模様・柄・パターンのデザイン（BNN出版）1年次の情報演習Ⅱで使用したテキスト（Illustrator&Photoshop 操作とデザインの教科書）を持参する事を勧めます。

■オフィスアワー・研究室

6012B 情報基礎研究室/manaba からいつでも相談可

■備考

授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。（特にコンペ）その場合は事前にアナウンスする

テキスタイルデザインコースのほかの授業で学んだ事を活かして頂きたいので、ご自分が今まで作成した素材を集めておいてください。

積極的に展覧会や展示会、産地等に足を運び、学外での知見を広げ、深めて下さい。

画像表現演習Ⅱ

江野 晋平

3年 後期 テキスタイル必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

業界標準である Adobe ソフトウェアを用いたテキスタイルデザインと商品化へのプロセスを理解する。
実務経験（グラフィックデザイン事務所を運営）を生かした方法で授業展開する。実践型で進めることを方針とする。

■到達目標（学修成果）

企画デザインから実際の商品になるプロセスを理解し、画像表現演習Ⅰを踏まえ Adobe ソフトウェアを用いたテキスタイルデザインを自立して制作できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	Photoshop、Illustrator を用いたテキスタイルデザインを用いたテクニック習得 トレース	（予習）与えられたテーマについて web、にて調査する	30分
2回	Photoshop、Illustrator を用いたテキスタイルデザインを用いたテクニック習得 スキャニングからモチーフを制作	（復習）習得したテクニックについて理解する。解像度・DPI についての理解	30分
3回	Photoshop、Illustrator を用いたテキスタイルデザインを用いたテクニック習得 リピート	（復習）習得したテクニックについて理解する。リピートの仕組み、ハーフステップ、正送り	30分
4回	Photoshop、Illustrator を用いたテキスタイルデザインを用いたテクニック習得 フラットスケッチへのマッピング	（復習）習得したテクニックについて理解する。（フラットスケッチへの展開についての意味を理解する）	30分
5回	Photoshop、Illustrator を用いたテキスタイルデザイン制作 1 対象のターゲットを絞り込んだテキスタイルデザイン制作	ターゲットへ向けての制作コンセプトが出来ているか見直す	30分
6回	Photoshop、Illustrator を用いたテキスタイルデザイン制作 2 対象のターゲットを絞り込んだテキスタイルデザイン制作	4回目までの授業で習得したテクニック+作品によって必要なテクニックを個別に指導した内容を予習する。	30分
7回	Photoshop、Illustrator を用いたテキスタイルデザイン制作 2 対象のターゲットを絞り込んだテキスタイルデザイン制作	（復習）制作した作品を俯瞰し問題点や修正点を見出す。（自身で設定したコンセプトに沿った作品か）	30分
8回	プレゼンテーション用ポートフォリオの制作 1 クライアントに対してプレゼンテーションのデモ	（予習）ポートフォリオのデザインについて情報収集する	30分
9回	プレゼンテーションシミュレーション 対クライアントにプレゼンテーションのデモ	提案するターゲットに合わせた内容となっているか	30分
10回	テキスタイルデザインのプロダクト制作 テーマ、ムードボードの考案	（予習）テーマ、ムードボードを考案しデザインソースを収集する。自身以外への雰囲気伝える時に有効な提案の理解	30分
11回	テキスタイルデザインのプロダクト制作 テーマ、ムードボードからからのラフの考案	（復習）テーマ、ムードボードからからのラフを考案する。コンセプトを作った上での作品への展開	30分
12回	テキスタイルデザインのプロダクト制作 スカーフデザインの制作	（予習）制作中のコンペ作品について知見を深める（市場調査や情報収集）	30分
13回	テキスタイルデザインのプロダクト制作 スカーフデザインの制作	11回目までの授業で習得したテクニック+作品によって必要なテクニックを個別に指導した内容を予習する。	30分
14回	テキスタイルデザインのプロダクト制作 デザインの制作	（復習）制作した作品を俯瞰し問題点や修正点を見出す。	30分
15回	講評 授業内作品についてポートフォリオ制作	（予習）ポートフォリオのデザイン（見せ方）について WEB で情報収集する	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

随時課題提出後にコメントをする

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

適宜プリント配布

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

木曜日（12：30～15：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

画像表現演習Ⅰの単位を取得していること

ファッションプロダクトデザインⅢ

高橋 大夢・野口 和美・大場 有希子

3年 前期 プロダクト必修 (4単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションプロダクト製品の中からバッグと帽子を中心にデザインと制作を行う。企画から最終モデル完成までのデザインプロセスを通し段階的に学修する。さまざまな手法により可能性を探索すると共に素材の特性を知りその組立技術に関する基礎的な知識について学ぶ。以上の内容をより効果的なものとするために、担当者として、日常的に、バッグ、帽子、シューズの製品開発・制作を行っている実務経験者による指導を行っている。

■到達目標 (学修成果)

リサーチ結果の分析、アイデアの創出、造形表現としてのデザイン画、伝達手段としての製図、携帯と昨日の確認のためのモックアップ、最終的な試作として実物制作を通し、全体的なプロセスを正確に理解する。実社会におけるデザインの現場やモノ作りの現場に対応できる能力を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。
ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	[バッグのデザインと制作] ガイダンス 課題、スケジュール説明	予習:A4 ファイルの準備 (20 ポケット以上)縫製サンプル、テキスト持参	60分
2回	I トートバッグの制作 ① デザイン考案	復習:遅れた作業は次回までに進めておく (デザイン画)	60分
3回	② デザインチェック、面談 (ディスカッション) ③ 紙モックアップ	復習:遅れた作業は次回までに進めておく デザイン決定→紙モックアップ準備をする	60分
4回	④ デザイン修正、面談 (ディスカッション)	復習:遅れた作業は次回までに進めておく 紙モックアップを完成させる	60分
5回	⑤ 紙モックアップ修正版完成	復習:遅れた作業は次回までに進めておく 紙モックアップの修正をする	60分
6回	⑥ 製図、個別チェック	復習:遅れた作業は次回までに進めておく (製図、型紙)	60分
7回	⑦ 型紙 個別チェック	復習:不織布モックアップの準備をする	60分
8回	⑧ 不織布モックアップ	復習:製図、型紙を完成させる	60分
9回	⑨ 不織布モックアップ完成	復習:遅れた作業は次回までに進めておく (実物制作)	60分
10回	⑩ 実物制作	復習:遅れた作業は次回までに進めておく (実物制作)	60分
11回	実物制作	復習:遅れた作業は次回までに進めておく (実物制作)	60分
12回	実物制作	復習:遅れた作業は次回までに進めておく (実物制作)	60分
13回	実物制作、完成	予習:紙モックアップを完成させる	60分
14回	完成作品の写真を撮影し、プレゼンテーションの準備	予習:ポスター案を考える	60分
15回	プレゼンテーション (フィードバック) 課題作品における講評を行う	予習:プレゼンテーションの準備	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	作品の完成度とプレゼンテーション能力
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

- 『鞆・ハンドバッグ・小物』(社団法人日本皮革産業連合会)・ファッション工芸講座 I 帽子基礎編 (文化出版局)
- 『レザーソムリエ資格試験公式テキスト』(日本革卸売事業協同組合)

■参考文献

工業用ミシンと漉き機の基本操作とメンテナンス (STUDIO TAC CREATIVE) ・繊維の種類と加工が一番わかる (技術評論社)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー: 金曜日 13:00~14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考

ファッションプロダクトデザインⅢの授業は月曜日と水曜日の週2回行っている。このシラバスは水曜日の内容である。月曜日は、8回は帽子の授業 7回についてはYKKのコンテストやトートバッグの制作を行う。東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。月曜日のシラバスは最初の授業時に掲示する。

ファッションプロダクトデザインⅣ

高橋 大夢・野口 和美・大場 有希子

3年 後期 プロダクト必修 (4単位 演習)

■授業の方針・概要

「ファッションプロダクトデザインⅢ」を更に発展させる。実素材を使ったプロットタイプは学生自身による制作の他、外部工場や職人に依頼します。高度な技術を持った技術スタッフと綿密な打ち合わせやチェックを繰り返しながら完成させる。その際、自身の考えやイメージを的確に伝えるためにデザイン画、正確な図面、立体モデル等を作成する。以上の内容をより効果的なものとするために、担当者として、日常的に、バッグ、帽子、シューズの製品開発・制作を行っている実務経験者による指導を行っている。

■到達目標（学修成果）

デザインをスタートからプロットタイプ完成までのプロセスを通して、実践的な技術・ノウハウを身につけ、社会に対し斬新であり、独創的なデザインを提案できる能力を身に付けることを目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。
ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	[バッグのデザインと制作] ガイダンス 課題、スケジュール説明	復習：シラバスを理解する プレゼンテーションの準備	60分
2回	① 研究テーマのプレゼンテーションⅠ (コンセプト含む)	予習：リサーチを行う 復習：デザイン画を描く	60分
3回	② 個人面談（ディスカッション） デザイン画、紙モックアップ制作	復習：紙モックアップを完成させる	60分
4回	③ プレゼンテーションⅡ (講評とフィードバック)	予習：プレゼンテーションの準備	60分
5回	④ 個人面談（デザインの方向性を決定する）	予習：デザイン画10枚を描く	60分
6回	⑤ デザイン画決定	予習：紙モックアップ準備	60分
7回	⑥ 紙モックアップ、修正	予習：不織布モックアップ準備	60分
8回	⑦ 不織布モックアップ、修正	復習：発注に向けての準備	60分
9回	⑧ 発注前最終チェック デザイン画、製図、モックアップ、材料、サンプル、仕様書を完成させる	復習：発注に向けての準備	60分
10回	外部工場へ発注のための打ち合わせ	復習：発注に向けての最終確認	60分
11回	後期課題の講評と卒業制作への心構え	予習：卒制に向けての構想を練る	60分
12回	卒業制作への個人面談①	予習：コンセプトの確認	60分
13回	卒業制作への個人面談②	予習：コンセプトの確認	60分
14回	卒業制作への個人面談③	予習：コンセプトの確認	60分
15回	卒業制作への個人面談④	予習：デザインの確認	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	作品の完成度とプレゼンテーション能力
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	20%	レザーソムリエ Basic 検定試験を含む

■教科書

- 『鞆・ハンドバッグ・小物』（社団法人日本皮革産業連合会）・ファッション工芸講座Ⅰ帽子基礎編（文化出版局）
- 『レザーソムリエ資格試験公式テキスト』（日本革類卸売事業協同組合）

■参考文献

工業用ミシンと縫き機の基本操作とメンテナンス(STUDIO TAC CREATIVE) ・繊維の種類と加工が一番わかる（技術評論社）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 13:00～14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考

ファッションプロダクトデザインⅣの授業は月曜日と水曜日の週2回行っている。このシラバスは水曜日の内容である。月曜日は、8回は帽子の授業7回についてはレザーソムリエ Basic 検定試験対策講座や卒業制作に向けての授業を行う。東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。月曜日のシラバスは最初の授業時に掲示する。

ファッションプロダクトデザインゼミ

高橋 大夢

3年 前期 プロダクト必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

この授業は産学協同プロジェクトを通し、製品化を目指しデザインを行う。実際に商品の選定やウェブサイト、SNSを最大限に活用し、商品開発・製品化・販売に至る流れについて考えていく。ターゲットとなる市場に合わせ魅力的で人気のあるファッション小物の開発を行っていく。オンラインショップ、実店舗、または両方の販売チャンネルを検討し、連携している企業に向けてのプレゼンテーションを行う。実社会に於けるこれらの体験を通し、その重要性をより深く理解出来るのではないかと考えられる。特に自身の提案をより説得力を持ったものとする為にはリサーチを基に作成する資料の充実、デザイン案を正確に伝えるデザイン画、試作モデルの完成度のレベルアップなどいずれもプレゼンの成否に関わる極めて重要な力である。又、社会で活躍している専門家とのディスカッションを重ねることにより、商品開発に関わる市場調査の役割、市場における価格によるセグメント化などデザインとマーチャンダイジングの関係をより現実的なこととし捉える訓練にも繋がる。

■到達目標（学修成果）

大手ファッションブランドから、アパレル関連企業に至るまでファッション雑貨を扱う企業において、極めて重要である企画力、商品開発力、制作に関する様々な知識を身につけることできる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。

ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス（産学共同プロジェクト）グループ制作 ・授業計画・ファッションプロダクト デザインゼミの概要	予習：シラバスを理解する。	30分
2回	コンセプト・デザイン案（グループディスカッション）	予習：マーケットリサーチを行う	60分
3回	コンセプト・デザイン案（グループディスカッション）	復習：マーケットリサーチを行う	60分
4回	コンセプト・デザイン案（グループディスカッション）	予習：マーケットリサーチを行う	60分
5回	プレゼンテーション①フィードバック	予習：プレゼンテーションの準備	60分
6回	デザイン修正（面談）	予習：デザイン修正を行う	60分
7回	デザイン修正（面談）	予習：デザイン修正を行う	60分
8回	モックアップ制作	復習：モックアップ準備	60分
9回	モックアップ制作	予習：引き続きモックアップ制作	60分
10回	モックアップ制作	予習：プレゼンテーションの準備	60分
11回	プレゼンテーション②フィードバック	復習：修正・確認	60分
12回	① プロトタイプ制作（グループ制作）	予習：プロトタイプ制作準備	60分
13回	② プロトタイプ制作（グループ制作）	予習：プロトタイプ制作	60分
14回	③ プロトタイプ制作（グループ制作）	予習：プレゼンテーションの準備	60分
15回	プレゼンテーション③外部評価員による講評	復習：修正・確認	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品の完成度・プレゼンテーション能力
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜プリントを配布

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 11:00～12:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室（第三校舎4階 3409）

■備考

授業の中で東京レザーフェア、YKK ファスニングアワード、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会やコンテストの紹介をする。

マテリアル実習Ⅰ（金属）

桐山 征士

3年 前期 プロダクト必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

金属を用いたアクセサリーをデザインし、制作する。ただし、アクセサリーをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。

デザインは学習することで、ある程度習得が可能である。ただし、短期間では習得できない。

デザインとは、「カッコいいカタチを考える」ことではない。「カタチ」を考える前にやらなければならないことはたくさんある。「カッコいいカタチ」は素人でも考えつく。本来のデザインや造形はもっと高いレベルで存在している。デザインはスタイリング(見た目)ではなく、もっと大所高所から考えなければならない。「思考の密度を上げる」ことと、「独自の視点とその表現」が重要である。

デザインは目的に応じて様々な進め方がある。一般的には、ターゲットの設定・調査・分析・整理をした後、ターゲットを設定し目標を掲げ、コンセプトの立案をする。この段階は非常に重要である。それなりの経験値を積み別だが、いきなり絵を描く(カタチを考える)などありえない。カタチはターゲットもしくは独自の発想や独自の表現方法と、コンセプトが導いてくれる。そこでこの授業では、美術家兼デザイナーの担当教員が「デザイン(造形)の構築法」を指導する。実際にデザインや造形を生業としている者とディスカッションしながら構築法を学ぶ。デザインや造形を独学で習得するのは極めて困難だからである。プロダクトアウトの姿勢でデザインを進める。

エスキースでは、まず量のエスキースを行う。量を出すことで「思いつき」を「デザイン」に昇華させる。このトレーニングは形状の考察を繰り返し行うことで、造形的感覚と美的感覚を育む。デザインや造形においてとても重要なトレーニングである。質のエスキースでは、たくさんエスキースの中からコンセプトに見合うものを選別し、ブラッシュアップを行う。

流行といった刹那的なものに囚われることなく、本質的に優れたものを生み出すものが、今、求められている。この授業でも一般的なジュエリーではなく、まだ日本には馴染みが薄い「コンテンポラリー系」のジュエリーを目標とする。

ものづくりは技術ベースで考える必要はない。技術は後からついてくる。困難な加工は教員が担当する。その際の指示はデザイナーにとって身につけなければならない最低限の能力だ。依頼する力も育てる。

■到達目標（学修成果）

やコンセプトの構築法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。積極的なコミュニケーション力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修科目 デザインプロセスと構想の練り方の基本を学習することで、全ての造形課題に役立つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	デザインとアートの違い・デザインプロセスの講義(美術家兼デザイナーの担当教員) ジュエリーの講義	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	情報収集 幅広い情報を集めイメージの幅を広げる。既成概念を取り払う。	復習：アクセサリーを見に行く。	30分
3回	情報収集・分析 アクセサリーのコンセプトやターゲットを読み解く。	復習：アクセサリーを見に行く。コンセプトを分析する。	30分
4回	コンセプトの設定 担当教員と個別ディスカッション	復習：ベースとなる思想の確認。	30分
5回	コンセプトの設定 担当教員と個別ディスカッション	復習：コンセプトの深掘り	30分
6回	エスキース① 量のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースのバリエーション	60分
7回	エスキース② 量のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	60分
8回	エスキース① 質のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	30分
9回	エスキース② 質のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	30分
10回	図面作成もしくはレンダリング制作	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
11回	制作① 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
12回	制作② 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
13回	制作③ 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
14回	制作④ 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
15回	制作⑧ 表面処理 完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 適宜プリントを配布

■参考文献 プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ/JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会(著)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考 初回はパソコン教室で授業を行う。初回に300円の材料費を集める。

マテリアル実習Ⅱ（金属）

桐山 征士

3年 後期 プロダクト必修 (1単位 実習)

3年前期の経験を活かし、金属を用いたアクセサリをデザインし、制作する。ただし、アクセサリをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。

デザインは学習することで、ある程度習得が可能である。ただし、短期間では習得できない。

デザインとは、「かっこいいカタチを考える」ことではない。「カタチ」を考える前にやらなければならないことはたくさんある。「かっこいいカタチ」は素人でも考えつく。本来のデザインや造形はもっと高いレベルで存在している。デザインはスタイリング(見た目)ではなく、もっと大所高所から考えなければならない。「思考の密度を上げる」ことと、「独自の視点とその表現」が重要である。

デザインは目的に応じて様々な進め方がある。一般的には、ターゲットの設定・調査・分析・整理をした後、ターゲットを設定し目標を掲げ、コンセプトの立案をする。この段階は非常に重要である。それなりの経験値を積みあげれば、いきなり絵を描く(カタチを考える)などありえない。カタチはターゲットもしくは独自の発想や独自の表現方法と、コンセプトが導いてくれる。そこでこの授業では、美術家兼デザイナーの担当教員が「デザイン(造形)の構築法」を指導する。実際にデザインや造形を生業としている者とディスカッションしながら構築法を学ぶ。デザインや造形を独学で習得するのは極めて困難だからである。プロダクトアウトの姿勢でデザインを進める。

エスキースでは、まず量のエスキースを行う。量を出すことで「思いつき」を「デザイン」に昇華させる。このトレーニングは形状の考察を繰り返し行うことで、造形的感覚と美的感覚を育む。デザインや造形においてとても重要なトレーニングである。質のエスキースでは、たくさんのエスキースの中からコンセプトに見合うものを選び、ブラッシュアップを行う。

流行といった刹那的なものに囚われることなく、本質的に優れたものを生み出すものが、今、求められている。この授業でも一般的なジュエリーではなく、まだ日本には馴染みが薄い「コンテンポラリー系」のジュエリーを目標とする。

ものづくりは技術ベースで考える必要はない。技術は後からついてくる。困難な加工は教員が担当する。その際の指示はデザイナーにとって身につけなければならない最低限の能力だ。依頼する力も育てる。

■到達目標（学修成果）

やコンセプトの構築法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。積極的なコミュニケーション力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

必修科目 デザインプロセスと構想の練り方の基本を学習することで、全ての造形課題に役立つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	デザインとアートの違い・デザインプロセスの講義(美術家兼デザイナーの担当教員) ジュエリーの講義	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	情報収集 幅広い情報を集めイメージの幅を広げる。既成概念を取り払う。	復習：アクセサリを見に行く。	30分
3回	情報収集・分析 アクセサリのコンセプトやターゲットを読み解く。	復習：アクセサリを見に行く。コンセプトを分析する。	30分
4回	コンセプトの設定 担当教員と個別ディスカッション	復習：ベースとなる思想の確認。	30分
5回	コンセプトの設定 担当教員と個別ディスカッション	復習：コンセプトの深掘り	30分
6回	エスキース① 量のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースのバリエーション	60分
7回	エスキース② 量のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	60分
8回	エスキース① 質のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	30分
9回	エスキース② 質のエスキース 個別ディスカッション	復習：エスキースをブラッシュアップ	30分
10回	図面作成もしくはレンダリング制作	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
11回	制作① 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
12回	制作② 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
13回	制作③ 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
14回	制作④ 各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
15回	制作⑧ 表面処理 完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 適宜プリントを配布

■参考文献 プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ/JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会(著)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考 初回はパソコン教室で授業を行う。初回に300円の材料費を集める。

プロダクトデザイン演習Ⅱ

大塚 武司

3年 前期 プロダクト必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインコース専門課程につながるデザイン演習科目です。プロダクトデザイン演習Ⅰを下地として、担当教員の国内外での作品発表、環境造形、メディア/店舗/空間デザイン、企業デザイン顧問の業務経験を生かし、より実践的なカリキュラムを実施します。

■到達目標（学修成果）

学生はこの科目を履修し目的を達成すれば、デザイナー、クリエイターとして広い視野を身に付けることができます。将来、クリエイティブの現場で役立つ力を育成することを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、プロダクトデザインコースの卒業要件科目です。作品制作を行う科目に関連します。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業ガイダンス。プロダクトデザイン実践プログラム① パッケージデザイン。考察と基礎演習。	復習：今期授業内容の確認 予習：パッケージオリジナルデザインの資料準備	180分
2回	オリジナルパッケージの制作。アイデア出し。この課題はデジタルデザインワークⅢと授業間連携があります。	復習：パッケージデザインについて再考 予習：オリジナルデザイン展開の予習	180分
3回	オリジナルパッケージプロトタイプ制作および手描き展開図制作。デジタル化(授業連携)	復習：プロトタイプについて再考 予習：データ化のための準備	180分
4回	展開図を組み立て、ブラッシュアップ。デジタル展開図(ブラッシュアップ)完成。	復習：データ化について問題点の復習 予習：プレゼン準備	180分
5回	オリジナルパッケージ作品、提出及びプレゼンテーション/ディスカッションと教員による講評。	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	180分
6回	プロダクトデザイン実践プログラム②「パッケージ」デザインバリエーションの考察、造形制作	復習：形のバリエーションについて考察 予習：作品発表の準備	180分
7回	制作作品のプレゼンテーション/ディスカッションと教員による講評	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	180分
8回	プロダクトデザイン実践プログラム③ 眼鏡のデザイン。実物大模型制作と装着イメージの撮影。	復習：眼鏡の構造とデザインの関係性の復習 予習：次回課題についてのイメージ作り	180分
9回	撮影画像を使って制作作品のプレゼンテーション。ディスカッションと教員の講評。	復習：プレゼンテーション内容の反省 予習：次回課題の準備	180分
10回	プロダクトデザイン実践プログラム④ スツールの(模型)デザイン。	復習：模型と実物の違いの確認 予習：作品発表の準備	180分
11回	制作作品のプレゼンテーション、ディスカッションと教員による講評。	復習：講評内容の確認 予習：次回課題についてのイメージ作り	180分
12回	デザイン演習総括プログラム。オリジナルのデザインを考慮した造形作品の制作。	復習：制作作品のデザインについて再考 予習：ブラッシュアップのための準備	180分
13回	中間チェックとブラッシュアップ。完成作品提出。	復習：完成作品の問題点の考察 予習：作品発表の準備	180分
14回	オリジナルデザイン作品の発表、ディスカッションと講評会。	復習：講評内容の確認	180分
15回	プロダクトデザイン演習Ⅱまとめ、小課題と解説	復習：授業内容と作品を振り返り再考と確認	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

作品の提出後に解説やディスカッションを設け、採点する。質問は授業時間外でも、Eメールにて受け付ける。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	理解度、積極性、授業態度、出席状況を加味する
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品完成度、アイデア、デザイン性、表現力を評価
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

必要に応じて資料を配布

■参考文献

適宜紹介

■オフィスアワー・研究室

講師控室または教務課まで連絡してください。

■備考

制作に必要な画材、筆記用具などは準備してください。

進度により課題内容を変更する場合があります。

デジタルデザインワークⅢ

高橋 大夢

3年 前期 プロダクト必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

クリエイターとしての自己表現ツールとして、最も活用されているデザインソフト「イラストレーター」「フォトショップ」を使用し、エディトリアルスキル及びデザイン感覚を高める。
3年の授業では2年生時に1年間学んだスキルを活かした「自由な発想で個性を出す作品制作」を目指します。

■到達目標（学修成果）

イラストレーター及びフォトショップを使用した個々の作品に対するプレゼンテーション表現スキルを体得し、自己のプロダクト作品にデジタルデザインを活かす能力を身につけることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門教育課程に於いて、ファッションプロダクトデザインコースの、専門必修科目です。卒業要件科目です。作品制作の科目に関連します。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業ガイダンス、前期課題の説明。 イラストレーター、フォトショップ練習課題の制作。	予習：DDW2で行ったPCスキルの確認。	30分
2回	レイアウトⅠ①(グリッドシステム的应用、ECサイトを想定したページ制作)個人面談(ディスカッション)	予習：レイアウトを考えておく。	30分
3回	レイアウトⅠ②(グリッドシステム的应用、ECサイトを想定したページ制作)個人面談(ディスカッション)	予習：遅れている作業を進めておく。	30分
4回	プロダクトデザイン演習Ⅱとの合同授業(立体フォルムとグラフィックデザインの関連性を追求する授業)個人面談(ディスカッション)	予習：プロダクトデザイン演習Ⅱでの制作物を持ってくる。	30分
5回	プロダクトデザイン演習Ⅱとの合同授業(立体フォルムとグラフィックデザインの関連性を追求する授業)個人面談(ディスカッション)	予習：遅れている作業を進めておく。	30分
6回	ポスターデザイン①入稿用データの制作課題、各フォーマットサイズでのレイアウト制作	予習・復習：ポスターデザインを考えておく。	30分
7回	ポスターデザイン②写真とロゴの組み合わせ、レイアウト	予習・復習：遅れている作業を進めておく。	30分
8回	シルクスクリーンプリントデザイン①リサーチ、サンプル制作 個人面談(ディスカッション)	予習：シルクスクリーンとはどのような事かを予習しておく。	30分
9回	シルクスクリーンプリントデザイン②リサーチ、サンプル制作 個人面談(ディスカッション)	予習・復習：遅れている作業を進めておく。	30分
10回	シルクスクリーンプリントデザイン③データ提出 個人面談(ディスカッション)	予習：プリントする対象のものを準備する。	30分
11回	シルクスクリーンプリントデザイン④プリント実習	予習：作品コンセプトを考えてくる。	30分
12回	レイアウトⅡ(シルクスクリーン作品のweb販売ページ制作)個人面談(ディスカッション)	予習・復習：遅れている作業を進めておく。	30分
13回	期末制作 ショップカード(ブランド)の提案① 個人面談(ディスカッション)	予習：期末制作の内容を把握し、準備しておく。	30分
14回	期末制作 ショップカード(ブランド)の提案② 個人面談(ディスカッション)	予習・復習：遅れている作業を進めておく。	30分
15回	期末制作 ショップカード(ブランド)の提案③ 提出、プレゼンテーション	予習・復習遅れている作業を進めておく。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時質問を受けつけし、課題提出後にコメントをする。15回目に課題作品に対する講評を行い、返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	30%	作品の完成度
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	40%	ポートフォリオ制作
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

必要に応じてプリント配布

■参考文献

適宜紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 13:00～14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第3校舎4階 3409)

■備考 特殊機械やデジタルデザイン工房について紹介する

ブランド・マネジメント論

鈴木 康久

3年 前期 マネジメント必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

生活の中に溶け込むブランドとその機能やブランドを通じた戦略やファッション・ローなど多面的に学習していきます。本科目はコース専門課程科目であり「産学連携プロジェクト」で取り組むブランド創造のフローを理解する相互補完関係にある科目です。特にファッションビジネスを基軸としたブランド戦略に対する総合的な理解浸透を目指しています。毎回グループワークやディベート、プレゼン等のアクティブラーニングの時間を設け、体験的な学習アプローチにより実践的な学習を目指しています。

■到達目標 (学修成果)

- ・現代的なブランド戦略の体系的な学習を通じて実践的な知識習得及び戦略立案が出来るようになります。
- ・アクティブラーニングを通じて、自主性、コミュニケーション能力、強調性、ディベート力の醸成が図れます。
- ・コンプライアンスが重視される社会環境下でブランドに関連する法律 (ファッション・ロー) について知識習得が行えます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

- ・本科目は担当教員の長年の実務経験や知見 (戦略立案・ストアプラン・アパレル協業) を活かした授業運営を行っています。
- ・この科目は卒業要件科目で、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	現代のブランド新概念 生活の中のブランド、デジタル時代のブランド	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回	ブランドとマーケティング① ブランディング、カスタマージャーニー	予習：次回の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
3回	ブランドとマーケティング② エクイティ、ロイヤリティ、地域ブランド	予習：次回の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
4回	ブランド戦略① インサイト、ターゲット、顧客との関係性	予習：ターゲット調査の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	40分
5回	ブランド戦略② エビデンス、ブランドアイデンティティ	予習：次回の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
6回	PBとNBの研究 PB、NB、ダブルブランド、差別化戦略	予習：PB、NBの事前調査を指示 復習：配布資料の振り返り	40分
7回	デジタル時代のブランド戦略 アイフォン、SNS、メディア	予習：デジタル時代のブランド調査 復習：配布資料の振り返り	40分
8回	ブランド・マネジメント① 4Pから4C、競争優位の原理	予習：次回の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
9回	ブランド・マネジメント② リブランディング、リポジショニング	予習：リブランディング事例調査 復習：配布資料の振り返り	40分
10回	新ブランド創造① 新ブランド創造	予習：新ブランド創造のアイデア考察 復習：配布資料の振り返り	40分
11回	新ブランド創造② ケーススタディ	予習：新ブランド計画を考察 復習：配布資料の振り返り	40分
12回	ブランドと法律 商標登録、意匠権、ブランド訴訟事例研究など	予習：訴訟事例について事前学習 復習：配布資料の振り返り	40分
13回	ケーススタディ① ラグジュアリーブランド・グループ企業戦略	予習：ブランド調査の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	40分
14回	ケーススタディ② ブランド研究、新ブランド創造	予習：新ブランド計画の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	60分
15回	学習成果の発表、総合的なまとめ、全体振り返り	予習：新ブランド計画の発表準備 復習：全体の配布資料の総合振り返り	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

毎回提示される課題の次回授業時に行う回答と考え方のレクチャーを通じて学習状況の確認を随時行っています。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 指定教科書は無く、毎回、学習資料を配布します。

一部、実務に就くゲスト講師を迎え、臨場感のある授業運営を実施します。

授業形態は主に、①配布資料を基にパワーポイントで解説、③個人ワーク④グループワーク ⑤プレゼンとなります。

■参考文献 授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室 授業時間前後1時間 3402教室

■備考 毎回、配布する学習資料を持参してください。

授業の進行状況や一部ゲスト講師の都合により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

トレンド分析とディレクション制作

鈴木 康久

3年 前期 ビジネス系 選択必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本科目はMDディレクションプランの制作スキームを通して戦略的なマーチャングデザインを実践的に学習します。シーズン毎に変化・変容していくファッショントレンドを的確に捉え、その傾向を分析し、アクションプランとなるMD計画に落とし込んでいく流れを学習していきます。授業運営については専門課程としての講義以外にもグループワークやプレゼン等アクティブラーニングを取り入れながらシーズン毎に創出されるトレンドを多角的に議論及び考察していく事で学習の深化をはかります。

担当教員の長年の実務専門分野（ファッショントレンド分析及び実行計画となるディレクション制作を担った実務経験）を活かした授業内容及び運営となります。また業界で活躍する実務経験者を数回招聘し、専門的、実践的な学習を多角的に進めていきます。

◆到達目標（学修成果）

- ・情報の溢れる現代社会の中でファッションビジネスに必要な情報へのアクセス手法を体系的に学習・その知識を修得できます。
- ・トレンド情報、マーケット情報の分析の手法やそのポイントを実践的に学習する事により分析能力が向上できます。
- ・バイヤー・MDのアクションプランとなるMDディレクションの制作手法や意義を学習する事でマーチャングデザインの理解が深まります。
- ・アクティブラーニングを通じて、自主性、コミュニケーション能力、強調性、ディベート力の醸成が図れます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

- ・この科目は卒業要件科目で、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション マーチャングデザインの基本、顧客分類と戦略	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回	ファッションマーケットの把握① ファッショントレンドの位置付けとシーズンの流れの理解 トレンド情報やマーケット情報とMDディレクションの関係性	予習：該当シーズンのトレンドを調査 復習：配布資料の振り返り	40分
3回	ファッションマーケットの把握② 生活者変化、市場構造変化を捉える 国内外ランウェイからトレンド分析	予習：コレクション分析の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	40分
4回	ファッショントレンドからMD計画へ① トレンド分析ポイントの学習、MD計画への応用	予習：次回の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
5回	ファッショントレンドからMD計画へ② トレンド研究、個別演習・グループ演習	予習：個別演習に向けた課題を指示 復習：演習内容の振り返り	30分
6回	ファッショントレンドからMD計画へ③ 情報収集のポイント	予習：次回の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
7回	MDディレクション制作① マーケットトレンド編	予習：社会的命題について事前調査 復習：配布資料の振り返り	40分
8回	MDディレクション制作② カラートrend編	予習：店頭からカラートrendの調査 復習：配布資料の振り返り	40分
9回	MDディレクション制作③ テキスタイルtrend編	予習：店頭からテキスタイルtrend調査 復習：配布資料の振り返り	40分
10回	MDディレクション制作④ テーマ編、スタイリング編	予習：店頭からスタイルtrend調査 復習：配布資料の振り返り	40分
11回	MDディレクション制作⑤ キーアイテム編、横串MD、プロモーション計画	予習：店頭からキーアイテム調査 復習：配布資料の振り返り	40分
12回	MD戦略① 広告戦略、情報発信、販促手法 戦略的な商品展開計画、個別演習・グループ演習	予習：SNSからtrend調査の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	40分
13回	MD戦略② ウィークリーMD、マンスリーMD、シーズンモチベーション	予習：歳時記の調査の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	40分
14回	MD戦略③ プロモーション計画、個別演習・グループ演習	予習：個別演習に向けた課題を指示 復習：演習内容の振り返り	40分
15回	現代trend考察 個別演習・グループ演習、総合的なまとめと振り返り	予習：個別演習に向けた課題を指示 復習：全体の振り返り	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回提示される課題の次回授業時に行う回答と考え方のレクチャーを通じて学習状況の確認を随時行っていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書無し、毎回、学習資料を配布します。

一部、実務に就くゲスト講師を迎え、臨場感のある授業運営を実施します。

授業形態は、①配布資料を基にパワーポイントで解説、②個人ワーク、③グループワークとなります。

■参考文献

授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

授業前後1時間 3402教室

■備考 授業の進行状況や招聘する外部講師の都合により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

P.R.マネジメント論

山田 晶子

3年 前期 マネジメント必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本授業では、P.R. (Public Relations) 業務が、単に媒体掲載を推進・実施する業務ではなく、ファッションビジネスにおける、ブランド伸長・拡大や顧客満足創造への重要な役割と捉え、P.R. マネジメントの成り立ちからファッションビジネス・マネジメントの一業務として、社会潮流との関係性や手法の有効性に焦点を当てて学びます。担当講師の実務経験や知見を活かした時代性ある事例提供と、実感値の醸成を主眼とした、アクティブラーニングによる授業運営を実施します。さらに、現役P.R. 担当者を外部講師として招聘し、実践的習得のフォローも行なっていきます。

■到達目標 (学修成果)

本授業を履修し、学修の目標を達成できた結果、顧客満足創造を着地点としつつ、ブランドや商品の魅力を生活者に届け、企業やブランドイメージを向上させ、売上伸長へと誘うP.R. の考え方、着眼点、実施手法が修得できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目であり、ファッションビジネス・マネジメントコースのディプロマポリシーに即した必修専門科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	イントロダクション ファッションビジネスにおけるP.R. 業務とは	予習：学習内容の確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回	「メディア特性とP.R. 業務」ブランド～顧客～メディアの関係性を、事例研究～グループディスカッション実施	予習：メディア特性とターゲット、その手法に関してを確認	30分
3回	「PR業務とメディアの歴史と歩み」 社会潮流と国内外の足跡を資料により共有。成り立ちの掌握	復習：社会潮流とメディアの歩みを掌握	30分
4回	「情報収集とP.R. マネジメント」社会潮流～生活・トレンド情報収集の事例研究～グループディスカッション実施	予習：テクノロジーの進化、生活者の日常の変化に関して確認	30分
5回	実習「レポート作成」 演習へのベースを整理確認するため、テーマに沿って着眼点の整理	予習：演習へのベースとしての内容整理と確認	30分
6回	「P.R. マネジメントにおける時代性①」 現役P.R. 担当者より、P.R. の現場と課題を共有	予習：外部講師の企業研究・質問整理 復習：外部講師の事例整理と確認	30分
7回	「P.R. マネジメントにおける時代性②」 第5回フィードバック、持続可能と企業のミッションの事例共有	予習：社会潮流における持続可能と企業のミッションを確認	30分
8回	P.R. マネジメント演習(1) テーマブランドのP.R. 活動 グループワーク「社会潮流共有～ブランド&商品情報収集」	復習：演習へのベース確認と内容整理	30分
9回	P.R. マネジメント演習(2) テーマブランドのP.R. 活動 グループワーク「マーケティング～ターゲット分析顧客情報収集」	予習：テーマブランドの周辺情報収集と進め方確認	30分
10回	P.R. マネジメント演習(3) テーマブランドのP.R. 活動 グループワーク「媒体選定・プランニング・スケジュール管理①」	予習：媒体選定、手法案と進め方確認	30分
11回	P.R. マネジメント演習(4) テーマブランドのP.R. 活動 グループワーク「媒体選定・プランニング・スケジュール管理②」	予習：全体観およびスケジュール策定と進め方確認	30分
12回	P.R. マネジメント演習(5) テーマブランドのP.R. 活動 グループワーク「SDGsと企業のミッションの関係性」	予習：プレゼンテーション準備	30分
13回	P.R. マネジメント発表(1) プレゼンテーション第1回 各班より発表～生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30分
14回	P.R. マネジメント発表(2) プレゼンテーション第2回 各班より発表～生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30分
15回	P.R. マネジメント発表(3) プレゼンテーション第3回 各班より発表、プレゼンテーション内容のフィードバック	復習：全体とポイントの整理	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

プレゼンテーションとレポート実施 (期中・期末) に関して、第7回、第15回にて、確認と講評を行ないます。

■評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書はなし。毎回、学習資料を配布します。

授業形態は「配布資料を基にパワーポイントで講義～グループディスカッション」となります

■参考文献 授業に関連した参考文献は随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネスマネジメント研究室 (第3校舎4階/授業終了後)

■備考

毎回、配布する学習資料を持参してください。

授業の進行状況やゲスト講師の都合により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

新製品（商品）開発論

松澤 宏・鈴木 康久

3年 後期 マネジメント必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッションを中心とした新商品開発のスキームをビジネス現場の実践的なポイントを基に体系的に学習していきます。本科目はコース基幹科目の「産学連携プロジェクト」で取組む商品企画のフローを理解する相互補完関係にある科目です。学習範囲はファッション衣料だけではなく、ファッションビジネス領域にある生活関連の商品類についても学習していきます。また、現代社会が希求する社会的命題に対する解決策を勘案した商品企画についても学習していきます。加えて本科目ではファッションビジネスを基軸とした商品企画や商品戦略に対する総合的な理解浸透を目指していきます。数回のグループワークやディベート、プレゼン等のアクティブラーニングの時間を設け、体験的な学習アプローチにより実践的な学習を目指しています。

■到達目標（学修成果）

- ・ 現代的な商品企画の体系的な学習を通じて実践的な関連知識習得及び企画立案が出来るようになります。
- ・ アクティブラーニングを通じて、自主性、コミュニケーション能力、強調性、ディベート力の醸成が図れます。
- ・ 環境問題等の社会的命題とアパレル製品開発の関連性に対する知識習得が行えます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

- ・ 本科目は担当教員の実務経験や知見（商品戦略立案・商品企画・アパレル協業）を活かした授業運営を行っています。
- ・ この科目は卒業要件科目で、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回 鈴木	オリエンテーション/今後の授業の流れ/授業の進行・成績評価方法 ファッション業界の変化/サプライチェーン	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回 鈴木	商品企画について ー良い商品とは何かー 商品が店頭に並ぶまで	予習：次回の課題指示 復習：配布資料の振り返り	30分
3回 鈴木	社会的命題と商品開発の関係性 グループワーク・ディスカッション<ショートスピーチ>	予習：次回の課題指示 復習：配布資料の振り返り	30分
4回 松澤	商品へのこだわり① <アパレル衣料>	予習：スケジュールの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
5回 松澤	商品へのこだわり② <雑貨類>	予習：次回の課題指示 復習：配布資料の振り返り	30分
6回 松澤	商品へのこだわり③ <食・住>	予習：次回の課題指示 復習：配布資料の振り返り	30分
7回 松澤	モノづくりを考える① ー背景を考えるー 製品開発をグループワーク・ディスカッション	予習：グループワーク準備 復習：グループワークの振り返り	40分
8回 松澤	モノづくりを考える② ー背景を考えるー 製品開発をグループワーク・プレゼン	予習：グループワーク準備 復習：グループワークの振り返り	40分
9回 松澤	商品企画の実践編① ーファッション業界の今ー ライフスタイルの中で「衣」を考える	予習：次回の課題指示 復習：配布資料の振り返り	30分
10回 松澤	商品企画の実践編② デジタルと製品の関係性	予習：次回の課題指示 復習：配布資料の振り返り	30分
11回 松澤	商品企画の実践編③ 地球環境と製品の関係性	予習：次回の課題指示 復習：配布資料の振り返り	30分
12回 松澤	製品を伝える力 ー売る事、宣伝する事ー 価値を伝える事の意義	予習：次回の課題指示 復習：配布資料の振り返り	30分
13回 松澤	個人ワーク <商品計画実践①> 商品企画創造・個人ワーク・プレゼン	予習：企画制作準備 復習：個人ワーク	60分
14回 松澤	個人ワーク <商品計画実践②> 商品企画創造・個人ワーク・プレゼン	予習：企画制作準備 復習：個人ワーク	60分
15回 鈴木 松澤	総合的なまとめ、学習成果の発表、個人ワーク発表 ファッション業界の商品開発の今後について	予習：プレゼン準備 復習：総合的な振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・ディスカッション、ショートスピーチへの講評および、提出した企画発表へフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 必要に応じて学習資料を配布します。

■参考文献 適宜紹介して参ります。

■オフィスアワー・研究室 授業前後1時間 第三校舎 3402 教室

■備考 なし

生産管理論

大極 勝

3年 後期 マネジメント選択必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

私たちの生活環境はあらゆるものであふれている。着るものだけでも数々のアイテムで囲まれ、さらにそれらは数々の工場であらゆる製造工程を経て私たちのもとへ届く。その複雑な過程には経営・販売計画から生産計画、調達・購買計画をもとに需要と供給のバランスを最適化しながら、適切な製造コントロールが要求される。様々な業種の生産管理を学び利益確保の課題を理解する。

■到達目標（学修成果）

国内と世界の工場間の競争激化の現状をはじめ、IoTやAIを駆使した21世紀の新しい生産管理論について、その現場感を理解する。今後さらにファッションビジネス戦略の「要」となる生産管理を認識することができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目であり、また卒業要件科目である。ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	生産管理とはなにか？ 生産管理全般について理解する（全回においてマナバ使用）	復習：マナバにてレジュメ生産管理の全容を復習	20分
2回	生産計画、購買計画、調達計画を理解する QCD向上とPDCAサイクルの関係性を理解する	復習：マナバにてレジュメ各計画の重要性を理解	30分
3回	「基本機能」設計管理、資材購買管理、作業管理を理解する	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
4回	「構成要素」作業管理、在庫管理、設備管理を理解する	復習：マナバにてレジュメ生産管理の実行の困難さを理解	20分
5回	外注管理と生産形態3分類の理解	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
6回	製番管理とMRPのメリット・デメリットを理解	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
7回	トヨタ生産方式：カンバン方式の理解	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
8回	トヨタ生産方式：JITと自「働」化の理解	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
9回	多品種少量生産と少品種多量生産、トレーサビリティ管理を理解する	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
10回	生産管理で業績UPする手法を理解する	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
11回	JIS規格、GB基準、OEKO-TEX基準 ISO9000シリーズ、ISO14000シリーズを理解する	復習：マナバにてレジュメ各基準の違いを理解	20分
12回	アパレル生産管理を理解する①	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
13回	アパレル生産管理を理解する②	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
14回	アパレル生産管理を理解する③ グローバルブランド・ユニクロの生産管理を理解する	復習：マナバにてレジュメ実際例を理解	20分
15回	「まとめ」として小テスト実施 授業内容の総合的な理解度を確認する	復習：「人」対「ひと」であることを理解	20分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各回講義内で課題設定し、次の講義で評価発表。期末レポートによる試験と後日掲示による総評にてフィードバック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

各回とも、当日使用資料、関連情報等を授業終了後にマナバにてデータ配信。

■参考文献

授業時間に指示

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・マネジメントコース [3402 教室] または講師控室にて授業前 30 分前待機。

■備考

全 15 回ともマナバにて授業用レジュメ・課題等を配信。

バイヤーの実践学

鈴木 康久

3年 後期 ビジネス系選択必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本科目はファッションビジネスをバイヤー視点で捉え、バイイングの基礎的な知識から戦略的なバイヤースキルまでの広範な分野を体系的に学習する事を通じてマーチャндаイジングの総合的な理解を深めていきます。特にバイヤーに求められる仕入計画や展開計画のフロー、トレンドや市場変化等の各種情報収集、MD 計数を捉えたプロフェッショナル・バイイングスキル、マーケティングで注目されるRMF 分析やリモデル計画やそれらの実践編等、広範に渡る現代のバイイングについて科学的なアプローチで理解を深めていきます。

授業運営については専門課程としての講義以外にグループワークやディベート等アクティブラーニングを取り入れ、また発注演習やMD 計数計算など演習形式の要素も取り入れた多角的な学習アプローチを行い理解の深化をはかります。

担当教員の長年の実務専門分野（バイヤー、国内外買い付け、ストアプラン策定、MD計画策定等の実務経験）であり、また業界で活躍するMD 関連の実務経験者を数回招聘し、それらの知見を活かした専門的、実践的な学習を進めていきます。

■到達目標（学修成果）

- ・科学的なアプローチによりバイヤーの理解を深める事で現代的なプロフェッショナル・バイイングスキルを修得できます。
- ・現代のバイヤーの実務は広範に渡ります。それらの広範な知識や業務遂行時のテクニカルポイントを修得できます。
- ・バイヤーを基点としたMD 計数や仕入計画など、マーチャндаイジングを体系的に捉えていく事により専門性の高い学習効果を得られます。
- ・アクティブラーニングを通じて、自主性、コミュニケーション能力、強調性、ディベート力の醸成が図れます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	バイヤーの基本概念 バイヤーの役割と責任、現代のバイヤーの分類	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回	バイイングの基本① ファッションマーケットの把握、ディレクションから仮説作り	予習：現代の市場注目点考察の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
3回	バイイングの基本② マーチャндаイジング、商品分類	予習：商品分類の考察課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
4回	バイヤーのMD 計数① 商品サイクル、仕入形態、プライス MD	予習：次回の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
5回	バイヤーのMD 計数② SSP、在庫計数、季節指数、仕入計画表	予習：季節関連の事前調査の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
6回	バイヤーのMD 戦略① クラスター・RMF 分析、顧客分類	予習：顧客分類に関する課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
7回	バイヤーのMD 戦略② 発注演習、ポイント解説・理解	予習：次回の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
8回	バイヤーのMD 戦略③ 売場展開プラン、ブロックアウトプラン、売場展開計画	予習：店舗調査、ゾーニング調査課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
9回	プロフェッショナル・スキル① 海外から仕入れ（海外買付）、売価設定、業務フロー	予習：インポートブランド調査課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
10回	プロフェッショナル・スキル② VMD コントロール、ウォントスリップ	予習：VMD 調査の課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
11回	プロフェッショナル・スキル③ MD 関連の法律（下請法、製造物責任法、不当表示防止法など）	予習：ファッションローの事前課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
12回	リモデル計画・ストアプラン① バイヤーの広告媒体戦略	予習：SNS における広告課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
13回	リモデル計画・ストアプラン② リモデル計画、ストアプラン策定、トラフィックプラン	予習：店舗調査・まとめ課題を指示 復習：配布資料の振り返り	30分
14回	リモデル計画・ストアプラン③ リモデル計画演習、ポイント解説・理解	予習：企画・発表準備 復習：配布資料の振り返り	30分
15回	現代のバイヤーとこれからのバイヤー考察 個別演習・グループ演習、全体振り返り	予習：次回の課題を指示 復習：全体的な配布資料の振り返り	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回提示される課題の次回授業時に行う回答と考え方のレクチャーを通じて学習状況の確認を随時行っています。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書無し、毎回、学習資料を配布します。

一部、実務に就くゲスト講師を迎え、臨場感のある授業運営を実施します。

授業形態は、①配布資料を基にパワーポイントで解説、②個人ワーク、③グループワークとなります。

■参考文献

授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

授業前後1時間 3402 教室

■備考

MD 計算や発注演習時に電卓が必要です。

授業の進行状況や招聘する外部講師の都合により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

リテールマーチャンダイジング

田邊 潤一

3年 前期 マネジメント必修 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

- ・全てのリテールビジネスの基本・根幹であるマーチャンダイジングの概要理解を軸に、担当講師自身の27年の百貨店実務経験に基づく知見を活かし実践事例に触れながら、具体的な計画に繋がる構成要素を一連の流れで体系的に学びます。
- ・通して受講することで、自身が考えるショップコンセプトや品揃え、ビジネスとしての捉え方を具体的にイメージできるようになり、様々な切口からリテールビジネスの企画立案・計画実務に活かすことができるようになります。

■到達目標（学修成果）

- ・リテールビジネスの基礎を習得し、あらゆる職種で自主的なショップ計画ができる体系的な理解を目指す。
- ・マーチャンダイジング基礎理論の習得と、自身の自由な発想と独自性の発揮双方の、バランスの取れた学びを目指す。
- ・本科目ではグループワークを含むアクティブラーニングを実施します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、あらゆるファッションビジネスで活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	マーチャンダイジングとは リテールマーチャンダイジングの意味と目的・そのフロー	予習：シラバスの確認 復習：あなたがFBを通しやりたいこと	30分 15分
2回	リテールの歴史とマーチャンダイジングの変遷 業態発展の歴史・市場を取巻く環境変化・トレンドと未来	予習：マーケティングトレンドの想像 復習：好きなファッションとその理由	15分 15分
3回	グループディスカッション 私の好きなお店・やってみたいお店 その理由	予習：課題指示に従い事前構想記述 復習：演習成果物の振り返り	120分 15分
4回	マーチャンダイジングの体系Ⅰ「誰に」 マーケティング戦略・顧客戦略・顧客分類・顧客満足	予習：自分が狙いたい顧客像の想像 復習：顧客設定項目の振り返り	15分 15分
5回	顧客設定演習	予習：顧客設定項目の予習 復習：演習の振り返り	15分 15分
6回	マーチャンダイジングの体系Ⅱ「何を」 商品計画・商品分類と展開分類・商品量・価格	予習：自分が商売したい商品の想像 復習：基本設定項目の振り返り	15分 15分
7回	商品分析演習	予習：自分が好きな商品を設定 復習：演習の振り返り	15分 15分
8回	マーチャンダイジングの体系Ⅲ「いつ」 期間区分・季節区分・シーズンMD計画	予習：季節の区分を想像 復習：あなたが好きな季節とアイテム	15分 15分
9回	マーチャンダイジングの体系Ⅳ「どこで」 チャネル・立地・場所・「どこで」の変化	予習：馴染の街の立地特性を想像 復習：出店したい場所の立地を想像	15分 15分
10回	マーチャンダイジングの体系Ⅴ「どのように①」 購買意欲を高める場づくり・商空間特性・VMD	予習：好きな店の空間特性を考察 復習：作ってみたい商空間を想像	30分 15分
11回	マーチャンダイジングの体系Ⅴ「どのように②」 購買意欲を高めるシカケ・販売促進・メディア	予習：好きな店のシカケ方を考察 復習：あなたがやってみたい媒体戦略	30分 15分
12回	マーチャンダイジングの体系Ⅵ「なぜ」 自分の店の存在意義とその理由・現状分析・理念	予習：好きな店の理念を考察 復習：自分自身の理念を考察	30分 15分
13回	マーチャンダイジングの体系Ⅷ「販売サービス」 販売サービスの構成・販売管理・販売行動・しくみの変化	予習：自分の印象に残る接客を考察 復習：実践したい販売サービスを想像	15分 15分
14回	ストアプラン演習 私のマーチャンダイジングコンセプト計画・提出	予習：課題指示に従い課題の事前構想 復習：演習成果物の振り返り	60分 15分
15回	ストアプラン演習 私のマーチャンダイジング詳細計画・提出	予習：課題の事前構想 復習：将来の自身の仕事の具体的想像	60分 15分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

自分の理想の商売としてのマーチャンダイジング計画を演習で作成し提出。課題用紙はmanabaにも掲載。希望者には返却。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書なし。毎回学習資料を配布します。授業は講師作成のパワーポイント教材による講義と各種演習となります。

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

出校日：水曜日午後 FB研究室：第3校舎4階(3402教室)にて16:20～17:50まで

■備考

なし

産学連携プロジェクト演習Ⅰ

鈴木 康久

3年 前期 マネジメント必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

この科目はファッションビジネス企業の「産」と大学の「学」による産学連携によるプロジェクト推進を通してファッションビジネスの実践的な理解を深めていきます。運営については、学生一人一人の「個」の力とチームワーク「組織」によりプロジェクトを推進させていきます。前期の演習Ⅰのプログラムでは、現代社会に存在する社会的命題への対応を勘案したバーチャルブランド創造という最終到達目標を目指し、市場研究、ブランドコンセプト策定、ターゲット戦略、商品構成、出店戦略など、実践的な計画立案のフレームワークを通じて学習していきます。また連携先企業を交えたディベート、グループワーク、提案力のあるプレゼン等のアクティブラーニングを主体的に進めていきます。合わせて様々な実データを活用し、定量データから定性分析を行い実社会との関連性の追求を目指して行きます。

担当教員の長年の実務専門分野（市場分析、生活者変化予測、新生活創造、新規MD創造等）による実務経験や知見を活かした授業となります。また連携企業の現役実務者による講義やディベート等を通じて専門的かつ実践的な学習を追求しています。

■到達目標（学修成果）

- ・アパレル系企業「産」と大学「学」の連携を通じた実践的な企画創造力・ディベート力・コミュニケーション能力等の醸成が図れます。
- ・学生一人一人の「個」とチーム「組織」による関わりを通じてチームワークで推進するミッション遂行力が向上出来ます。
- ・企画作りによる創造力や発想力、能動的に取り組む自主性や行動力、発表体験を通じた提案力やプレゼン力が向上出来ます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回 鈴木	産学連携オリエンテーション 過去から現在の産学連携、本年度概要確認、チーム編成	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回 鈴木	産学連携プロジェクト連携企業研究① 連携先企業概要について講義、企業訪問	予習：取組先の企業研究 復習：配布資料の振り返り	30分
3回 鈴木	流通市場全体について考察・研究① 店舗環境・デジタル環境	予習：店舗視察及び個人の意見をまとめておく 復習：課題の取組み、配布資料の振り返り	30分
4回 鈴木	流通市場全体について考察・研究② ファッション市場・日本の商業環境	予習：国内の流通環境についてまとめておく 復習：配布資料の振り返り	40分
5回 鈴木	産学連携プロジェクト提携企業研究② 市場分析、マーケット予測、環境問題研究	予習：SDG'sについて考えをまとめておく 復習：課題の取組み、配布資料の振り返り	40分
6回 鈴木	バーチャルブランド創造研究① ターゲット、コンセプト、ブランド名、	予習：社会環境の変化についてまとめる 復習：課題の取組み、配布資料の振り返り	30分
7回 鈴木	バーチャルブランド創造研究① ポジショニング、コンペジター研究	予習：マーケットトレンドを個人でまとめる 復習：配布資料の振り返り	40分
8回 鈴木	バーチャルブランド創造研究② 計数計画、展開計画学習	予習：前回策定した内容の市場調査 復習：配布資料の振り返り	60分
9回 鈴木	産学連携プロジェクト提携企業研究③ 品質管理、企業の環境対策、広報PR研究	予習：品質×ファッションを検索 復習：課題の取組み、配布資料の振り返り	40分
10回 鈴木	バーチャルブランド創造研究③ 商品構成、価格帯、コアコンピタンス、シーズン特性	予習：コンペジターブランドの調査 復習：配布資料の振り返り	30分
11回 鈴木	バーチャルブランド創造研究④ 中間発表プレゼン、フィードバック	予習：プレゼン準備 復習：フィードバックの内容に基づき企画修正	30分
12回 鈴木	バーチャルブランド創造研究⑤ ゾーニングプラン（出店場所、エリア）	予習：出店場所の事前調査 復習：配布資料の振り返り	60分
13回 鈴木	バーチャルブランド創造研究⑥ プロモーション計画、人員計画	予習：年間の販促計画（歳時記）を考える 復習：配布資料の振り返り	40分
14回 鈴木	バーチャルブランド創造研究⑦ 営業収支、年間売上予算策定、アイテム別予算	予習：提示の課題の取組み 復習：配布資料の振り返り	40分
15回 鈴木	バーチャルブランド創造研究⑧ ブランド提案プレゼン、フィードバック	予習：プレゼン準備 復習：フィードバックの内容に基づき企画修正	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

中間発表・最終発表結果をフィードバック、あるいは個人面接を通じて組織内個人力など、総合確認を行っていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 指定教科書無し、毎回、学習資料を配布します。

■参考文献 授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室 授業前後1時間 3402教室

■備考 毎回、配布する学習資料を持参してください。

授業の進行状況や連携先企業等の都合により、スケジュール及び授業内容が一部変更される場合があります。

産学連携プロジェクト演習Ⅱ

鈴木 康久・田原 美津子

3年 後期 マネジメント必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

この科目はファッションビジネス企業の「産」と大学の「学」による相互連携によりプロジェクトを推進していくカリキュラムとなります。学生一人一人の「個」の力とチームワーク「組織」によりプロジェクトを推進させていきます。担当教員の長年の実務専門分野（市場分析、ターゲット設定、エリア研究等）を踏まえた授業進行となります。また取組先企業の現役実務者による講義やグループワーク・ディベート・プレゼン等アクティブラーニングを通して高い学習効果が見込めます。後期の演習Ⅱのプログラムでは、サステナブル、SDG's等の環境問題を主題にファッションビジネスとの関連性を主テーマに多面的な学習を進行していきます。具体的な取組み事例の研究、産業面における意義や課題について学習していきます。また連携企業との体験的なプログラム（アップサイクル、販売演習、VMD演習、店舗運営演習）等の体験を通じて実践的、かつ高い学習効果が見込めます。また授業内でICT技術を活用した双方向型を担保した授業を実施します。

■到達目標（学修成果）

- ・アパレル系企業「産」と大学「学」の連携を通じて実践的な思考力・展開力・ディベート力等の能力の醸成を目指します。
- ・学生一人一人の「個」とチーム「組織」による関わりを通じてチームワークで推進する組織連帯力を向上させます。
- ・企画作りによる創造力や発想力、能動的に取り組む自主性や行動力、発表を目標に提案力やプレゼン力を向上させます。
- ・体験型プログラム（アップサイクル、販売演習、VMD演習、店舗運営演習）を通じてアパレル企業の総合理解が出来ます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回 鈴木	産学連携Ⅱオリエンテーション 後期計画概要、スケジュール、サステナビリティ、SDG's	予習：SDG's 考察事前課題への取組み 復習：配布資料の振り返り	30分
2回 鈴木	商品企画① 商品企画・テーマ設定・ストロングポイント考察	予習：テーマ・ブランド特性個人考察 復習：配布資料の振り返り	30分
3回 鈴木 田原	商品企画② 商品スタイル画、商品デザイン考察	予習：商品デザインを考える 復習：修正プランの作成	40分
4回 鈴木	企業体験学習① 仕分け講義、仕分け実務体験	予習：縫製技術の再確認 復習：作業量とスケジュール確認	30分
5回 鈴木 田原	企業体験学習② 商品企画体験（ICT含む）	予習：制作段階と作業箇所の再確認 復習：作業量とスケジュール確認	30分
6回 鈴木 田原	企業体験学習③ 商品企画体験（ICT含む）	予習：制作段階と作業箇所の再確認 復習：作業量とスケジュール確認	30分
7回 鈴木 田原	企業体験学習③ アップサイクル実践（ICT含む）	予習：制作段階と作業箇所の再確認 復習：制作品の点検	30分
8回 鈴木 田原	企業体験学習④ アップサイクル実践（ICT含む）	予習：ブランドコンセプトのアップデート 復習：配布資料の振り返り	40分
9回 鈴木	販促プラン策定② 広告戦略、販促戦略、POP、商品広告	予習：広告企画のアップデート 復習：ブランディングの確認と振り返り	40分
10回 鈴木	店舗運営研究① 店舗運営、VMDコントロール、販売演習	予習：販売研修マニュアル確認 復習：反省と今後のレポート	40分
11回 鈴木	店舗運営研究② 店舗運営、VMDコントロール、販売演習	予習：販売研修マニュアル確認 復習：反省と今後のレポート	40分
12回 鈴木	店舗運営研究③ 店舗運営、VMDコントロール、販売演習	予習：販売研修マニュアル確認 復習：反省と今後のレポート	40分
13回 鈴木	社会問題とファッション研究① チームによるグループワーク、ビジネス創造	予習：体験を踏まえてまとめ 復習：チーム課題の確認と対策	40分
14回 鈴木	社会問題とファッション研究② チームによるグループワーク、ビジネス創造	予習：プレゼン資料作成 復習：チーム課題の確認と対策	60分
15回 鈴木 田原	総合企画研究 総合発表、まとめ、振り返り、記録	予習：プレゼン準備 復習：総合的な振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

全15回の中に中間発表、最終発表結果をフィードバックし、総合確認を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 指定教科書なし、毎回、学習資料を配布します。 ■参考文献 授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室 授業開始1時間前 3402教室

■備考 毎回、配布する学習資料を持参してください。

授業の進行状況や連携先企業等の都合により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

消費者行動論Ⅱ

佐竹 功次

3年 前期 イノベーション必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本消費者行動論は消費者が商品やサービスを選択し、購買行動を起こす過程に焦点を当てる。消費者行動論の主要な要点について説明。基礎となる理論や様々な事例研究、調査データ、各種ワークを通じて学ぶ。

■到達目標（学修成果）

消費者の行動を深く理解し、それを元に戦略を立てる能力を身につける。心理学、マーケティング理論、調査手法とデータ分析、文化と社会影響、テクノロジーとデジタルマーケティング、倫理的視点、ブランディング戦略の立案・実施を、効果的に進めていくことのできる能力を身につけることを目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

当科目はイノベーションコース必修科目で卒業要件単位です。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	・座学：本講座の消費者行動論についてインプット、マズローの欲求階層理論の理解、ブランディングについて1（全4回） ・ワーク：自己を取り巻く環境分析の初手	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
2回	・座学：2024最新マーケティングと就職について、ブランディングについて2（全4回） ・ワーク：社会心理学ケース1（全10回）	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
3回	・座学：ブランディングについて3（全4回） ・ワーク：社会心理学ケース2（全10回）	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
4回	・座学：ブランディングについて4（全4回） ・ワーク：社会心理学ケース3（全10回）	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
5回	・個人&グループワーク：ブランディング実践&発表	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
6回	・個人&グループワーク：ブランディング最終発表&フィードバック	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
7回	・座学：UXデザイン1&2（全8回） ・ワーク：社会心理学ケース4（全10回）	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
8回	・座学：UXデザイン3&4（全8回） ・ワーク：社会心理学ケース5（全10回）	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
9回	・座学：UXデザイン5&6（全8回） ・ワーク：社会心理学ケース6（全10回）	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
10回	・座学：UXデザイン7（全8回） ・ワーク：社会心理学ケース7（全10回）	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
11回	・座学：UXデザイン8（全8回） ・ワーク：社会心理学ケース8（全10回）	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
12回	・サマリー ・ゲスト	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
13回	・座学：サービスデザイン ・ワーク：発表に向けた作業	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
14回	・ワーク：発表に向けた中間発表	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度
15回	・ワーク：発表に向けた最終発表、まとめ	予習：指定図書の概観を確認 復習：講義、指定図書・配布資料等の振返り	60分程度

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出したワークシートは、基本的に次回授業時で講評を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

まんがでわかる社会心理学（株式会社カンゼン）、デザインを、経営のそばに。（株式会社かんき出版）、web製作者のためのUXデザインをはじめの本（株式会社翔泳社）、

■参考文献

まんがでわかるwebマーケティング1（株式会社インプレス）、まんがでわかるwebマーケティング2（株式会社インプレス）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー詳細は初回授業時に指示

【連絡研究室】ファッションビジネス流通イノベーション研究室

■備考

特になし

現代流通論

五月女 由紀子

3年 前期 イノベーション必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

欧米や日本の流通の発展過程は店舗の拡大が重要であった。昨今では、無店舗販売である EC 比率を高める方向に転換をする企業が増え新たな段階に入っている。EC と店舗は融合され、新しいビジネスモデルがここ数年で次々と登場してきている。また、次世代型流通システムは個人顧客データを取り込みながら、パーソナルな提案が重要になってきている。そのためには、サプライチェーン、在庫、物流、販売までを総合的に考えていく必要がある。担当教員は 10 数年アパレル企業に勤務した実務経験がある教員であり、流通の革新的変化を現場の立場で捉えられる授業とする。

■到達目標（学修成果）

現代流通とイノベーションの相関関係を理解し、修得する。ディプロマポリシーで示した変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と課題解決力などの能力とファッション流通イノベーションを推進する人材の育成を目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション：現代流通論の昨今の革新的変化と概要説明 講義に臨むスタンスを説明する	予習：シラバスを読み、自身の関心を整理しておく	30分
2回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷① －小売業の近代化と百貨店の繁栄－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
3回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷② －日本の総合スーパーとコンビニエンスストア－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
4回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷③ －SPAブランドの変遷と現状について－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
5回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷④ －ショッピングセンターの成立過程と現代流通への影響－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
6回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷⑤ －無店舗販売と EC ビジネスの発展（EC モデルの登場）－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
7回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷⑥ －サプライチェーンマネジメントと在庫 ZARA 型ビジネスモデル－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
8回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷⑦ －サプライチェーンマネジメント DX と物流－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
9回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷⑧ －セレクトショップの発展と未来－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
10回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷⑨ －D2C ビジネスの事例 FABRIC TOKYO－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
11回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷⑩ －サーキュラーエコノミー（循環型経済）二次流通とは－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
12回	ファッションビジネスにおける流通革新の変遷⑪ －シェアリングエコノミー エアクローゼット、ラクサスなど－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
13回	体験型店舗（ショールーム型店舗） EC と実店舗の融合 －B8ta(ベータ)、マルイ、蔦屋書店など－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
14回	リテールメディアがもたらす変化 －小売の顧客購買データ、行動データを活用した広告配信－	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
15回	まとめ	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業後に毎回manaに課題を提出する。教員からのフィードバックや助言などをしていき、最終的には各学生が考えるファッション業界における流通の未来についてのプレゼンテーションを行い、評価を確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

配布資料があります。

■参考文献

崔相鐵・岸本徹也 編集「1からの流通システム」、硯学舎
 牧田幸裕「デジタルマーケティングの教科書 - データ資本主義時代の流通小売戦略」東洋経済新報社
 斎藤孝浩「アパレルゲームチェンジャー」日経 BP

■オフィスアワー・研究室

第3校舎・イノベーション研究室（3300） オフィスアワーについては授業初日に伝えます。

■備考

日程及び内容は授業の進行具合に合わせて変更する事もあります。

ファッションエディトリアルⅡ

千代崎 寛

3年 前期 イノベーション必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

2年次「ファッションエディトリアルⅠ」をベースに編集表現とファッションビジネスの関係を学んでいく。プリントメディアの制作と考察を軸にメディアデザイン(情報伝達デザイン)の理解と活用を学んでいく。イメージどおりの画像を得るための撮影テクニックから編集を経て最終プロセスまでを段階ごとに確認・検証しながら進めていく。ルックブックやカタログなどグラフィックデザインの制作と併行し他のメディアへの応用・運用を図りながらコミュニケーションとメッセージ表現のアプローチと方法を探る。制作と併行して記録のためのスタジオワーク、編集段階での知的財産権(引用・クレジットなど)の考え方をグラフィックデザインの技術(レイアウト)から実践していく。各自の思考の広がりや表現力、社会との関係における自身の視点を準備していく事を方針とする。

■到達目標(学修成果)

- 1.ビジュアルイメージを具体化するための基礎的な「表現能力」を身に付けることが可能となる
- 2.制作とプレゼンテーションを通して「つたえる・つたわる」関係の重要性について考察や理解ができる
- 3.デジタル制作環境・ネットワーク環境の基礎的な理解と活用する「術」を身に付けることが可能となる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー(学位授与の方針)については「ファッションエディトリアルⅡ」はファッションビジネスの企画・提案や流通の場において活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション エディトリアルデザインについて～(メディアリテラシー)	予習:カリキュラム表・プリントの内容を熟読しておく。	30分
2回	DTP演習① カラーマッチング、カラーモード、解像度、画像調整	予習:リサーチや進行に必要なリソースの収集・準備など	60分
3回	DTP演習② レイヤー、チャンネル、パスのテクニック	予習:画像撮影のための準備、スタイリングとロケーションプランの準備	90分
4回	Web演習 ※データ管理における配慮について サイト作成と運用テスト	予習:Webサイトのリサーチと資料収集	60分
5回	テーマⅠコンテンツ制作① ※撮影現場における配慮自然光による撮影・補正・レタッチのワークフロー	予習:撮影後のコンタクトシートによる選定とスタジオ撮影プランの準備	30分
6回	テーマⅠコンテンツ制作② ※編集における配慮について人工光による撮影・補正・レタッチのワークフロー	予習:スタジオ撮影後のコンタクトシートによる選定	30分
7回	テーマⅠコンテンツ制作③ ※プライバシー・肖像権 グリッドシステムによるレイアウトのワークフロー	予習:レイアウト資料の作成と準備	60分
8回	テーマⅠコンテンツ制作④ ※知的財産権の考え方プリント出力から校正までのワークフロー	予習:プリント出力の確認と資料の収集・プレゼンテーションのための準備	60分
9回	テーマⅠコンテンツ制作⑤ ※著作権の表記について 研究テーマ中間プレゼンテーション	予習:中間プレゼンテーションをもとにプランを練り上げる	30分
10回	テーマⅠコンテンツ制作⑥ レイアウト・出力から校正	予習:プランに沿った制作と確認・検証	30分
11回	テーマⅠコンテンツ制作⑦ 完成データ出力と製本	予習:Webサイトのリサーチ	60分
12回	テーマⅡコンテンツ制作① ラフレイアウトとプレビュー	予習:Webサイトのリサーチと資料収集	60分
13回	テーマⅡコンテンツ制作② レイアウトとプレビュー	予習:プランに沿ったWebサイトの制作と確認・検証	30分
14回	テーマⅡコンテンツ制作③ レイアウトとプレビュー ※表現・公開・出版	予習:テーマⅠ・Ⅱプレゼンテーションのための準備	60分
15回	まとめ・展開 テーマⅠ・Ⅱプレゼンテーションと講評	予習:制作ノート提出のための準備	120分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

ディスカッションとノート、プレゼンテーション時の講評などでフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	45%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 なし

■参考文献 授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては授業初日に伝えます。先端ファッション表現研究室(目黒校舎研究棟3F)

■備考

表れるイメージは過去に観た「もの・こと」からのみ産み出される。イメージをOutputし続けるためには常にInputし続ける必要がある。その円環する環境・システムを自分の中に構築して欲しい。

流通イノベーション特講（仏、ダイヤモンド）

前川 祐介

3年 前期 イノベーション必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッション業界は新型コロナウイルス感染症まん延のインパクトも受け、市場縮小の中にある。また、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代からSDGsへの適合・サステナビリティが重視されていく潮流の変化や、インターネット・情報化社会のますますの隆盛など、ファッションに関わる産業・労働状況はまさに岐路に立たされているといえるであろう。

本講義では、この変化の本質をビジネスの観点で捉え、視野を広げながら「次世代のファッションビジネス」の在り方を考える。具体的には、新しいかたちのファッションレンタルサービスを生み出しているエアークローゼットのビジネスモデルを中心に、同事業で提供されているオンラインスタイリングの仕組みや、データサイエンスの活用方法について学び、これからのファッションビジネスへの活用について考える。

■到達目標（学修成果）

ファッション業界を取り巻く変化、それに伴うこれからのビジネス変容を理解することで、ファッション業界の未来に関する様々な視点を習得する。また獲得した新しい視点をを用いて「次世代のファッションビジネス」について自身の考えをまとめ、発信できるようになることを目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション：この講義の概要説明	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
2回	エアークローゼットの全体像：事業の仕組みやビジネスの裏側など全体像について	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
3回	エアークローゼットの新規性：シェアリング・サステナビリティ・サブスクリプション・パーソナルスタイリングなど	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
4回	エアークローゼットのマーケティング・PR：マーケティングとPRの違いについて、ブランディングの方針など	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
5回	エアークローゼットの物流：エアークローゼットの物流の仕組み	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
6回	エアークローゼットのデータ活用：ファッションビジネスでのデータ活用方法をエアークローゼットの事例について学ぶ	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
7回	エアークローゼットのパーソナルスタイリング：エアークローゼットのパーソナルスタイリングの仕組み	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
8回	パーソナルスタイリストと会ってみる：パーソナルスタイリストから仕事内容や働き方を学ぶ	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
9回	パーソナルスタイリングのスキル①：Test of Personal Styling Skillsを基礎にしたスタイリングの実習	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
10回	パーソナルスタイリングスキル②：Test of Personal Styling Skillsの内容にしたスタイリングの実習	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
11回	パーソナルスタイリングスキル③：お客様に合わせた提案づくりに取り組む(知識編)スタイリングの実習	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
12回	パーソナルスタイリングスキル④：お客様に合わせた提案づくりに取り組む(実践編) スタイリングの実習	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
13回	次世代ファッションビジネスの広がりを知る：事例紹介(ゲスト招聘・パネルディスカッション)	復習：講義を振り返り、学びとなったキーポイントについてレポートする。(manaba利用)	30分
14回	次世代ファッションビジネスについて考える：本講義内容各論の総覧・総括	予習：次世代ファッションビジネスについてのプレゼンテーション準備。(manaba利用)	30分
15回	次世代ファッションビジネスについて考える：次世代ファッションビジネスについて個人別プレゼンテーション	次世代ファッションビジネスについて自分なりに考えを持てるようにする (manaba利用)	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業冒頭やディスカッションやプレゼンテーション時の講評などでフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「基礎からわかるパーソナルスタイリング」 日本パーソナルスタイリング振興協会 オリジナルテキスト (2200円)。

■参考文献

授業の進行に合わせて投影資料などを適宜共有する。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 第3校舎3207教室。連絡はメール等による個別調整とさせていただきます。

■備考 授業内容は進行状況により変更することもあります。

流通イノベーションゼミⅠ

五月女 由紀子・下村 友紀子

3年 前期 イノベーション必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ECサイトプラットフォーム「フューチャーショップ」との産学連携により、オリジナルTシャツの販売を行う授業になります。「スタートアップ起業」型のチーム作りで、学生は数チームに分かれて、Tシャツの商品企画、生産管理、ショップページ作り、ネットショップでの販売、SNSによる誘客、受注、決済機能、商品発送までを戦略的に行います。インターネット上で商品を販売する経験とともに、販売結果のデータ分析を行い、学生同士で学びあうアクティブラーニングの演習です。また、昨今の技術進化に伴い、Tシャツデザインは生成AIサービス「Maison AI」の画像生成AIを活用します。

■到達目標（学修成果）による

インターネットを駆使して売上目標や利益獲得を達成してゆくプロセスから、ビジネスの現場で求められる即戦力やビジネスでの成功失敗といった実戦での経験値を獲得することができるようにします。

インターネットビジネス運営のシミュレーションを通じて得た知識を、就職における専門性や卒業論文のテーマ策定に役立てるようにします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ネットショップ運営の目標設定、目的設定	予習：シラバスを読む	30分
2回	グループ分けからCEO、CFO、CMO、デザイナーを決定	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する	30分
3回	Tシャツのデザインをしよう（商品企画）	予習：考察事例について課題を作成	60分
4回	ターゲットの決定、Tシャツデザインの決定	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する	30分
5回	原価計算から算出する価格（価格設定）	予習：考察事例について課題を作成	60分
6回	Tシャツ生産会社への入稿完了	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する	60分
7回	SNS発信による販売促進	予習：考察事例について課題を作成	60分
8回	商品撮影日① （スタジオで写真撮影、モデルの小物準備、動画撮影）	予習：商品の管理、撮影準備までを用意する。	60分
9回	商品撮影日② （撮影予備日、撮影した写真の選定作業）	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する	60分
10回	ECプラットフォーム「futureshop」の機能紹介 （自分でショップページを作る準備）	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する	60分
11回	グループごとに商品アップ完了、ショップページを制作	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する	60分
12回	ネットショップオープン。 （SNS発信で集客、決済機能の準備）	復習：SNSなどで商品のアピールを定期的に行う	90分
13回	Google Analyticsによる売上分析 アクセス状況からのSNS振り返り	復習：アドバイスから得られたインサイトの提出	60分
14回	受注集計と発送業務。 （同封するお礼の手紙を作成）	予習：考察事例について業務の準備	90分
15回	チームによる販売結果のプレゼンテーションとコンテスト 販売の分析、結果発表への講評とアドバイス	予習：考察事例について課題を作成	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

チームごとのワークやプレゼンを都度評価し、シミュレーションの取組結果を発表する。課題はマナバに提出をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書

特になし 必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 第3校舎3207教室、オフィスアワーは初回授業時に指示します。

■備考

協力企業の事情により、順番は変更になることがあります。

グローバルマーケティング特講

五月女 由紀子

3年 後期 イノベーション必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

人口減少、市場が縮小した日本のアパレル業界ではグローバル市場に進出していくことが必須です。ユニクロのグローバル展開の成功は代表例ですが、その規模まで成長するのは非常に難易度が高いのが現実です。今後は、成熟市場の中国戦略だけでなく、成長市場の東南アジアやその他の国も視野に入れていく必要があります。韓国がグローバルマーケティング的に成功しているのも参考として考えます。急拡大した「観光国日本」のインバウンド対応の構築、越境ECも含むグローバルなトッププレイヤー企業のマーケティング戦略を理解し、日本のアパレル企業の国際的優位性を考えていきます。

■到達目標（学修成果）

日本のアパレル業界に必要なグローバル市場に挑戦するマーケティング・スキルを身につけ、グローバル・ビジネスを創造できるようにすることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	アパレル業界におけるグローバル市場とは グローバル市場はプロダクトだけでは勝てない	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
2回	グローバル・マーケティング戦略の枠組み 現地マーケティングリサーチについて	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
3回	新興国におけるマーケティングミックス STPで戦略を立てる	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
4回	グローバル市場のローカライズについて チャネルファーストの考え方	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
5回	グローバルに成功している企業事例 ユニクロ、ルルレモン、ZARAなど	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
6回	中国における日本のアパレル企業の展開 現地SNS（小红书）から直接EC販売（MARK STYLER）	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
7回	中国における日本のアパレル企業の展開 Nico and... Moussy 中国店舗展開	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
8回	「マケプレ」BtoB輸入サービス（東急株式会社） 韓国ブランドのリサーチと輸入プラットフォーム	復習：講義を振り返り、課題提出する	60分
9回	東南アジアにおける日本のアパレル企業の展開 タイ、ベトナムの事例	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
10回	アメリカの小売市場について Amazon ウォルマート、click and collectについて	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
11回	日本のインバウンドの消費者動向 美容、薬、ファッションなど人気商品	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
12回	越境ECの動向について SHEIN、TEMUのグローバル戦略の事例	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
13回	ラグジュアリーブランドのグローバル戦略	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分
14回	個人あるいはグループで海外戦略を立案する	復習：戦略立案を考える	60分
15回	最終発表/講評 まとめ	復習：講義を振り返り、課題提出する	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

テーマ毎にmanaバにレポートを提出します。最終発表は個人、もしくはグループでプレゼンテーションを行います。フィードバックは可能な限り講義内で行い、ディスカッションしながら、理解を深めていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 特になし

■参考文献

小田部正明、他(2017)『1からのグローバル・マーケティング』碩学舎
森辺一樹(2021)『グローバル・マーケティングの基本』日本実業出版社

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・流通イノベーション研究室(3300教室) オフィスアワーについては授業初日に伝えます。

■備考 日程及び内容は授業の進行具合に合わせて変更する事もあります。

フィールドリサーチ実践論（国内、海外）

山中 健・五月女 由紀子

3年 後期 イノベーション必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

3年生後期からの履修開始となります。本授業では、ファッション分野におけるフィールドリサーチのマーケティング的重要性に鑑み、そのテーマ設定、調査手法、分析方法などについて事例をもとに伝えます。

■到達目標（学修成果）

ファッション分野におけるフィールドリサーチの方法論を理解し、実践経験の蓄積を得られる。国内・海外のストリートや店舗観察から流通イノベーションの実際を知見する手法を修得し、卒業論文のテーマ策定への動機を促し、出来るようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 小テスト 「リサーチに必要なファッション業界の基本用語を学ぶ」	復習：授業中に行った小テストの回答を確認し基本用語を習得する	30分
2回	リサーチ事例 「フィールドリサーチの実際（トレンドの掴み方編）」	復習：授業中に作成したレポートを読み返す	30分
3回	リサーチ演習 プレ調査「近隣店舗の臨店調査」	復習：演習シートを作成	90分
4回	ファッションマーケットの捉え方① 消費者の意識変化と対応事例	復習：考察事案について振り返り、演習シートを作成	90分
5回	ファッションマーケットの捉え方② ビジネスモデルの変化と対応事例	復習：対象ブランドの戦略をネット、書籍でリサーチ	30分
6回	小売フィールドリサーチ手法① 立地と客層の見方	復習：考察事案について振り返り、演習シートを作成	30分
7回	小売フィールドリサーチ手法② ロイヤルティの見極め方	復習：考察事案について振り返り、演習シートを作成	30分
8回	小売フィールドリサーチ手法③ 商品力（量、数、プライス）の見極め方	復習：考察事案について振り返り、演習シートを作成	30分
9回	小売フィールドリサーチ手法④ 商品力（プライス）の見極め方	復習：考察事案について振り返り、演習シートを作成	30分
10回	小売フィールドリサーチ手法⑤ 店頭対応力（提案）の見極め方	復習：考察事案について振り返り、演習シートを作成	30分
11回	小売フィールドリサーチ手法⑥ 店頭対応力（サービス）の見極め方	復習：考察事案について振り返り、演習シートを作成	30分
12回	小売フィールドリサーチ手法⑦ 店頭対応力（プロモーション）の見極め方	復習：考察事案について振り返り、演習シートを作成	30分
13回	ファッションマーケットの捉え方③ ファッショントレンドの捉え方（中長期トレンド）	復習：授業中に作成したレポートを読み返す	90分
14回	ファッションマーケットの捉え方④ ファッショントレンドの捉え方（コレクショントレンド）	復習：授業中に作成したレポートを読み返す	90分
15回	課題の発表とフィードバック	復習：発表した課題を修正し、完成	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

復習については授業冒頭受講生が発表、講師が講評を行う。

講義終わりには、課題レポートの提出が必要。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業時に提示

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：ファッションビジネス・流通イノベーション研究室

出講日：月曜日

■備考

なし

流通イノベーションゼミⅡ

五月女 由紀子・下村 友紀子

3年 後期 イノベーション必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションビジネスではEC（オンライン）の比率が高くなっています。企業でEC担当者の需要は高く、社会で対応できるWEBに関する知識向上を目指していきます。前期のゼミで実施した、オリジナルTシャツを販売するネットショップ運営の経験をもとに、EC業務の基本理解や技術スキルアップを指導します。また、オンラインが進む一方で、店舗（オフライン）は新たな価値の重要性が問われ、ファッションおよびライフスタイル全般のオンライン（EC）とオフライン（店舗）の融合「OMO（Online Merges with Offline）」、シームレスな顧客の購買体験を考えます。また、4年生の専門性ある就職と卒業論文に向けて、ファッションテック（ファッション×テクノロジー）のメタバースに関することにも触れ、今後のファッションビジネスのあり方について考察します。専門性ある実務家による特別講義のグループワークとフィードバックを行うアクティブラーニングです。

■到達目標（学修成果）

将来の変革したファッションビジネスの現場で必要とされる人材育成を目的として、最新のテクノロジーの知識を学び、ファッションビジネスの現状と問題点を把握できるようになります。この学修から、ファッション業界を俯瞰した視点で自分の将来設計を作ることを目標とします。あわせて卒業論文のテーマ策定も目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッションビジネスにおける、オンライン（EC）とオフライン（店舗）の融合：「OMO」の考え方	予習：シラバスを読む	30分
2回	前期に実施したネットショップ販売によるECスキルアップWEBアクセス解析ツールとSEOについてのワークショップ	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する。	30分
3回	ファッションECショップへのプレゼンテーション（株式会社ZOZO）	復習：企業に向けての改善提案のプレゼンテーション書を作成する	90分
4回	ECと店舗と融合したデータの重要性（株式会社ZOZO） アパレルの顧客データ、行動データ、体型データからの分析	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する。	30分
5回	アパレル企業におけるOMOショップ（アダストリア・ドットエスティストア）OMOストアへの企業プレゼンテーション	復習：企業に向けての改善提案のプレゼンテーション書を作成する	90分
6回	EC職における「ささげ」（撮影・採寸・原稿）の現場理解①	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する。	90分
7回	EC職における「ささげ」（撮影・採寸・原稿）の現場理解② 実践編：撮影と原稿	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する。	90分
8回	デジタル接客：「ショッピングブログ」を作成する	復習：フォーマットの中で各自のショッピングブログを作成する	60分
9回	デジタル接客：「ショッピングブログ」スマホ撮影技術	予習：事前に写真を用意し、授業で作業ができるように準備する	30分
11回	店舗のVMDとデジタルトランスフォーメーションのワーク（日本ビジュアルマーチャンダイジング協会）	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する。	30分
12回	EC運営の人事コンサルタントによるEC職の理解 デジタルマーケティングの知識	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する	60分
13回	メタバースからEC販売に向けて 百貨店の新たな顧客への新構想	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する。	30分
14回	卒業論文に向けての個人別プレゼンテーション	復習：考察事案について振り返り、次回に向けた検証項目を整理する。	30分
15回	まとめ	予習：発表に向けてのプレゼンテーション書を作成する	90分

■フィードバック（購買試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各回の課題・プレゼンテーションはマナバに提出をして、それに対してのコメントを教員と特別講師からフィードバックをします。最終的にこのゼミで習得した内容は卒業論文への導入となります。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書

特になし 必要に応じて資料を渡します。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 第3校舎3207教室、オフィスアワーは初回授業時に指示します。

■備考 ゲスト講師の都合により、順番は変更になることがあります。

服飾手芸（ニットを含む）

岡本 真希子

3年 前期又は後期 選択 教職課程必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

編物の代表的な三つの技法 かぎ針編み、棒針編み、アフガン編みについて、基礎的な技法を習得します。それぞれの技法に合わせた、作品を作る為に必要な増減法、とじ、はぎ、素材の特徴に合った組み合わせや編み方を学び、作品作りに活かせるように学びます。

■到達目標（学修成果）

かぎ針編み、棒針編み、アフガン編みの基礎技法を学び、理解する。編目記号図（JIS 記号）を理解する。かぎ針編みでは、モチーフを編む。棒針編みでは、身につける作品の制作を進めながら、制作に必要な知識を得る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目となり、教員免許状習得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	かぎ針編み：針の持ち方、基礎編み（鎖編み、細編み、長編み、等）	復習：その日に習った技法の復習（長編み、細編みが編めるように）	60分
2回	かぎ針編み：モチーフを作成	復習：その日に習った技法の復習 モチーフ1枚めを完成させる	60分
3回	かぎ針編み：モチーフをつなぐ	復習：その日に習った技法の復習 モチーフをつなぎ完成させる	60分～
4回	棒針編み：針の持ち方、基礎編み（作り目、表編み、裏編み、伏せ目）	復習：その日に習った技法の復習（表編み、裏編みを練習する）	60分
5回	棒針編み：基礎編みのサンプル作成（編み込み模様2種類 等）	復習：その日に習った技法の復習 基礎編みのサンプルを完成させる	60分
6回	棒針編み：基礎編みのサンプル作成（表目と裏目の模様、透かし模様）	復習：その日に習った技法の復習 基礎編みのサンプルを完成させる	60分
7回	棒針編み：基礎編みのサンプル製作（交差模様、ねじり1目ゴム編み 等）	復習：その日に習った技法の復習 基礎編みのサンプルを完成させる	60分
8回	棒針編み（応用課題作品）：作品制作に向けての説明とじ・はぎをパターンで練習する。	応用課題作品の制作に向けて何を考えるか考えてくる	30分
9回	アフガン編み：針の持ち方、基礎編み（プレーンアフガン）	復習：その日に習った技法の復習 応用課題作品の制作に向けて準備する	60分～
10回	アフガン編み：基礎編みのサンプル作成（かのご模様、ねじり目模様 等）	復習：その日に習った技法の復習 応用課題作品の制作に向けて準備する	60分～
11回	棒針編み（応用課題作品）：作品制作に向けての相談	応用課題作品の制作を始める	60分～
12回	棒針編み：応用課題作品を進めながら、提出した基礎編みサンプルの再確認 等	応用課題作品の制作を始める	60分～
13回	棒針編み：応用課題作品を進めながら、提出した基礎編みサンプルの再確認 等	応用課題作品の制作を始める	60分～
14回	棒針編み：応用課題作品 提出	復習：基礎編みサンプルの復習	60分～
15回	まとめ：課題のフィードバックを行う	復習：基礎編みサンプルの復習、とじはぎ仕上げ方の復習	60分～

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題として、かぎ針編みモチーフつなぎ、棒針編みの基礎編みサンプル、アフガン編みの基礎編みサンプル、を提出。添削後、順次返却します。

棒針編みの応用課題作品を提出

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

かぎ針編みモチーフつなぎ、基礎編みのサンプル課題
棒針編みの応用課題作品

■教科書

いちばんよくわかる 新・かぎ編みの基礎 / いちばんよくわかる 新・棒針編みの基礎 /

いちばんよくわかる アフガン編みの本

併せて必要に応じて、プリントを配布しますので、ファイリングをして常に授業に携帯してください。

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課 出講日：金曜日

■備考

なし

ショップディスプレイ

石井 健太

3年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

講師の実際の仕事例を紹介しながら、ショップディスプレイ/デザイン/マーケティングの考え方を学んでゆく。

■到達目標（学修成果）

ショップディスプレイとは企業戦略を視覚化する仕事。ショップの企画立案から実際の設計までを授業内で完成させる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の単位で卒業要件となります。「ショップディスプレイ」は、空間演出の基礎力とビジネスの基礎知識の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読む。特に内容がわからないところは授業で質問すること	30分
2回	VMDとショップディスプレイ	復習：本日の授業内容を再確認する	30分
3回	ショップの原点の確認 モロッコ/明治日本より	予習：指定動画の確認	30分
4回	ショップの原点の確認 アメリカ/昭和日本より	予習：指定動画の確認	30分
5回	ショップの原点の確認 トルコより	予習：指定動画の確認	30分
6回	世界の百貨店の成り立ちの確認 フランスより	予習：指定動画の確認	30分
7回	ショップの企画書作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
8回	ショップの企画書作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
9回	ショップの企画書作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
10回	ショップの図面作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
11回	ショップの図面作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
12回	商品ディスプレイプランの作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
13回	イメージパース作成	予習：これまでの授業内容の確認	30分
14回	資料作成	予習：発表の事前準備	30分
15回	総評	予習：発表の準備	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

発表、レポートについては、講評・ディスカッションを行いフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	60%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

プリント配布

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

基本的には授業終了時【前期】出講日：木曜日 【後期】出講日：月曜日

連絡先：本校舎一階教務課

■備考

パワーポイントでデータを加工し発表するため12回目以降コンピュータールームで授業が入る

服飾クラフト

永田 貴恵子

3年 前期又は後期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

手芸 (Hand Craft) は、世界各地で古い昔から行われその土地の生活様式に合った特有の色や模様が作り出されて来ました。本授業では様々な刺しゅうの知識を深め、基礎となる刺繡の材料 (布・糸・針など) の扱い方や技法を学びます。

■到達目標 (学修成果)

様々な刺しゅうを学び基本的な技法が習得出来ます。刺しゅう小物を制作して生活の中にデザインを取り入れられるようにすることを目標とします。また、図案を構成し刺しゅう技法を組み合わせる応用力をつけることも目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門の選択科目で卒業要件科目となり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	様々な刺しゅうを知る 刺しゅう材料 (布・糸・針等) の取り扱い方 図案の写し方 フランス刺しゅう基礎の準備 サンプラーの制作	予習: シラバスを読む 復習: フランス刺しゅう基礎の確認	10分
2回	フランス刺しゅう基礎 アウトラインS バックS ランニングS チェーンS パリオンS等	復習: アウトラインS バックS ランニングS チェーンS パリオンS等の確認	10分
3回	フランス刺しゅう基礎 ブランケットS レイジーデイズS フレンチノットS サテンS等	復習: ブランケットS レイジーデイズS フレンチノット サテンS等の確認	10分
4回	ビーズ・スパンコール刺しゅう ビーズ・スパンコール刺しゅうの基礎	復習: ビーズ・スパンコールの確認 予習: 自由図案を考える	10分
5回	ミラーワーク、リボン刺しゅう ミラーの留め方 リボン刺しゅうの基礎 自由図案による刺しゅうの制作	復習: ミラーの留め方、リボン刺しゅうの確認	10分
6回	刺しゅうの応用制作 刺しゅうの仕上げ	復習: 刺しゅう応用制作のステッチの確認	10分
7回	クロスステッチ ピンクッションの制作 クロスステッチの基礎	復習: フランス刺しゅう基礎の整理 予習: クロスステッチの図案を考える	10分
8回	クロスステッチ クロスステッチの針の動き方 糸の替え方 糸の始末の仕方	復習: クロスステッチの刺し方糸の替え方、 糸の始末の仕方の確認	10分
9回	クロスステッチ 仕立て方、とじ方	復習: クロスステッチの仕立て方、とじ方の確認	10分
10回	クロスステッチ 仕上げ	復習: クロスステッチの基礎の整理	10分
11回	スモッキング刺しゅう スモッキングバッグの制作 スモッキング刺しゅうの基礎	復習: スモッキング刺しゅう基礎の確認	10分
12回	スモッキング刺しゅう ダイヤモンドSの刺し方	復習: ダイヤモンドSの確認	10分
13回	スモッキング刺しゅう 糸の替え方、糸の始末の仕方。	復習: 糸の替え方、糸の始末の確認	10分
14回	スモッキング刺しゅう 仕上げ方	復習: スモッキング刺しゅうの整理	10分
15回	授業で制作した作品の様々な刺しゅう基礎刺しの確認と刺しゅうの知識を整理する。	復習: 授業で制作した作品の様々な刺しゅう基礎刺しの確認を行う。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

作品返却時にその都度講評をします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

授業時に適宜プリントを配布します。

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

出講日: 金曜日 連絡先: 教務課

■備考

別途教材費がかかります。

インターンシップ

笹部 小百合

2・3年 集中 選択 (2単位 実習)

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。企業でのインターンシップ生教習実務経験を基に指導し、自ら社会で活躍できる人材になろうとする意識強化を目指します。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明、研修について（グループワーク）	予習：企業について研究する	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
14回	事後授業：企業研修の振り返り（グループワーク） 報告会に向けてのプレゼンテーション資料準備	復習：報告書作成と報告会に向けての準備	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会でのプレゼンテーション（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を授業内や学内システム（manaba）でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	50%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）または2年生春休み（評価は3年前期）で10日以上。
研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県。

長期インターンシップ

笹部 小百合

2・3年 集中 選択 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。企業でのインターンシップ生教習実務経験を基に指導し、自ら社会で活躍できる人材になろうとする意識強化を目指します。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明、研修について（グループワーク）	予習：企業について研究する	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く	30分
14回	事後授業：企業研修の振り返り（グループワーク） 報告会に向けてのプレゼンテーション資料準備	復習：報告書作成と報告会に向けての準備	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会でのプレゼンテーション（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

グループワーク・研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を授業内や学内システム（manaba）でフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	50%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）または2年生春休み（評価は3年前期）で2週間以上。
研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県。

メディアコミュニケーション論

渡辺 教子

3年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本講義を通じて、社会におけるメディアの果たす重要性を理解し、基本的なメディア・リテラシーやビジネスに必要なメディアコミュニケーションについて習得をする。次にオールドメディアからニューメディアまで多岐にわたるメディアを「これからの社会に必要なスキルとして」「実践的・実学的」に捉え、いかにビジネスにおいて、メディアが社会に情報伝達を通して時代を作り上げてきたかを検証、講義を進める。すなわち、あらゆるメディアを用いるコミュニケーションを「メディアコミュニケーション」とし、情報化社会の現状に即した必要とされるリテラシーを習得、それを実社会において活用できるノウハウ、とりわけファッションやデザイン分野で重要なコミュニケーションにかかわるさまざまな分野で実践できる知識の習得を目指す。グローバル社会の中、デザインやアートに必要なツールとしてメディアを理解し、利用に長けた企業や個人が、社会で認知され、評価を受けている現状を学ぶ。

「ファッション」=「衣、食、住、遊、知」に必要とされる今、メディアコミュニケーションの活用を考察する講義を組み立てる。その為に社会で活躍するファッションビジネスやメディア・アートに関わるプロフェッショナルな専門家を特別講師として招聘し、ビジネスに必須なブランド構築に必要な実践的なノウハウ、表現者として関わるメディアについて、「成功談・失敗談」等含めて 体験的講義を聞くことにより、社会に必要なこの分野における重要性を理解せしめる。

■到達目標 (学修成果)

- ①社会に必要とされる基本的なメディア・コミュニケーション並びに戦略的なブランド構築の知識を習得する。
- ②さらにファッションビジネス界でメディアやアートを活用した成功例を検証しつつ、メディアデザインの現状とブランディング戦略、それに必要なコミュニケーションスキルを学び、知識を習得することを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で卒業要件科目となり、ファッション業界で必要とされ活躍できる人材になるよう学修する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション、講師自己紹介、授業計画の説明	予習:シラバスを熟読し、その重要性に関し、認識する	30分
2回	高度情報化社会に必要とされるメディア・リテラシー	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返しをしてください	30分
3回	メディアコミュニケーションの社会に果たす役割	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返しをしてください	30分
4回	ブランド戦略	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
5回	メディア・コミュニケーションにおけるデジタルメディア	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
6回	ファッションビジネスにおけるメディアコミュニケーションの重要性について	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
7回	進化し続けるコミュニケーションツール	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
8回	ファッションディレクターの視点。 ファッションメディアにおけるアートとデザインの融合	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
9回	メディアコミュニケーションにおける危険性	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
10回	TV業界におけるメディアコミュニケーション	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
11回	PRと宣伝。	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
12回	広告代理店におけるメディアコミュニケーションの実践	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
13回	ITビジネスとメディアコミュニケーション	復習:配布資料や授業時に使用したレポートの読み返し	30分
14回	社会で台頭しつつあるメディアアート&アーティスト	講義中に数度提出した資料を全て読み返す	45分
15回	まとめ:これまでの講義のフィード・バックを行う	講義中に数度提出した資料を読み返す	45分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

授業内に提出した課題について解説と講評をします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

私語並びに居眠り、プライベート使用でのスマホなど禁止します。

■教科書 授業時に指示しますから、購入するなどの準備をする必要はありません。

■参考文献 あらゆる関連書籍や新聞から、メディアやコミュニケーション、ブランド戦略、アートに関する知識を習得してください。

■オフィスアワー・研究室 出講日:金曜日(前期) 連絡先:教務課(本校舎1階)

■備考 専門以外も、質問や相談にのりますから、困ったことがあったら連絡ください。
但しすべて解決できるということではありません。お互いに解決策を見つけていきましょう。

ファッション画（CG）

福地 宏子

3年 前期又は後期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

Illustrator/Photoshopを使用したPCによる演習を行います。アイデアを図形や画像を使用して形にできる様に、柔軟な発想力を学びます。テキストスタイルを意識した素材制作やハンガーイラストの制作、線画への着彩方法、テーマに合わせたオリジナルの課題制作を行います。

■到達目標（学修成果）

Illustrator/Photoshopの基本操作を身に付け、ソフトの特徴を活かした作品を制作できる。
自身のファッション表現の可能性を広げる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の専門選択科目の単位となります。ディプロマポリシーでは、服飾関係の専門的職業で活かせるような表現力や、豊かな発想力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【Illustrator/Photoshop】・基本操作・ツールの説明と実践	【復習】操作方法や説明等を振り返る	30分
2回	【Illustrator】ペンツールによるパスの操作 ハンガーイラスト①(ジャケット、パンツ等)	【復習】操作方法や説明等を振り返る	30分
3回	ハンガーイラスト②(ニットウェア等)	【復習】操作方法や説明等を振り返る	30分
4回	【Illustrator】パターン柄の制作(様々なツールの説明と実践も含む)	【復習】自身の課題を振り返る	30分
5回	【Photoshop】ハンガーイラストへの素材ペースト① 画像の加工(フィルター、色調補正等)	【予習】アイテムに合った素材をリサーチ、資料収集	30分
6回	ハンガーイラストへの素材ペースト②	【復習】自身の課題を振り返る	30分
7回	【Illustrator/Photoshop】 個展、展示会を想定したDM制作①	【予習】テーマ、イメージに合わせた資料収集	30分
8回	個展、展示会を想定したDM制作②	【予習】テーマ、デザインイメージを事前にまとめておく、資料収集	30分
9回	個展、展示会を想定したDM制作③	【復習】自身の課題を振り返る	30分
10回	【Illustrator/Photoshop】 テーマに合わせたスタイル画表現①	【予習】テーマ、イメージに合わせた資料収集	30分
11回	テーマに合わせたスタイル画表現②	【予習】テーマ、デザインイメージを事前にまとめておく、資料収集	30分
12回	テーマに合わせたスタイル画表現③	【復習】自身の課題を振り返る	30分
13回	【Illustrator/Photoshop】 テーマに合わせたオリジナルの作品制作①	【予習】テーマ、イメージに合わせた資料収集	30分
14回	テーマに合わせたオリジナルの作品制作②	【予習】テーマ、デザインイメージを事前にまとめておく、資料収集	30分
15回	テーマに合わせたオリジナルの作品制作③	【復習】自身の課題を振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出した課題には評価やコメント記入をして振り返りが行えるように返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じてプリントを配布

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

【オフィスアワー】第1回目の授業時に指示する

【研究室】ファッション画研究室 研究棟2階 6025

■備考

進度により授業計画が変更になる場合もある

民族衣裳論

梅谷 知世

3年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

世界各地の民族服飾はそれぞれの自然環境や文化環境の中で生まれ、時代とともに変化しながら今日に受け継がれてきました。この授業では、アジアを中心にアメリカやヨーロッパなど世界の民族服飾を取り上げ、人びとの手仕事によってつくられてきた民族服飾の形、素材、織・染め・刺繍などの技法、文様について学びます。また、民族服飾がどのような背景の中で成立し変化してきたのか、そして、民族服飾が民族にとってどのような意味をもつのかという問題について、背景にある気候風土や暮らし、信仰、異文化交流など多様な視点から考えていきます。

講義形式で進めますが、適宜、教員からの質問についてグループ内でのディスカッションを行います。

■到達目標（学修成果）

- 1、民族服飾の多様なあり方を知り服飾文化に対する視野を広げる。
- 2、民族服飾の成立・変化と自然環境・文化環境との関係性や、民族服飾の意味について理解する。
- 3、民族服飾を通して世界の異文化への関心を深める。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業認定科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	民族服飾とは何か	予習：シラバスを読み授業概要を理解する。	30分
2回	民族服飾を学ぶ視点	予習：参考文献を図書館で確認する。	90分
3回	アメリカの民族服飾（グアテマラ）	予習：グアテマラの気候風土とマヤの歴史を調べる。	90分
4回	東アジアの民族服飾（中国・旗袍）	予習：近代中国の歴史について調べる。	90分
5回	東アジアの民族服飾（中国・少数民族）	予習：中国の少数民族の居住地域を確認する。	90分
6回	博物館見学	復習：博物館見学のレポートを作成する	120分
7回	東アジアの民族服飾（アイヌ）	予習：アイヌ民族の歴史について調べる。	90分
8回	東アジアの民族服飾（琉球）	予習：琉球王国と近現代沖縄の歴史について調べる。	90分
9回	東南アジアの民族服飾（ラオス）	予習：ラオスの気候風土と歴史について調べる。	90分
10回	南アジアの民族服飾（インド）	予習：インドの気候風土と歴史・宗教について調べる。	90分
11回	南アジアの民族服飾（インド西部）	予習：インド西部の気候風土について調べる	90分
12回	西アジアの民族服飾（サウジアラビアなど）	予習：西アジアの気候風土と宗教について調べる。	90分
13回	ヨーロッパの民族服飾（スコットランド）	予習：スコットランドの気候風土と歴史を調べる。	90分
14回	ヨーロッパの民族服飾（東欧）	予習：ブルガリアとルーマニアの気候風土と歴史を調べる。	90分
15回	まとめ	復習：これまでの授業内容を振り返り十分理解する。	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内課題や期末レポートについて、フィードバックを次回授業時、またはmanabaで行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献 国立民族学博物館編『国立民族学博物館展示案内』（2017） その他の参考文献は授業中に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

研究室：研究棟 6042A オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。

■備考 世界各地の民族に関心を持ち、新聞やインターネットの報道に注意するようにしてください。美術館や博物館に足を運び、民族服飾の実物を見学する機会を持つ心がけてください。

染織史

大久保 尚子

3年 後期 選択 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日本の染織技法の種類と歴史的展開を、意匠との関係、海外との影響関係にも注目して学習します。各時代に特徴的な染織意匠を文化的背景とともに紹介します。映像資料と実物資料を提示し技法、意匠の特色を体験的に学習し、展覧会見学を通し知識に基づく作品理解を深めます。

■到達目標 (学修成果)

- ・歴史上にみられる染織技法について、技法による表現効果の違い、意匠との関係に注目して理解し、自ら具体的な作品例をとりあげ技法と意匠の特徴について説明できる。
- ・意匠と同時代文化との関係について理解を深め、授業で示した資料を活用し説明することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。また、学芸員資格取得のための学芸員課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	染織 (テキスタイル) の歴史と現代の服飾の関係 (ディスカッション) / 手仕事と機械工業 / 「織り」の技法、「染め」の技法	予習: 日本の伝統染織作品や関連情報 (図書、報道等) に触れる。 復習: 授業時に示す復習課題に取り組みmanaで解答する。	40分
2回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法① 天然素材による糸、織機の仕組み 織物の基本組織	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
3回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法② 綾、羅、錦 / 正倉院の染織品にみる唐風の受容	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
4回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法③ 縫い取り織 (二陪織物、唐織)、縹子織 (縹子、縹子) / 有職織物と名物裂	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
5回	日本の染織技法の種類と歴史 織の技法④ 緋、縹、縹 / 近世における外来染織の受容	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
6回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法① 描絵、摺絵、絞り染め、板締め / 天然染料の染色、江戸時代小袖の復元	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
7回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法② 糊防染①型染 (小紋、中形) / ジャポニスムと染色型紙	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
8回	日本の染織技法の種類と歴史 染めの技法③ 蟬防染 (縹縹、更紗)、糊防染②友禅染め / 更紗のグローバルな影響	予習: 初回配布資料の指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
9回	日本の染織技法の種類と歴史 博物館見学① 染織作品の実地見学	予習: 展示資料情報、特に技法について確認。復習: 見学レポートに取り組み。	40分
10回	日本の染織技法の種類と歴史 博物館見学② 染織作品の実地見学。質疑応答と見学レポート	予習: 展示資料情報、特に技法について確認。復習: 見学レポートに取り組み。	40分
11回	日本の染織技法の種類と歴史 まとめ 日本の染織の歴史展開、服飾史との関係/技法と意匠の関係 / 染織技術の近代化	予習: これまでの資料に再度目を通す。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
12回	近世の染織意匠① 友禅風意匠と友禅染の成立	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
13回	近世の染織意匠② 光琳文様と琳派の意匠	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
14回	近世の染織意匠③ 山東京伝の見立て小紋と江戸の意匠	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分
15回	近代の染織と意匠 染織技術革新と意匠・ジャポニスムとヨーロッパのデザイン運動・日本のデザイン運動 まとめ	予習: 配布資料指定箇所を読む。 復習: 課題に取り組みmanaで解答。	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

毎時の復習課題や質問にはmanaを利用します。フィードバックは次回授業時、またはmanaで行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内課題 (プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

教科書は用いず、配布資料プリントによって授業を進めます。

■参考文献

小笠原小枝『染と織の鑑賞基礎知識』至文堂 1998年、河上繁樹、藤井健三『織りと染めの歴史』昭和堂 1999年

■オフィスアワー・研究室

前期: なし 連絡先: 本校舎一階教務課 後期 授業のある金曜日 (14時~14時30分) 第3校舎講師控え室

■備考

プリントはテキスト同様に使用します。毎回必ず持参してください。博物館見学の実施回は、状況により変更する場合があります。詳細は授業時に指示します。

ファッション・プレゼンテーション演習

児島 やよい

3年 前期 選択 学芸員課程必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッションについて、ここでは、アートおよび生活文化全般との関わりにおいて幅広く扱う。授業担当者の約30年に渡る現代美術やデザインをカバーするキュレーター、ライターとしての実務経験を踏まえて、美術館、ギャラリーや多様な展示施設での多ジャンルの展覧会の事例を提示、見学、解説する。見学の際には担当学芸員やアーティストとも対話する機会を設ける。それをもとにグループワークやディスカッションを行い、時代に求められる新しい生活様式を考え、創造に活かす視点を学ぶ。その上で、各自が展覧会企画を構想、プレゼンする演習を行い、豊かな自己表現としてのファッションを探求し、説得力のあるプレゼンテーションの方法を身に付ける。

■到達目標（学修成果）

本授業では、展覧会や教育プログラムのリサーチや企画、実施までの過程を知り、ファッションを通していかに新鮮な主張を発信するかを学ぶ。こうした実務を知り、多様な展覧会を見学・考察することで、学芸員が展覧会を企画する構想力、研究・分析の成果から導かれる新たな視点を活かす手法や基本的なプロセスを理解し、それを具体化する方法を身につけることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目です。また、学芸員資格取得のための学芸員課程の必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション。展覧会・教育プログラムの調査、企画・実施の実務につき概要を解説する。（見学先は本授業のテーマに合う展示・教育プログラムの中で、評価の高い候補会場との交渉を経て決定する。以下の予定は先方の関係等により変更することがある。）	予習：シラバスを読んでおく。 これまで鑑賞した展覧会の概要を振り返り、発表できるようにメモにまとめておく。	60分
2回	展覧会等企画書作成の概要を解説する。 見学①教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
3回	展覧会企画書のための準備書作成。 見学② 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
4回	展覧会企画の実務について解説する。 見学③ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
5回	見学④ 教室に集合し、見学内容を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
6回	見学⑤ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
7回	見学⑥ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
8回	中間プレゼンテーション、企画書提出。ディスカッション。アクティブ・ラーニング	予習：中間プレゼンテーション、企画書を作成する。	60分
9回	見学⑦ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
10回	見学⑧ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
11回	見学⑨ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：見学先について下調べをする。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
12回	見学⑩ 教室に集合し、見学内容等を講義してから見学先に行く。アクティブ・ラーニング	予習：期末プレゼンテーションの準備。復習：見学レポートを書き、manabaにて指定の日時まで提出する。	60分
13回	見学についての全体まとめ、ディスカッション。 グループワーク、期末プレゼンテーションの準備。	予習：復習：企画書プレゼンテーションの準備。	60分
14回	展覧会・教育プログラム企画書のプレゼンテーション、グループディスカッション。アクティブ・ラーニング	予習：企画書内容のブラッシュアップ、プレゼンテーションの準備。復習：ディスカッションの振り返り。	60分
15回	期末プレゼンテーション、グループワーク。見学・授業全体のまとめ、ディスカッション。	予習：これまでの見学内容を振り返る。プレゼンテーションの準備。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manabaにて見学レポート、課題プレゼンに対するフィードバック。また今後の課題、次回見学、授業の内容を掲示する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

ディスカッション、グループワークへの参加度。

見学レポート、中間プレゼンテーション。

期末プレゼンテーション（グループワーク）。

■教科書 特に指定しない

■参考文献 授業時に指示する

■オフィスアワー・研究室 前期 土曜日（2時～2時40分）本校舎1階教務課

■備考 できるだけ多くの展覧会、映画、舞台、映像などに触れるようアンテナを張ってください。

ドレーピング&パターンメイキング（選）

高橋 彩香

3年 前期 選択 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

コースに関係なく、ドレーピング&パターンメイキングを学びたい学生を対象に開講します。
パターンメーカーの実務経験・談を織り交ぜた講義実習を行う。
受講学生の能力に合わせて内容の変更も有り。

■到達目標（学修成果）

基本理論と基本技術の復習と、立体と平面とを兼ね合わせ、立体的な服の見方を学び応用へと発展させ、原型をつくれるようになる。またその先にあるパターンメイキングができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【実習】立体裁断の基本理論と操作 人台・天竺の扱い 原型のドレーピング	予習：天竺 120 cm用意	15分
2回	【実習】原型のドレーピング 前後見頃	予習：天竺の地直し 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
3回	【実習】 前後スカート	予習：スカート用天竺の地直し 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
4回	【実習】パターン抜き・長さ合わせ	課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
5回	【実習・課題】ユルミなし原型の組み立て・修正	予習：原型トレース 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
6回	【実習】原型のユルミ入れ	課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
7回	【実習】原型のユルミ入れ	課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
8回	【実習】ドレス原型の組み立て・修正	予習：天竺の地直し	30分
9回	【実習】袖の製図	課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
10回	【実習・課題】袖付け・修正	予習：天竺の地直し 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
11回	【実習】パターンの基本操作	予習：原型トレース 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
12回	【実習・課題】パターンの基本操作	予習：原型トレース 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
13回	【実習・課題】パターンの基本操作	予習：原型トレース 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
14回	【実習】応用ドレーピング	予習：天竺の地直し 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分
15回	【実習】応用ドレーピング	予習：天竺の地直し 課題：授業内に未完了のものを完了させる	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で課題を点検し、その場で学生に対して個別指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

立体裁断 「基本理論」 小山千暁 他著 (有) c f k 1 9 9 1
立体裁断 「基本理論から応用」 小山千暁 他著 (有) c f k 1 9 9 1

■参考文献

「工業用パターンガイドブック」 小山千暁 他著 (株)アミコファッションズ

■オフィスアワー・研究室

第2校舎 2402 教室 金曜日 13:00~14:30

【連絡研究室】ドレーピング&パターンメイキング研究室（第3校舎1階 3106 教室）

■備考

授業に必要なテキスト・道具・天竺などの準備は必ず時間前に用意すること。

近代日本モード史

梅谷 知世

3年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日本では明治時代以降、西洋文化の影響を受けて近代化が進められました。服飾をはじめとする生活文化についても、現代の生活に直接結びつくような諸相が見られるようになります。ただし、洋服はすぐに普及したのではなく、少しずつ段階を踏んで浸透していきました。欧米各国との対等な外交関係を目指し、明治初期から男性の公的な装いに洋装が採用される一方、多くの人びとはまず、和装に西洋風を取り入れるという形で自然な和洋折衷形式を作り上げました。大正時代後期以降は生活改善運動や職業婦人の増加等を背景に積極的に洋装となる女性も現われ、洋裁学校が相次いで創設されます。戦後、これらの洋裁学校は洋装の普及に大きな役割を果たすことになりました。

本授業では、このような近代日本の服飾文化について、背景にある社会や文化の状況とともに解説します。

講義形式で進めますが、適宜、教員からの質問についてグループ内でのディスカッションを行います。

■到達目標 (学修成果)

- 1、日本人の衣生活に洋服がどのような経緯で取り入れられ、浸透していったかを理解する。
- 2、伝統的な美意識と西洋趣味の融合した近代の和装の展開について理解する。
- 3、服飾を通して、近代日本社会のあり様や人々の精神性を理解する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業認定科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	ガイダンス	予習：シラバスを確認し授業概要を理解する。	30分
2回	明治時代の洋装① 幕末・文明開化期の洋風摂取	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
3回	明治時代の洋装② 近代国家建設と洋服導入	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
4回	明治時代の洋装③ フロックコートとハイカラ	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
5回	明治時代の洋装④ 鹿鳴館時代の女性の洋装	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
6回	和装の近代化① 束髪の広がり	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
7回	和装の近代化② 洋装品をとり入れた和装	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
8回	和装の近代化③ 女学生の袴姿	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
9回	和装の近代化④ 明治・大正・昭和の着物文様	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
10回	和装の近代化⑤ 百貨店による流行の創出	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
11回	大正時代の洋装 女性の洋装の広がり	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
12回	モダン都市文化とモダンガールの装い	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
13回	戦時中の衣生活と戦後の洋裁文化	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
14回	1960年代以降のファッションと社会	復習：授業内容の振り返りを行い課題に取り組む。	90分
15回	まとめ	復習：これまでの授業内容の振り返りを行い、理解を深める。	150分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

授業内課題や期末レポートについて、フィードバックを次回授業時、またはmanabaで行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	30%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献 授業時に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。研究室：研究棟 6042A

■備考 近代日本の文学作品を読んだり、近代日本の絵画や工芸作品に触れたりする機会を持つよう心がけてください。

リテールビジネスにおけるVMDマネジメント

田邊 潤一

3年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

- ・VMDをリテールビジネスにおけるブランディングマネジメントの一領域と捉え、構成要素としての各分野を担当講師自身の27年の百貨店実務経験に基づく知見を活かし、店舗創りの観点を軸に体系的かつ実践事例に触れながら学びます。
- ・通して受講することで、VMDの本質から陳列技法・ストアプラン・装飾演出・組織運営管理まで俯瞰して捉えることが可能となり、様々な切口からリテールビジネス・ファッションビジネスの実務に活かすことができるようになります。
- ・本科目ではグループワークを含むアクティブラーニングを実施します。

■到達目標（学修成果）

- ・店舗視察での評価分析やレポートが作成できるレベルで、VMDの意味と目的、個別手法の体系的な理解を目指す。
- ・演習の過程や成果物作成に取り組むことで、あらゆる局面で解決策としてのVMD施策を提示出来るレベルを目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、あらゆるファッションビジネスで活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	VMDとは VMDの意味と目的・リテールビジネスにおけるVMDの本質	予習：シラバスの確認	30分
		復習：POPUPSHOP写真の解説	15分
2回	VMDの歴史と潮流 店舗形態の進化の歴史・VMDの力点の変遷	予習：VMDのトレンドの想像	15分
		復習：ディスプレイ写真の解説	15分
3回	グループディスカッション 私の好きなVMD やってみたいVMD その理由	予習：課題指示に従い事前構想記述	120分
		復習：演習成果物の振り返りとまとめ	15分
4回	VMDの体系 VMDの4つのレベル・VMDマネジメントの構造	予習：VMDの体系の想像	15分
		復習：好きなVMDを体系から考察	15分
5回	陳列の美観と統一感 MDPと原理原則・美観と統一感を作り出すカテゴリ	予習：自分が好きな並べ方の考察	15分
		復習：好きなVMDを美観要素から考察	15分
6回	陳列構成演習 いつも使っている文具等を用いて陳列構成してみよう	予習：演習で使う文具等の準備	15分
		復習：演習の振り返りとまとめ	15分
7回	売場の眺めと高さ・通路と什器配置 人間工学や心理学に基づく売場作り	予習：演習で使うメジャー等の準備	15分
		復習：買物するときの物の見方を考察	15分
8回	場の役割 VP・PP・IP	予習：過去に習ったVP・PP・IPの復習	15分
		復習：自分の店の場の役割を構想	15分
9回	展開分類とゾーニング・VMD方針 ゾーニングとVMD実施の実例・ゾーニング分析演習	予習：ユニクロとZARAを視察	120分
		復習：自分の店の売場タイプを構想	15分
10回	展開機能設計とVMDツール・表示類	予習：展開機能のイメージを想像	15分
		復習：自分の店の細部の作り方を構想	15分
11回	マネキン	予習：視察でマネキンを観察	60分
		復習：自分の店の表示類を構想	15分
12回	空間の種類・モチーフ・装飾・デコレーション 演出・空間の種類・装飾・デコレーション・デジタルVMD	予習：視察で空間演出や装飾を観察	60分
		復習：自分の店の装飾演出を構想	15分
13回	店舗VMD開発計画演習Ⅰ 私のストアコンセプト・VMDコンセプトを計画	予習：課題指示に従い課題の事前作成	120分
		復習：演習成果物の振り返り	15分
14回	店舗VMD開発計画演習Ⅱ 私のストアプラン・VMDプランを計画	予習：課題指示に従い、内容まとめ	60分
		復習：演習成果物の振り返り	15分
15回	VMDに関する仕事 VMDに関する仕事の特性・VMDの肩書を持つ仕事とは	予習：VMDの仕事を具体的に想像	15分
		復習：将来のVMD実務の具体的想像	15分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

自分の理想の商売における店舗VMD計画を演習成果物として作成し提出。課題用紙はmanabaにも掲載。希望者には返却。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書等なし。毎回学習資料を配布します。授業は講師作成のパワーポイント教材による講義と各種演習となります。

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

出校日：水曜日午後 FB研究室：第3校舎4階(3402教室)にて16:20～17:50まで

■備考

なし

ファッション3Dモデリング I

羽賀 友美

3・4年 前期 モードクリエイション・インダストリアル選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッション業界でCGを利用した3Dモデリングの活用が増えている。クロスシミュレーションソフト(CLO)を使ったファッション3Dモデリングの基礎的な知識や技術を学修します。ファッション3Dモデリストという新しいクリエイターの育成に向け、デジタルでのファッション造形・表現が可能になるように指導していきます。

■到達目標(学修成果)

CLOの基本操作を身に付け、軽衣料(シャツ、スカート)のモデリングができるようになります。フィジカル(現実世界)との違いを理解し、デジタルでのファッション表現の可能性を広げることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で専門選択科目の単位です。服飾関係の専門的職業で活かせるデジタルモデリングの基礎力を培います。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容(予習・復習等)	必要時間
1回	モデリング基本操作① 画面操作、パターン配置練習 ネットの著作権等について	予習:シラバスを読む 復習:授業で学んだネット情報を確認	20分
2回	モデリング基本操作② 縫い合わせ設定練習	復習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
3回	モデリング ギャザースカート	復習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
4回	モデリング シャツ①	復習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
5回	モデリング シャツ②	復習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
6回	モデリング シャツ③	復習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
7回	モデリング シャツ④	復習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
8回	モデリング プリーツスカート	復習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
9回	パターン編集(デザイン変更・パターン展開)	予習:パターン展開について調べる	30分
10回	ディティール(ファスナー、ステッチ、ボタン)	予習:副資材について調べる	30分
11回	コーディネート(レイヤー設定、配色)	予習:着用時の服の重なりについて調べる	30分
12回	課題製作①モデリング	予習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
13回	課題製作②モデリング	予習:パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
14回	課題製作③レンダリング、提出	予習:モデリングに合わせた背景画像を用意しておく	30分
15回	プレゼンテーションを行い、アクティブラーニングでお互いに意見交換を行う。講評	予習:プレゼンテーションの練習	30分

■フィードバック(試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用)方法

授業内で課題を点検し、その場でコメント、フィードバックを行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	70%
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ファッション3Dモデリスト検定3級(CLO編) 織研新聞社

■参考文献

授業時に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回授業時に伝えます。研究室:3211 教室(第3校舎2F)

■備考

専用PCの台数に限りがあるため、履修者の人数制限があります。

3DCGソフトは2002教室でしか使えない為、欠席しないようにしてください。

日程及び内容は授業進度により変更することがあります。

ファッション3DモデリングⅡ

羽賀 友美

3・4年 後期 モードクリエイション・インダストリアル選択 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

ファッション3DモデリングⅠで学んだ基礎から発展させ、服の構造やリアルな表現ができるモデリングの知識と技術を学修します。ポーズ、ライティング、構図を決めて静止画でのレンダリングまでを行い、デジタルでのファッション表現力を高めます。クロスシミュレーションソフトCLOを使用します。

■到達目標（学修成果）

CLOの応用操作を身に付け、パンツ、重衣料（ジャケット、コート）のモデリングができるようになります。フィジカル（現実世界）との違いを理解し、デジタルでのファッション表現を広げ、提案できるようになることを目標とします。ファッション3Dモデリスト検定へ挑戦し、3級取得を目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で専門選択科目の単位です。服飾関係の専門的職業で活かせるデジタルモデリングの基礎力を培います。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	モデリング基本操作の復習 モデリング パンツ①	予習：シラバスを読む	20分
2回	モデリング パンツ② 3級検定に向け課題を行う 3-1	予習：パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
3回	コーディネート 3級検定に向け課題を行う 3-2	予習：パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
4回	モデリング ジャケット① 3級検定に向け課題を行う 3-3	復習：パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
5回	モデリング ジャケット②	復習：パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
6回	モデリング ダウンコート①	予習：ダウンコートについて調べる	30分
7回	モデリング ダウンコート② 3級検定に向け課題のプレゼンを行い講評で改善を促す。	予習：ダウンコートについて調べる	30分
8回	課題製作①モデリング	予習：パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
9回	課題製作②モデリング 3級検定に向け課題改善作品をプレゼンにて提出し講評	予習：パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
10回	課題製作③モデリング	予習：パターンの形、フィジカルでの縫い合わせを確認する	30分
11回	課題製作④テクスチャ設定、配色	予習：素材について調べる	30分
12回	課題製作⑤アバター編集、ポージング	予習：ポージングについて調べる	30分
13回	課題製作⑥構図決め、ライティング	予習：写真撮影の構図について調べる	30分
14回	課題製作⑦レンダリング、提出	復習：プレゼンテーション前までに完成させ、提出する。	30分
15回	プレゼンテーションにより、学習成果を提示しアクティブラーニングによる意見による改善を目指す。教員講評	予習：プレゼンテーションの練習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で課題を点検し、その場でコメント、フィードバックを行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ファッション3Dモデリスト検定3級（CLO編）織研新聞社

■参考文献

授業時に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回授業時に伝えます。研究室：3211 教室（第3校舎 2F）

■備考

前期ファッション3DモデリングⅠ単位取得者のみ履修できます。

3DCGソフトは2002教室でしか使えない為、欠席しないようにしてください。

日程及び内容は授業進度により変更することがあります。

食物学（食品学）

山田 奈緒子

3年 前期 選択 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

様々な食品についてその特徴や栄養成分、保存方法、鮮度の見極め方、調理法などについて解説する。また食品表示法など食に関連する法律や食品衛生、食に関する諸問題（食料自給率や食品ロス、遺伝子組み換え食品など）についても解説する。現代の食に関する諸問題を知ることで、食や健康、安全に関する情報を読み解く基礎的な力を養い、実際の食生活をより良いものにしていくことを目指す。

■到達目標（学修成果）

- ①それぞれの食品の特徴を理解し、目的に合わせた適切な選択ができる。
- ②食品表示法、食品衛生の知識をもとに適切な食品の選択をし、安全な食品の取り扱いや保存、調理ができる。
- ③様々な情報に惑わされることなく、情報を冷静に分析し、日常生活で応用できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定は、専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。学位授与の方針については、「食物学（食品学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	食品表示法について① 食品表示法の概要	復習：食品を購入する際に気をつけていることについて考えをまとめる。	30分
2回	食品表示法について② 期限表示と食品ロスについて、食物アレルギーとその対処法	復習：食品ロスについて、自分に出来ることを考える。	30分
3回	食品表示法について④ 有機表示と遺伝子組み換え	復習：遺伝子組み換え食品についてレポートを作成する	30分
4回	食品表示法について④ 栄養成分表示と保健機能食品（トクホ、機能性表示食品等）	復習：保健機能食品の活用について考える。	30分
5回	食品衛生について① 手洗い実験の実施 手洗いの注意点、食中毒の種類と原因について	復習：手洗い・食中毒についてレポートを作成する。	30分
6回	食品衛生について② さまざまな食中毒とその症状および予防法について	復習：食中毒の原因菌の特徴をまとめる。	30分
7回	乳・乳製品の特徴と栄養価、選び方、調理上の注意点	復習：牛乳の特徴についてレポートを作成する	30分
8回	肉類の種類と特徴について	復習：授業の復習	30分
9回	肉類の栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：肉類の調理の特性についてレポートを作成する	30分
10回	魚介類の特徴について	復習：授業の復習	30分
11回	魚介類の栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：魚介類の調理の特性についてレポートを作成する	30分
12回	卵、豆類、芋類の特徴と栄養価、選び方、調理上の注意点について	復習：授業の復習およびじゃがいもの特性についてレポートを作成する	30分
13回	米製品と小麦製品の特徴と栄養価について	復習：授業の復習および米の調理性についてレポートを作成する	30分
14回	野菜の特徴と栄養価、色素、褐変について	復習：授業の復習および野菜の色素についてレポートを作成する	30分
15回	果物の特徴と栄養価、色素、追熟等について	復習：授業の復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートの返却及び講評は15回目の授業内で行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるため注意すること。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	*授業内で扱ったテーマについてレポート課題を課す。
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

「白熱教室 食生活を考える」 編著者 金子佳代子/松島悦子 アイ・ケイ・コーポレーション (2,400円)

■参考文献 授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002調理実習室内

■備考 なし

住居学（製図を含む）

萬羽 郁子

3年 後期 選択 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

住居学に関する基礎的知識の習得を目指し、まず、住居の役割や機能に説明する。次に、住居の歴史の変遷について概説し、間取り・生活の変化や室内環境について学習する。後半には、住まいの安全や住まいの計画（製図を含む）について学習し、健康・快適・安全な住まいについてまとめる。

■到達目標（学修成果）

人間生活の器である住居の役割を理解し、住生活に関して居住者として必要な基礎的知識を身につける。住居の役割と機能、住居の歴史の変遷と生活の変化、室内の環境整備の必要性や維持管理方法について理解する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択科目の単位であり、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、「住居学」は専門コースに拘らず選択することができ、専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：住居とは、授業計画 住居の役割と機能（グループワーク）	予習：シラバスを読む。中・高家庭科教科書の関連内容を確認する。	30分
2回	気候風土と住まい（プレゼンテーション）	予習：日本・世界の住まいについて調べる。 復習：授業内容をノートにまとめる。	60分 30分
3回	住宅・住生活の変遷①：古代～中世	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
4回	住宅・住生活の変遷②：近世の住宅（グループワーク）	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
5回	住宅・住生活の変遷③：近代～現代	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
6回	環境と住生活①：温熱環境	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
7回	環境と住生活②：空気・音・光環境	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
8回	住まいの安全①：高齢者を取り巻く環境・バリアフリー	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：自宅のバリアフリー調査を行いレポートにまとめる。	30分 60分
9回	住まいの安全②：家庭内事故の予防・ユニバーサルデザイン	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
10回	住まいの安全③：防災	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
11回	住まいの選択と管理	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：住宅の選択に関する課題に取り組む。	30分 60分
12回	住まいの計画①：平面図	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：製図課題の続きを行う。	30分 60分
13回	住まいの計画②：家具配置	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：家具配置課題の続きを行う。	30分 60分
14回	住まいの計画③（プレゼンテーション）	予習：家庭科教科書の関連内容を確認する。 復習：授業内容をノートにまとめる。	30分 60分
15回	まとめと振り返り（小テスト・レポート）	予習：これまでの学習内容を確認する。 復習：振り返りレポートを作成する。	60分 30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業中に小テスト、レポート、演習課題など返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 授業時に指示する。

■参考文献

住まいとインテリア研究会 編：図解住まいとインテリアデザイン，彰国社
水村容子・井上由起子・渡邊美樹 編：私たちの住まいと生活，彰国社
定行まり子・沖田富美子 編著：生活と住居，光生館

■オフィスアワー・研究室

前期：なし 後期：土曜日 第3校舎講師控室（第3校舎1階）

■備考 2コマ連続（7・8限と9・10限）で行う場合があります。詳細は初回授業で説明します。

保育学（実習及び家庭看護を含む）

川崎 理香

3年 後期 選択 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

保育学においては、子どもの発達や子どもの他者への関わりについて、担当教員の幼稚園教諭・保育士の実務経験から具体例を聞き、幼児理解の姿勢を学ぶ。また知識だけでなく、自らが活動を体験することにより保育技術の向上を目指し、グループワークやプレゼンテーションによる学び合いによって保育者の役割や子どもへの理解を一層広げ深める。

■到達目標（学修成果）

- ・乳幼児期の発達を理解できるようになる。
- ・乳幼児期の子どもたちが、出会う身近な存在である人的環境や物的環境との関わりを知ることができる。
- ・教材研究を通して子ども理解を深めることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択科目の単位となる。教員免許状取得のための教職課程必修科目である。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、「保育学」は専門コースに拘らず選択することが出来、社会基礎力の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 保育とは何か	予習：シラバスを読む。保育とは何かについて自分なりに考えをまとめる	30分
2回	乳児の発達の姿と保育	予習：子どもが誕生してから乳児期の発達について調べる	30分
3回	3～5歳児の成長・発達と保育	予習：幼児期の成長・発達について調べる	30分
4回	保育者の役割～	予習：保育者についてのイメージや役割について考えをまとめる	30分
5回	5領域の目標とねらい・内容 幼児教育施設の違いについて	予習：子どもの育ちの側面からとらえた5領域について調べる	30分
6回	遊びを通しての総合的な指導	予習：子どもにとって遊びとはどのような意味を持つのか、考えをまとめる	30分
7回	環境を通して行う保育・教育	予習：社会の状況に応じて変化してきた子どもを取り巻く環境について考える	30分
8回	一人一人の発達に応じた指導	予習：「個」が生きる集団作りのために個と集団の関係を、どのようにとらえたらよいのか考える	30分
9回	事例研究①幼児理解を深める…グループ協議	予習：特別な支援を必要とする子どもとの関わりについて、自分の体験を通して考える	30分
10回	同じ遊びの目的や課題をもつ友達が協力して展開する活動	予習：誕生会などでの出し物について教材研究しておく	30分
11回	教材研究①行事の出し物の展開を考える…グループ協議	予習：出し物に応じた教材準備、役割分担、練習をする	30分
12回	教材研究②模擬保育…グループ発表・評価・反省	予習：出し物の発表が出来るように練習しておく	30分
13回	伝統行事・伝承遊び	予習：体験したことのある伝統行事や伝承遊びについての振り返りをする。	30分
14回	事例研究②保育者の援助を考える…グループ協議 生きる力の基礎及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	予習：保育者の具体的な役割を事例について分析・考察しておく	30分
15回	まとめ	予習：14回目までの授業の内容の復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業のはじめに前回の授業の振り返りを行う。授業の終わりに振り返りシートを記入し、授業内容の理解の深まりを確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

毎回レジュメを配布する。

■参考文献

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各解説書

■オフィスアワー・研究室

前期：なし 連絡先：本校舎1階教務課

後期：土曜日（9時00分～10時40分）本校舎1階教務課

■備考

なし

食文化論

山田 奈緒子

3年 前期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日本の特色ある食文化を、地理、気候、歴史、文化、社会的側面から解説する。さらに食べる機会の多い中国・フランス料理等の食文化、宗教と食の禁忌についてもとりあげ、互いの食文化にどのように影響を与えてきたかを学ぶ。また社会人として知っておくべき食事マナーについても解説する。

■到達目標（学修成果）

- ①日本の食文化の特徴、他国の食文化の特徴について理解し、説明できる。
- ②食文化に対して自分の考えを述べることができる。
- ③各国の料理や日常の食事において、マナーを守ることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定については、専門選択単位（ライフスタイル関係）である。学位授与の方針については、「食文化論」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	食文化とは 共食の意義について	復習：配布資料を読む、共食の意義についてレポートを作成する	30分
2回	和食の歴史と特徴① 日本の食文化について	復習：配布資料を読む、日本の食文化についてレポートを作成する	30分
3回	和食の歴史と特徴② 日本の郷土食について	復習：自身の地元につながる郷土食についてレポートを作成する	30分
4回	和食の歴史と特徴③ 五節句と主な通過儀礼食について	復習：和食の歴史についてレポートを作成する	30分
5回	和食の歴史と特徴④ 本膳料理、精進料理、茶懐石料理について	復習：日本料理の成り立ちについてレポートを作成する	30分
6回	和食の歴史と特徴⑤ 菓子の歴史について	復習：配布資料を読む	30分
7回	和食のマナーとテーブルセッティング 会席料理のマナーと箸使いについて	復習：箸の使い方・マナーについてレポートを作成する	30分
8回	宗教と食の禁忌 イスラム教、その他の宗教での食の禁忌について	復習：宗教と食の禁忌についてレポートを作成する	30分
9回	フランス料理の歴史と特徴① フランス料理の誕生、使用される食材について	復習：フランス料理についてレポートを作成する	30分
10回	フランス料理の歴史と特徴② フランス料理、マナーについて	復習：フランス料理についてレポートを作成する	30分
11回	中国料理の歴史と特徴① 中国料理と日本料理の比較、中国四大料理について	復習：中国料理についてレポートを作成する	30分
12回	中国料理の歴史と特徴② 中国四大料理、飲茶、マナーについて	復習：中国料理についてレポートを作成する	30分
13回	韓国料理の歴史と特徴 韓国料理が誕生するまで、様々な料理について	復習：韓国料理についてレポートを作成する	30分
14回	食文化を学ぶ意義について、 グループディスカッションを通して考える	予習：これまで学んできた各国の食文化について振り返る	30分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等）のフィードバックを含む	復習：試験内容を振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

試験を含む授業のまとめは15回目の授業内で行う。レポートは確認、添削後に授業内で返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	*15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるため注意すること。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	*授業内で扱ったテーマについてレポート課題を課す。
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

プリントを配布する

■参考文献

日本の食文化 「和食」の継承と食育（新版） 編著者 江原絢子・石川尚子 アイ・ケイ・コーポレーション

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考

なし

食物学（調理実習・実験）Ⅰ

山田 奈緒子

3年 前期 選択 教職課程必修 (1単位 実験・実習)

■授業の方針・概要

実習室の都合上、人数の制限を設ける場合がある。その場合、教職履修者を優先的に受け入れる。

この授業は、単に料理を作って食べるだけの授業ではない。確かな調理技術・理論の定着のために調理を科学的な側面からも捉えられるようになることを目指す。前期は調理法別にその特徴を学び、各調理法を使用した代表的な料理を実習する。また、家庭科教員として安全で科学的な調理実習が運営できる力を身につけることを目指す。教職課程以外の学生は家庭科教員養成のための調理実習でもあることを理解した上で履修登録すること。調理実習に使用する食品を購入するために、**実習費を別途徴収する**。(昨年度は前期 13,000 円。履修者数および使用食材により変動あり。) またグループでの調理を行う。欠席は技術の習得ができないだけでなく、他の班員にも迷惑がかかるため、基本的には**欠席 2 回まで**とする。3 回以上の欠席では別課題を課す。

■到達目標（学修成果）

- ①様々な食品を知り、食品を選択するポイント（鮮度や旬、栄養価など）と基本的な調理技術を身につける。
- ②美味しさを決めるポイントを理解し、安全かつ環境に配慮した調理、片づけができる。
- ③食事マナーや盛付、歴史など食の文化的な側面を理解し、説明・実践することができる。
- ④グループによる調理実習や実験を通して仲間とのコミュニケーション能力、協調性、責任感を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件は、専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。学位授与の方針については、「食物学（調理実習・実験）Ⅰ」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、衛生について、計量の仕方	復習：レシピノートの作成	60分
2回	包丁の種類、持ち方・切り方について、切り方の練習	復習：レシピノートの作成	60分
3回	出汁の取り方 鍋を使った炊飯、煮干出汁の取り方、簡単な和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
4回	出汁の取り方 かつお昆布だしの取り方、鍋を使った炊き込み飯について	復習：レシピノートの作成	60分
5回	茹でる（野菜） 緑黄色野菜のゆで方、これまでの調理法で和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
6回	炒める、寄せる 小麦粉を使用したルウの作り方、ゼラチンの扱い方	復習：レシピノートの作成	60分
7回	煮る 野菜の煮方の注意点	復習：レシピノートの作成	60分
8回	揚げる 揚げ物の注意点と衣の種類とその役割	復習：レシピノートの作成	60分
9回	焼く（肉） 肉の扱い方（筋切りについて）	復習：レシピノートの作成	60分
10回	焼く（ひき肉） ひき肉の扱い方、これまでの調理法で洋風献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
11回	焼く（魚） 切り身魚の扱い方	復習：レシピノートの作成	60分
12回	煮る これまでの調理法を用いた和食献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
13回	炒める これまでの調理法を用いた中華献立をつくる	復習：レシピノートの作成	60分
14回	蒸す さまざまな器具を用いた蒸し方とその特徴	復習：レシピノートの作成	60分
15回	筆記試験 簡単な調理と実習室の清掃	復習：レシピノートの作成	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出されたレポートは授業内で添削し返却。レシピノートは指定日に調理実習室に来室の上、返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	*授業内で作った料理について、レシピノートを作成し提出する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 毎回プリントを配布する。

■参考文献

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）、高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著）
「調理学実習-基礎から応用」 編著者 高橋敦子/安原安代/松田康子 女子栄養大学出版（3,300円）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。 調理研究室：第3校舎 3002 調理実習室内

■備考 なし

食物学（調理実習・実験）Ⅱ

山田 奈緒子

3年 後期 選択 教職課程必修 (1単位 実験・実習)

■授業の方針・概要

実習室の都合上、人数の制限を設ける場合がある。その場合、教職履修者を優先的に受け入れる。

前期開講の調理実習・実験Ⅰの内容を発展させた内容である。半期で調理技術が格段に向上するため、実習のレベルについていけるよう、この授業からの履修ではなく調理実習・実験Ⅰを履修してほしい。前期に学んだ基本的な調理技術と知識を応用して、和・洋・中華献立や和・洋菓子、行事食に挑戦する。また教職課程履修者は教育実習で調理実習を担当する場合もあることを念頭に、調理指導に必要なスキルを実践的に学ぶ必要がある。そのため学生が教員役となり切り方など簡単な示範を行うことで、必要な能力や態度を養う。教職課程以外の学生は授業の方針を理解したうえで履修すること。また、調理実習に使用する食品を購入するために、**実習費を徴収**する。(昨年度は後期 13,000 円。履修者数および使用食材により変動あり。)またグループで調理を行う。欠席は技術の習得ができないだけでなく、他の班員にも迷惑がかかるため、基本的には**欠席 2 回までとする**。3 回以上の欠席については別課題を課す。

■到達目標（学修成果）

- ①前期に身に付けた調理技術・知識をさらに高める。
- ②身に付けた調理技術、知識をもとに条件に合った調理の計画・実施ができる。
- ③家庭科教員として調理実習を運営するための基礎的な力を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件については、専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許取得のための教職課程必修科目である。学位授与の方針については、「食物学（実践栄養学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	乾物を使った料理① さまざまな乾物の種類とその扱い方について	復習：レシピノートの作成	60分
2回	乾物を使った料理② さまざまな乾物の種類とその扱い方について、前期の復習	復習：レシピノートの作成	60分
3回	課題作成① 実技試験にむけて、厚焼き卵の練習をする	復習：レシピノートの作成、 厚焼き卵の調理レポートの作成	60分
4回	和食献立① 鰯の手開きの練習、和食献立に仕上げる	復習：レシピノートの作成、	60分
5回	洋食献立 小麦粉の調理特性を理解し、ホワイトソースについて学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
6回	小麦粉の調理性① 小麦粉の特性を活かしてピザをつくる	復習：レシピノートの作成	60分
7回	和菓子 練り切りを中心に、和菓子の作り方や特徴を学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
8回	和食献立② 鯨の三枚おろしの練習、和食献立に仕上げる	復習：レシピノートの作成	60分
9回	シュガークラフト シュガークラフトの技術でデコレーションを学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
10回	中華献立 春巻きを中心に、揚げ物の特性を学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
11回	パーティー献 班で話し合い、デコレーションについて学ぶ	復習：レシピノートの作成	60分
12回	正月料理 代表的なおせち料理について	復習：レシピノートの作成	60分
13回	小麦粉の調理性② 小麦粉の特性を活かしてうどんをこねる	復習：レシピノートの作成	60分
14回	課題作成② 実技試験にむけて、厚焼き卵の練習をする	復習：レシピノートの作成 厚焼き卵の調理レポートの作成	60分
15回	筆記・実技試験および清掃	復習：レシピノートの作成	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出されたレシピノートは指定日に来室の上、添削し返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	*授業内で作った料理について、レシピノートを作成し提出する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 毎回授業でプリントを配布する

■参考文献

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）、高等学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省（著）
「調理学実習-基礎から応用」 編著者 高橋敦子/安原安代/松田康子 女子栄養大学出版（3,300円）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。調理研究室：第3校舎3002調理実習室内

■備考 なし

言語と服飾文化

北澤 茉奈・安部 智子

3年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

服飾文化に関する題材を英語で読むことにより、その知識を深めるとともに、英文で書かれた内容を素早く正確に理解するための練習をします。内容は、1940～1950年代のパリ・オートクチュール (Christian Dior と Cristobal Balenciaga) についてのアカデミックな英語 (解説文) を扱い、語学としての英語と服飾文化の両方にフォーカスします。授業は、学生それぞれの英文解釈に対するフィードバックおよび解説、服飾に関する講義の形式で進めます。英文解釈は授業内に提出し、プロジェクターに投影する形で皆に共有します。授業毎に復習テストを実施し、前回内容と関連させながら新たな範囲を読み解いていきます。

■到達目標 (学修成果)

1. 英語で書かれた文章の構造を理解し、求められた情報を素早く見つけ正確に理解することができるようになる、2. 辞書や検索の結果から得た情報を自分の言葉でまとめ発信することができるようになる、3. パリ・オートクチュールについての知識を増やす、の3点です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目 (国際関係)・選択科目です。教養選択科目 (一般・体育・国際関係) 16単位は卒業要件です。教養科目としての言語と服飾文化は、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。復習：授業のタスクについて流れを整理する。	30-60分
2回	ディオールとバレンシアガについて	予習：テキストに目を通す。復習：復習テストに備える。	30-60分
3回	ディオールの生い立ちとデザイナーとしての初期	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
4回	バレンシアガの生い立ちとデザイナーとしての初期	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
5回	ディオールの性格・信念・デザインへのアプローチ	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
6回	バレンシアガの性格・信念・デザインへのアプローチ	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
7回	ディオールとバレンシアガのデザイン・スピリット	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
8回	ディオールとバレンシアガの制作プロセス	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
9回	バレンシアガのカッティングと構造	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
10回	ディオールのカッティングと構造	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
11回	バレンシアガのフォルム	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
12回	ディオールとバレンシアガの代表的ライン	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
13回	ディオールとバレンシアガのディテール	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る。	30-60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る。	30-60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

復習テスト、英文解釈は授業内で採点・解説を行います。まとめのテストは採点し返却を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	復習テスト、授業内課題 (英文解釈) の提出
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 Claire Wilcox 編 The Golden Age of Couture: Paris and London 1947-57 (V&A Publications)より

第6章 Dior and Balenciaga: A Different Approach to the Body (pp. 138-154)

■参考文献 必要があれば指示します。

■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：英語研究室 (研究棟3階 6034)・服飾造形研究室 (研究棟3階 6033)

オフィスアワー：第1回目の授業で提示します。

■備考 テキストは、大型本のためコピーを用意します。

日本文化・日本事情Ⅰ

伊藤 高広

3年 前期 選択 留学生対象 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業です。
日本人とコミュニケーションをとるために必要な、日本の生活・習慣を紹介していきます。
教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解きます。
日本語検定対策の一助とします。

■到達目標（学修成果）

日本的な感性・考え方を理解することができるようになる。生活の中で日本の文化に親しむ。
日本の衣食住に関わる語彙を知る。伝統文化に親しむ。現代日本文化を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

外国人留学生の卒業要件科目で、教養必修科目です。
社会・文化の相互理解に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の方針・概要 必要に応じて日本文化を紹介する文章を書いて発表する等のアクティブラーニングを実施する	シラバスを読んでおく（予習）	30分
2回	日本の生活 災害から身を守る	資料を確認する（復習）web等を通じて資料を取得する。	30分
3回	日本の生活 衣食住① 服飾の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
4回	日本の生活 衣食住② 服飾の語彙	覚えた言葉を使ってクラスの日本人とコミュニケーションをとる。（復習）	90分
5回	日本の生活 衣食住③ 住居の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
6回	日本の生活 衣食住④ 住居の語彙	覚えた言葉を使って地域の日本人とコミュニケーションをとる。（復習）	90分
7回	日本の生活 衣食住⑤ 食物の語彙	語彙を増やすための勉強をする。（復習）	90分
8回	日本の生活 衣食住⑥ 食物の語彙	覚えた言葉を生活の場面で使う。（復習）	90分
9回	日本の文化 伝統文化① 和服	機会を設けて実物に触れてみる。（復習）	90分
10回	日本の文化 伝統文化② 芸能	機会を設けて実演を鑑賞する。または映像を鑑賞する。（復習）	90分
11回	日本の文化 伝統文化③ 文物	博物館等に行ってみる。（復習）	90分
12回	日本の文化 現代文化①	Webなどで情報を収集し整理する（復習）	90分
13回	日本の文化 現代文化②	イベントなどに積極的に参加する。（復習）	90分
14回	日本の文化 現代文化③	文化活動を通じて日本人と交流を深める。（復習）	120分
15回	まとめ	ひきつづき語彙力を高めるように勉強する。（復習）	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回ごとに課題を添削します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	20%

■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

■参考文献

必要に応じて指示する

■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する

文章表現研究室（研究棟1階）

■備考 特になし

日本文化・日本事情Ⅱ

伊藤 高広

3年 後期 選択 留学生対象 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本学留学生が、日本の習慣と文化に慣れ、日本の社会を理解するための授業です。
日本文化・日本事情Ⅰにひきつづき、教材として新聞や雑誌などを用いて、現在の日本の情報を読み解きます。
時宜に応じた話題を選んで読んでいくので、授業内容は大体の目安です。

■到達目標（学修成果）

日本的な感性・考え方を理解することができるようになる。生活の中で日本の文化に親しむ。
日本の衣食住に関わる語彙を知る。伝統文化に親しむ。現代日本文化を知る。
2年次以降の授業に必要な、レポート・ポートフォリオの書き方を身につけます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

外国人留学生の卒業要件科目で、教養必修科目です。
社会・文化の相互理解に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の方針・概要 必要に応じて日本文化を紹介する文章を書いて発表する等のアクティブラーニングを実施する	シラバスを読んでおく（予習）	30分
2回	新聞・雑誌を読む	イベント等を紹介する記事を読んでみる	60分
3回	新聞・雑誌を読む	服飾に関連する記事を読んでみる	60分
4回	実用文を読む	日常生活に関わる説明を読んでみる	60分
5回	実用文を読む	通信販売等に関する説明を読んでみる	60分
6回	文芸作品を読む	語彙を増やすための勉強をする	60分
7回	文芸作品を読む	語彙を増やすための勉強をする	60分
8回	新聞・雑誌を読む	ニュースを読んでみる	60分
9回	新聞・雑誌を読む	社説を読んでみる	60分
10回	日本文化に親しむ（言葉遊び・文字遊び）	お祭りやイベントなどに行ってみる	60分
11回	日本文化に親しむ（言葉遊び・文字遊び）	お祭りやイベントなどに行ったみる	60分
12回	レポート・ポートフォリオを作成する（日本文化を紹介する）	興味を持った分野の資料を収集する	60分
13回	レポート・ポートフォリオを作成する	資料を収集し分類する	60分
14回	レポート・ポートフォリオを作成する	資料を収集し考察を深める	60分
15回	まとめ	ひきつづき日本語力を高めるように勉強する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回ごとに課題を添削します

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	20%

■教科書

必要に応じて資料を配布する。必要に応じて博物館・独立行政法人等が提供している教育・研究リソースの動画等を参照する。

■参考文献

必要に応じて指示する

■オフィスアワー・研究室

最初の授業時に指示する
文章表現研究室（研究棟1階）

■備考 特になし

日本語Ⅰ

伊藤 高広

3年 前期 選択 留学生対象 (4単位 講義)

■授業の方針・概要

大学で学ぶために必要な日本語力を習得する。日本語Ⅰでは聞く活動を中心にした授業を行うが、書く、読む、話すなどの活動も行い総合的な日本語能力の向上を目指す。

■到達目標（学修成果）

講義や研究発表などを聞く力を養成する。聞いたことをまとめ、要約が書けるようになる。資料を見て必要な情報が短時間で得られるようになる。内容について自分の経験や意見を述べるができるようになる。大学で学ぶための語彙を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の中の外国語選択必修科目です。この科目は留学生対象のクラスで卒業認定科目です。教養科目の日本語は国際人としての能力を養い、幅広い教養を身につけ豊かな感性、表現力を涵養することを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス（自己紹介、授業内容の説明）	語彙レッスン1の漢字の読み、意味の確認	60分
2回	内容を聞き大意、概要を聞き取る。語彙レッスン1の解説、問題。	語彙レッスン2の漢字の読み、意味の確認	60分
3回	内容を聞き大意、概要を聞き取る。語彙レッスン2の解説、問題。語彙レッスン1まとめ。	語彙レッスン3の漢字の読み、意味の確認	60分
4回	未習語を全体から類推して内容を聞き取る。語彙レッスン3の解説、問題。語彙レッスン2まとめ。	語彙レッスン4の漢字の読み、意味の確認	60分
5回	未習語を全体から類推して内容を聞き取る。語彙レッスン4の解説、問題。語彙レッスン3まとめ。	語彙レッスン5の漢字の読み、意味の確認	60分
6回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン5の解説、問題。語彙レッスン4まとめ。	語彙レッスン6の漢字の読み、意味の確認	60分
7回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン6の解説、問題。語彙レッスン5まとめ。	語彙レッスン7の漢字の読み、意味の確認	60分
8回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン7の解説、問題。語彙レッスン6まとめ。	語彙レッスン8の漢字の読み、意味の確認	60分
9回	「問題提起、本題、まとめ」を意識して内容を聞き取る。語彙レッスン8の解説、問題。語彙レッスン7まとめ。	語彙レッスン9の漢字の読み、意味の確認	60分
10回	定義を聞き取る。語彙レッスン9の解説、問題。語彙レッスン8まとめ。	語彙レッスン10の漢字の読み、意味の確認	60分
11回	接続表現から内容の展開を意識しながら聞き取る。語彙レッスン10の解説、問題。語彙レッスン9まとめ。	語彙レッスン11の漢字の読み、意味の確認	60分
12回	説明を聞き取る。語彙レッスン11の解説、問題。語彙レッスン10まとめ。	語彙レッスン12の漢字の読み、意味の確認	60分
13回	説明の部分と意見の部分に分けて聞き取る。語彙レッスン12の解説、問題。語彙レッスン11まとめ。	語彙レッスン13の漢字の読み、意味の確認	60分
14回	説明の部分と意見の部分に分けて聞き取る。語彙レッスン13の解説、問題。語彙レッスン12まとめ。	語彙レッスン14の漢字の読み、意味の確認	60分
15回	例と問題提起の部分とを区別して聞き取る。語彙レッスン14の解説、問題。語彙レッスン13まとめ。	語彙レッスン15の漢字の読み、意味の確認	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

通常の授業内で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて配布します。

■参考文献

必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

授業開始時に曜日、時間を伝えます。第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

■備考

準備学修を課題として提出してください。練習作文を課題とすることがあります。

日本語Ⅱ

伊藤 高広

3年 後期 選択 留学生対象 (4単位 講義)

■授業の方針・概要

日本語Ⅰに引き続き、大学で学ぶために必要な日本語力を習得する。日本語Ⅱではレポートや論文を書くために必要な文章表現の技術の向上を目指す。文章表現に必要な語彙力や文型、読解力の養成も合わせて行う。

■到達目標（学修成果）

話し言葉と書き言葉を使い分けることができる、レポートや論文に合う文体、文型、語彙を使って文章を書くことができる、文章の構成を考えて文章を書けるようになるなどレポートや論文を書くための日本語力を習得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目の中の外国語選択必修科目です。この科目は留学生対象のクラスで卒業認定科目です。教養科目の日本語は国際人としての能力を養い、幅広い教養を身につけ豊かな感性、表現力を涵養することを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	原稿用紙の使い方、表記のしかた 語彙レッスン15の解説、問題。語彙レッスン14まとめ。	語彙レッスン16の漢字の読み、意味の確認	60分
2回	簡潔な文で質問に答える文章が書けるようにする。 語彙レッスン16の解説、問題。語彙レッスン15まとめ。	語彙レッスン17の漢字の読み、意味の確認	60分
3回	読み取った情報を伝える文が書けるようにする。 語彙レッスン17の解説、問題。語彙レッスン16まとめ。	語彙レッスン18の漢字の読み、意味の確認	60分
4回	状況を説明し、意見を述べる文章が書けるようにする。 語彙レッスン18の解説、問題。語彙レッスン17まとめ。	語彙レッスン19の漢字の読み、意味の確認	60分
5回	段落のある文章が書けるようにする。 語彙レッスン19の解説、問題。語彙レッスン18まとめ。	語彙レッスン20の漢字の読み、意味の確認	60分
6回	体験したことを報告する文が書けるようにする。 語彙レッスン20の解説、問題。語彙レッスン19まとめ。	語彙復習問題（レッスン1～5）	60分
7回	テーマに沿った意見文を書けるようにする。 語彙レッスン20まとめ。	語彙復習問題（レッスン6～10）	60分
8回	テーマに沿った意見文を書けるようにする。 語彙レッスン1～5まとめ。	語彙復習問題（レッスン11～15）	60分
9回	自己紹介文が書けるようにする。 語彙レッスン6～10まとめ。	語彙復習問題（レッスン6～20）	60分
10回	自己紹介文が書けるようにする。 語彙レッスン11～15まとめ。	文型練習問題	60分
11回	要約文が書けるようにする。 語彙レッスン16～20まとめ。	文型練習問題	60分
12回	要約文をかけるようにする。	文型練習問題	60分
13回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分
14回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分
15回	レポートが書けるようにする。	文型練習問題	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

通常の授業内で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて配布します。

■参考文献

必要に応じて提示します。

■オフィスアワー・研究室

授業開始時に曜日、時間を伝えます。第3校舎講師控え室（第3校舎1階）

■備考

準備学修を課題として提出してください。練習作文を課題とすることがあります。

特別活動の指導法

今泉 朝雄

3年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

学校教育とは単に教科授業だけではなく、学級活動、生徒会活動、運動会や修学旅行などの各学校行事など教科外の集団的な特別活動も重要な教育内容に含まれる。本講義では特別活動の位置付け、目標、意義、内容、方法に関する基礎的な理解を深め、その実践的な計画力、指導力を身に付けることを目指す。講義だけではなく、様々な集団活動の実践も採り入れる。

■到達目標（学修成果）

- ・特別活動に関する基本的知識を実践に活用できるようになる。
- ・学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動の指導の計画、実践指導ができるようになる。
- ・生徒自治や生徒の主体的な活動の教育的意義について自身なりの考え方を提示できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教職課程履修者必修科目であり、卒業要件科目ではない。ただし、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となるものである。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 本時の概要／特別活動の定義について	予習：過去の特別活動を振り返る 復習：特別活動の定義を整理	計2時間
2回	特別活動の教育的意義 教科との比較において検討する	予習：過去の教育経験を検討 復習：本時の内容を整理する	計2時間
3回	特別活動の歴史と学習指導要領の位置付け 歴史を踏まえ、学習指導要領の位置づけを理解する	予習：日本の近代史を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
4回	学校集団の基礎理論 同調圧力の理論をもとに、望ましい集団の有り様を検討する	予習：学級の経験を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
5回	教育的集団をどう構成するか 事例から、学級集団の形成について理解する	予習：過去の学級経営を振り返る 復習：学級の集団形成方法を整理する	計2時間
6回	学級活動とは何か 学習指導要領から目標・内容・計画・評価について理解する	予習：学級活動の内容を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
7回	話し合い活動の方法1 実際に話し合い活動を行う	予習：学校の話し合いを振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
8回	話し合い活動の方法2 話し合いの指導方法を理解する	予習：前回の取組の問題点を検討する 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
9回	学校行事の指導方法 学習指導要領から目標内容・計画・評価について理解する	予習：修学旅行の意義を検討する 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
10回	生徒会活動の指導方法 学習指導要領から目標内容・計画・評価について理解する	予習：過去の生徒会の経験を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
11回	生徒自治と教育 事例から生徒自治のあり方について考える	予習：事例について予め検討する 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
12回	特別活動と学外組織との連携 学外連携の意義とその方法について理解する	予習：校外での取組の大変さを考える 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
13回	部活動とは何か 課外活動としての問題点について考える	予習：自身の部活動を振り返る 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
14回	部活動の指導方法 担当を一つ設定し、具体的に検討する	予習：活動計画を検討する 復習：教科書当該箇所を読み整理する	計2時間
15回	これまでの総復習 本時の内容が教員にとってどんな意義があるのかを考える	予習：レポートに向けた作業を行う 復習：これまでの内容をまとめる	計2時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題については、返却後授業内において解説する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

刊行日未定のため、授業内で提示する。

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』2017年

■オフィスアワー・研究室

授業後30分程度。あらかじめご連絡下さい。

■備考

なし

教育方法論

白井 勝美

3年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

マイクロティーチングを通して、教育の方法・技術について理論的又は実践的に分析・考察し、授業者としての授業設計と授業運営していくための基礎知識・方法を身に付ける。**授業形態はすべて Active Learning である。**

■到達目標 (学修成果)

- ①指導案の基礎を知り、授業略案を作成できるようになる。
- ②実際に授業を実施することで、授業準備の大切さがわかる。授業に必要な発声力、視線力等計 16 項目の授業技術について考察し、必要な技術が身につく。
- ③授業後の視点表によって生徒役の意見を聞き取り、今後の課題が発見できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション マイクロティーチング実施順番の確定 実施方法の確認 モデル授業の見学等	復習：各自のマイクロに向けて準備を開始する。	30分
2回	教科教育法基礎 (2年) ミニマイクロの成果確認 (語法・板書等) Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
3回	マイクロ計画表について (学習指導案作成の基礎を知る) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
4回	マイクロの実施 (視線と発声に焦点をあてる) (基礎的技術を考える) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
5回	マイクロの実施 (教材プリント作成について考える) (情報機器での作成を考える) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
6回	マイクロの実施 (話し方と言葉遣いに焦点をあてる) (授業技術の基礎を考える①) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
7回	マイクロの実施 (情報機器を使用した情報活用能力に焦点をあてる)) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
8回	マイクロの実施 (視点表を使用して学習評価について考える) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
9回	マイクロの実施 (アクティブラーニングに焦点をあてる) (主体的学びとは何か考える) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
10回	マイクロの実施 (発問に焦点をあてる) (授業技術の基礎を考える②) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
11回	マイクロの実施 (シナリオに焦点をあてる) (授業技術の基礎を考える③) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
12回	マイクロの実施 (生徒の反応に焦点をあてる) (授業技術の基礎を考える④) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
13回	マイクロの実施 (アクティブラーニングに焦点をあてる) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
14回	教育方法のまとめ (チャート・カード等教材研究に焦点をあてる) Active Learning	復習：前回マイクロコメントの復習 予習：マイクロに向けての準備を行なう	30分
15回	まとめ (後期の教科教育法 (家庭) と教壇模擬演習へ向けての解説と指導)	復習：授業資料の総復習を行なう	30分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

各授業時に授業方法ポイントについてコメントと解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
日常課題	70%

- ①授業姿勢 (欠席・遅刻も含む) ②日常課題を重要視する (授業計画書 マイクロ授業用教材 マイクロ授業実施 マイクロ授業報告書 生徒役活動 コメント活動 生徒役視点表 等) ③その他追加については授業時に指示する。

■教科書

担当者がプリント資料を準備する。

■参考文献

授業時に適宜指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日 (11時00分～14時00分) 教務課

後期 水曜日 (11時00分～14時00分) 教務課

研究室 教育実習研究室 (研究棟 4階)

■備考 マイクロ用の計画表は、実施前日までに教務課に提出してください。

家庭科教育法（基礎）

鈴木 麻理絵

3年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

教員免許状取得のための教職課程必修科目であることを主眼に、家庭科教員として必要な資質・能力を高めることを目的としている。また、家庭科授業担当者の教育現場における実務経験を活かし、現状を把握して対処方法等を探る。

■到達目標（学修成果）

家庭科の目標および内容を踏まえ、年間指導計画の立案の仕方、学習指導案の作成の仕方の基礎を学び、作成できるようになる。また、効果的な教材についても知識を得る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション ・家庭科の歴史	予習：どのような家庭科教育を受けてきたかを思い出しておく。	30分
2回	家庭科教育法とは	復習：授業資料を読み返す。	30分
3回	学習指導要領（小学校）	復習：小学校の学習指導要領についてレポートをまとめる。	60分
4回	学習指導要領（中学校）	復習：中学校の学習指導要領についてレポートをまとめる。	30分
5回	学習指導要領（高等学校）	復習：高等学校の学習指導要領についてレポートをまとめる。	60分
6回	学習指導方法の要点1	復習：学習指導方法についてレポートをまとめる。	30分
7回	学習指導方法の要点2、小テスト	復習：学習指導方法をまとめた資料を読み返す。	30分
8回	年間指導計画の立案1 小テストの返却と解説	復習：配布資料を振り返る。	30分
9回	年間指導計画の立案2（中学校）グループディスカッション	復習：中学校の指導計画についてレポートをまとめる。	60分
10回	年間指導計画の立案3（高等学校）グループディスカッション	復習：高等学校の指導計画についてレポートをまとめる。	60分
11回	効果的な教材の立案・作成（グループワーク）	予習：効果的な教材を調べて来る。	30分
12回	学習指導案の立案1	復習：学習指導案の立案方法を振り返る。	30分
13回	学習指導案の立案2（中学校）	復習：学習指導案（中学校）をまとめる。	60分
14回	学習指導案のまとめ、課題提出と小テスト グループディスカッション	復習：他者の学習指導案を参考にし、レポートをまとめる。	30分
15回	家庭科教育法・学習指導要領のまとめ、課題と小テストのフィードバック	復習：試験問題を振り返る。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

8回目と15回目に課題・小テストの返却と解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

授業姿勢（欠席・遅刻も含む）・日常課題を重要視する。

■教科書

- ・中学校 『新編 新しい技術・家庭（家庭分野）』東京書籍
- ・高等学校『家庭総合 自立・共生・創造』東京書籍
- ・佐藤文子・川上雅子『家庭科教育法』高陵社書店

■参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領 最新版 解説 技術・家庭編』
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領 最新版 解説 家庭編』

■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 なし

総合的な学習の時間の指導法

今泉 朝雄

3年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

学校教育における重要な教育活動である総合的な学習の時間について、教育課程上の位置づけや教育的意義、計画や指導の方法等について学習する。また、それら基礎的知識をもとに、主体的・対話的で深い学びを基盤とした探究的な学習に関わる計画、指導の実践的な資質・能力を身につける。

■到達目標（学修成果）

- ・総合的な学習の教育的意義、教育課程における位置付け、特徴、学習指導要領における目標、内容について説明できる。
- ・総合的な学習の年間指導計画、指導方法、評価方法を実践的な視点から構成することができる。
- ・総合的な学習を中心として主体的・鄭和的深い学びを実現できる教育課程、及びその単元を構成することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教職課程履修者必修科目であり、卒業要件科目ではない。ただし、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となるものである。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 本時の概要について	予習：教科書の目次を確認する 復習：本時全体計画の概要を整理する	計2時間
2回	総合的な学習とは何か 自身の過去の経験を振り返り考える	予習：過去の経験を考える 復習：本時の内容を整理する	計2時間
3回	歴史からみる総合的な学習の理論的背景 ジョン・デューイの理論等を踏まえ、その意義を理解する。	予習：総合学習の意味を調べる 復習：総合の指導理論の基礎を整理	計2時間
4回	学習指導要領における総合的な学習 学習指導要領からその位置付けを理解する	予習：学習指導要領を読んでおく 復習：その位置付けを整理する	計2時間
5回	総合的な学習の全体計画 総合的な学習の全体計画、年間指導計画の考え方を理解する	予習：全体計画の事例を探す 復習：全体計画の事例を分析する	計2時間
6回	総合的な学習における探究と主体的対話的深い学び 中心的取り組みである「探究」の基本的考え方を理解する	予習：探究の意味を自身なりに調べる 復習：本時の内容について整理する	計2時間
7回	探究と問い 「探究」を深めるための問いの立て方を理解する	予習：探究を取り組む課題を考える 復習：課題について問いを立ててみる	計2時間
8回	多面的多角的探究の方法 多様な視点から分析する方法について実践する	予習：多面的多角的、の意味を調査 復習：課題を多面的多角的に検討	計2時間
9回	情報収集、整理の方法 探究における情報収集の方法について検討する。	予習：探究について情報を探索 復習：情報を整理し発表を検討	計2時間
10回	総合的な学習における協働学習の意味と方法 総合的な学習における協働学習について理解する	予習：教科書該当箇所を読んでおく 復習：協働の意義について整理する	計2時間
11回	総合的な学習の事例分析 実際の総合的な学習の指導事例について分析する	予習：自身が事例を検索する 復習：分析結果をまとめる	計2時間
12回	総合的な学習の評価方法 総合的な学習の評価方法について理解する	予習：教育評価の意味を調べる 復習：総合的な学習の評価の特徴整理	計2時間
13回	学生による探究の発表1 学生の行った探究活動を発表し討論する	予習：発表について準備 復習：各発表内容を分析、評価する	計2時間
14回	学生による探究の発表2 学生の行った探究活動を発表し討論する	予習：発表について準備 復習：各発表内容を分析、評価する	計2時間
15回	これまでの総復習／取り組みへのフィードバック 本科目が教員にとってどんな意義があるのかを考える	予習：過去の活動の意味を検討 復習：本時全体の内容を整理する	計2時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題については、授業内、またはManaba folioにおいて解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

刊行日未定のため、授業内で提示する。

■参考文献

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』2017年

■オフィスアワー・研究室

授業後30分程度。あらかじめご連絡下さい。

■備考

なし

家庭科教育法

鈴木 麻理絵・北折 貴子

3年 後期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

教員免許状取得のための教職課程必修科目であることを主眼に、家庭科教員として必要な資質・能力を高めることを目的としている。また、授業担当者の教育現場における実務経験を活かし、現状を把握して対処方法等を探る。

■到達目標（学修成果）

中学校・高等学校家庭科の目標および内容を踏まえ、高等学校学習指導案・試験問題を作成し、効果的な教材を用いて授業を行う力量を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	学習指導案の立案1	復習：学習指導案の立案方法を振り返る。	30分
2回	学習指導案の立案2（高等学校）	復習：学習指導案（高等学校）についてレポートをまとめる。	60分
3回	学習指導案の立案3（高等学校）	復習：学習指導案（高等学校）についてレポートをまとめる。	60分
4回	学習指導案のまとめ・小テスト グループディスカッション	復習：他者の学習指導案を参考にし、まとめる。	30分
5回	評価方法1 小テストの解説	復習：教科書をまとめる。	30分
6回	評価方法2	復習：教科書をまとめる。	30分
7回	評価方法実践 グループディスカッション	復習：テスト問題を作成する。	60分
8回	効果的な教材の立案・作成1	予習：効果的な教材を調べて来る。	30分
9回	効果的な教材の立案・作成2	予習：効果的な教材を調べて来る。	30分
10回	効果的な教材の立案・作成3	予習：効果的な教材を調べて来る。	30分
11回	実技指導のための教材作成1	復習：実技指導での注意点をまとめる。	30分
12回	実技指導のための教材作成2	復習：実技指導での注意点をまとめる。	30分
13回	実技指導のための教材作成3	復習：実技指導での注意点についてレポートをまとめる。	30分
14回	実技指導のための教材作成4 8～14回のまとめと小テスト	復習：実技指導での注意点をまとめる。	30分
15回	まとめ 課題（試験やレポート等）フィードバックを行う	復習：試験（学習指導案）を見直す。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

5回と15回に課題についての解説と小テストを返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業姿勢（欠席・遅刻も含む）・日常課題を重要視する。
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

- ・中学校『新編 新しい技術・家庭科（家庭分野）』東京書籍
- ・高等学校『家庭総合 自立・共生・創造』東京書籍
- ・佐藤文子・川上雅子『家庭科教育法』高陵社書店

■参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領 最新版 解説 技術・家庭編』
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領 最新版 解説 家庭編』

■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 なし

教科教育法（家庭）

白井 勝美

3年 後期 教職課程必修 (3単位 講義・演習)

■授業の方針・概要

教育実践の現場で通用する実際的な教授技能（授業設計・授業技術）を身に付ける。なお、2月に「特別授業・教壇模擬演習」プログラムを実施し、現職の家庭科教諭の指導を受ける。**授業形態はすべて Active Learning である。**

■到達目標（学修成果）

- ①指導案の基礎がわかり、授業略案が作成できるようになる。
- ②実際に授業を実施することで、授業準備の大切さがわかる。授業に必要な発声力、視線力等視点表で取り上げる16項目の授業技術が身につく。
- ③授業後の視点表によって、生徒役の意見を聞き取り今後の課題が発見できる。
- ④授業中に学校教育現場で起こりうる状況を意図的に作り出し（地震が起こるなどのサプライズ）、意見交換によってその対応を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容（目標・テーマは、回を横断する。）	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	① 学習指導要領における教科の目標・内容を知る。 ②マイクロ準備	復習：各自のマイクロに向けて準備を開始する。	60分
2回	①準備他 ②家庭科マイクロ（教科の目標と内容確認を意識する。） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
3回	①準備他 ②家庭科マイクロ（学習内容の指導上の留意点を知る。・学習評価①を意識する。） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
4回	①準備他 ②家庭科マイクロ（ICT教材の有効性について知る。・学習評価②を意識する。） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
5回	①準備他 ②家庭科マイクロ（学習指導法を工夫する。・教材研究①の仕方を知る。） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
6回	①準備他 ②家庭科マイクロ（授業設計①について考える。・教材研究②の仕方を知る。） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
7回	①準備他 ②家庭科マイクロ（教壇模擬授業準備を開始する。・授業設計②・学習指導案について考える。） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
8回	①準備他 ②家庭科マイクロ（「生徒役視点表」を活用し技術を考察する。） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
9回	①準備他 ②家庭科マイクロ（優れた実践研究を紹介する。） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
10回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「地震が発生他」） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
11回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「携帯が鳴る」他） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
12回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「生徒が反抗」他） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
13回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「突然教室退出」他） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
14回	①準備他 ②家庭科マイクロ（サプライズ「生徒が寝る」他） Active Learning	復習：授業資料の確認 予習：担当者はマイクロに向けての準備	60分
15回	①準備他 ②最終レポートの提出 ③教壇模擬演習に向けての最終準備を行なう。	予習：模擬授業に向けての準備を行う。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

最終授業時に評価ポイントについて解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
日常課題	70%

- ①授業姿勢（欠席・遅刻も含む） ②日常課題を重要視する（授業計画書 マイクロ授業用教材 マイクロ授業実施 マイクロ授業報告書 生徒役活動 コメント活動 生徒役視点表 等） ③その他追加については授業時に指示する

■教科書

授業時にプリントを配付する。

■参考文献

必要に応じて適宜指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日（11時00分～14時00分 教務課）研究室 教育実習研究室（研究棟4階）

■備考①マイクロ用の計画表は、実施前日までに教務課に提出してください。

- ②2月にこの「教科教育法（家庭）」の中で、集中授業として「特別授業・教壇模擬授業」を実施する。12月から準備を開始する。詳細は、11月第1週の授業時に説明する。

教育法規

白井 勝美

3年 後期 教職課程 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

具体的に重要教育関連法規を一つ一つ確認して行く。それによって、教育制度の中で「学校」「教育」がどのような位置づけをされているか見えてくる。

特に、教員採用試験受験を考えている学生には必ず受講してほしい。4年次の「白井ゼミ」履修予定者はこの科目履修を条件とする。

■到達目標（学修成果）

①「教育基本法」のキーワードをすべて暗誦できるようになる。

②「学校教育法」「学校教育法施行規則」「学校保健安全法」「地方公務員法」「教育職員特例法」等の重要ワード約250ヶ所の穴埋めを完成できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者の選択科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画 全授業を通して、知識の確認活動として Active Learning を実施する

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	①オリエン ②日本国憲法 ・全体目標・一般目標の確認	復習：日本国憲法と教育基本法に関する要求項目の復習	30分
2回	①日本国憲法 ②教育基本法（公教育の原理及び理念を理解する。）	予習：前回の内容の復習 復習：日本国憲法と教育基本法重要事項	30分
3回	①教育基本法 ②学校教育法（教育行政の仕組みを知る。）	予習：前回の内容の復習 復習：教育基本法 前文・1条から5条	30分
4回	①教育基本法 ②学校教育法（中央教育審議会の答申も用いて近年の教育政策の動向を知る。）	予習：前回の内容の復習 復習：教育基本法 6条から18条	30分
5回	学校教育法（教育制度を知る。）	予習：前回の内容の復習 復習：学校教育法抽出条の復習	30分
6回	①これまでの復習 ②学校教育法施行令 ③学校教育法施行規則	予習：前回の内容の復習 復習：学校法施行規則・学校法施行令	30分
7回	①これまでの復習 ②学校保健安全法（安全管理の面から具体的な取組を理解する。）	予習：前回の内容の復習 復習：学校保健安全法	30分
8回	①これまでの復習 ②学校給食法 ③危機管理や学校安全に関する法規の確認をする	予習：前回の内容の復習 復習：学校給食法他の復習	30分
9回	教育公務員特例法（教育公務員としての使命等について知る。）	予習：前回の内容の復習 復習：教育職員特例法抽出条の復習	30分
10回	地方公務員法（公務員としての使命等について知る。）	予習：前回の内容の復習 復習：地方公務員法の復習	30分
11回	①これまでの復習 ②学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解する。	予習：前回の内容の復習 復習：これまでの復習	30分
12回	地方教育行政の組織に関する法律（教育委員会等について理解する。）	予習：前回の内容の復習 復習：地方教育行政の組織に関する法律	30分
13回	児童の権利条約（諸外国の教育事情や我が国の学校制度との違いを知る。）	予習：前回の内容の復習 復習：児童の権利条約の復習	30分
14回	いじめ防止対策推進法	復習：いじめ防止対策推進法の復習	60分以上
15回	まとめ	復習：試験に備えて全体を見直す。	60分以上

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

試験採点後に返却して、ポイントについて解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席回数、学習の取り組み（毎回小テスト）及び定期試験で評価する。）
日常課題	30%	
定期試験	40%	

■教科書

『教育小六法 2022』学陽社 を必ず購入すること。

この「教育小六法」をテキストとして使用します。

■参考文献

授業時に適宜指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日（11時00分～14時00分 教務課）

研究室 教育実習研究室（研究棟4階）

■備考

採用試験の準備を開始すること。以前配布した採用試験対策プリントを見直すこと。相談も受け付ける。

教育相談（カウンセリングを含む）

手島 陽介

3年 前期 教職課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

教育相談は、幼児、児童生徒が集団の中で適応する力を育み、個性や人格の成長を支援する教育活動である。発達に即して心理的特質や課題を捉え、支援に必要な基礎的知識を身につける。

■到達目標（学修成果）

教育相談の意義と理論を理解し、教育相談の具体的な進め方や、教育相談の基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的知識）を理解する。さらに、カウンセリングの技術が、教育現場や社会でどのように生かせるかを学んでいく。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、卒業要件科目ではなく、教員免許状取得のための教職課程必修科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	教育相談の意義と方法について－教育相談が教育現場で求められる意義－	予習：過去、自身が相談をして良かった体験、そうでない体験を探してくる	15分
2回	現代社会とメンタルヘルスを考える－教師に求められる臨床的視点－	復習：授業プリントから、なぜ教育場面に相談が必要なのか振り返る	30分
3回	幼児、児童及び生徒の問題行動と教育相談	復習：授業プリントを復習し、問題行動の事例について振り返り、対応方法を考える	30分
4回	支援体制と教育相談－チームとしての学校のあり方、支援のための体制づくり－	復習：授業プリント、教科書から、支援体制のあり方を復習する	30分
5回	教育相談の流れを概観する① 相談から問題解決までの流れについて	復習：教科書及びプリントを読み返し、相談の流れをイメージする	30分
6回	教育相談の流れを概観する② 他職種や専門機関、地域との連携について	復習：教科書及びプリントを読み返し、他職種や専門機関等をインターネットなどで調べる。	30分
7回	カウンセリングの基本的態度を学ぶ－受容、傾聴、共感、カウンセリングマインド－	復習：カウンセリングの基本的態度を復習し、関わり方を実践してみる	30分
8回	カウンセリングの主要な理論と技法①－精神分析、来談者中心療法、行動療法－	復習：教科書及びプリントを読み返し、心理療法の考え方を復習する	30分
9回	カウンセリングの主要な理論と技法②－認知行動療法、日本の心理療法－	復習：教科書及びプリントを読み返し、心理療法の考え方を復習する	30分
10回	教育相談の事例から学ぶ①－不適応事例と教育相談－	復習：授業で取り上げた事例について、自分なりの対応方法を考える	30分
11回	教育相談の事例から学ぶ②－保護者への支援と教育相談－	復習：授業で取り上げた事例について、自分なりの対応方法を考える	30分
12回	発達段階や発達課題に応じた教育相談について	復習：教科書、プリントを読み返す	30分
13回	予防的な取り組みと教育相談について	復習：教科書、プリントを読み返す	30分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習：配布資料、教科書を読み、復習する。	90分
15回	まとめ 課題や小テストのフィードバックを行う	復習：返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説とテストの返却をし、教育相談のまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

春日井敏之・伊藤美奈子編著、『よくわかる教育相談』、ミネルヴァ書房

その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00～15：00）研究室

後期：水曜日（12：00～15：00）研究室

【連絡研究室】心理学研究室（研究棟1階 6015）

■備考

毎時間、プリントと教科書を準備してください

博物館展示論

横山 昭一

3年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

展示は博物館への導入であると同時に、博物館の顔ともいえ、その良し悪しが集客力に大きくかかわってきます。今まで来館者として見ていた「博物館展示」を、学芸員の立場で創造していく皆さんに、長年地域博物館に学芸員として携わってきた実務経験を活かして、博物館展示の意義や歴史、実際の事例等を総合的に講義します。一人でも多くの観覧者を集客し、少しでも長く館に滞留して、興味や好奇心を起こさせる展示の開発や運営ができる学芸員の育成を目指します。

■到達目標（学修成果）

- ①博物館における展示の歴史、展示の諸形態から教育活動、展示メディアに関する理論や方法に関する知識・技術が習得できる。
- ②ユニバーサルデザインの考え方や展示評価を学び、照明理論やディスプレイ等の今日的課題を主体的に考えることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。博物館学芸員資格取得のための学芸員課程必修科目です。学芸員として必要な展示に関する理論や実践方法を学びながら、社会人としての幅広く深い教養と総合的な判断力の向上をめざします。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	博物館展示論のガイダンス ・展示に関するアンケート実施。 「あなたが考える良い博物館像」を各自発表。	予習:シラバスを読む。機会あるごとに多くの博物館施設の展示を見ておく。	60分
2回	展示の原則・理念 展示の基本要素、展示の原則を広義の展示を交えて学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
3回	展示の種類 博物館展示の命題や要件、博物館展示の種類を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
4回	展示と展示論の歴史 博物館展示論の研究の歴史を学ぶ。 小テスト	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
5回	常設展示と企画展示 館種や設置目的によって異なる展示の特徴を学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
6回	展示業務の実際—構想から施工まで— 計画設計、実施設計の流れと各段階での業務を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
7回	展示室の構成Ⅰ 環境・空調・動線・照明・音響・セキュリティ 動線計画や照明を中心に学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
8回	展示室の構成Ⅱ サイン・展示ケース・演示具 展示ケースの役割・種類、メンテナンスについて学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
9回	展示の技法Ⅰ 映像・インタラクティブ展示、ハンズオン展示 映像展示の特徴やハンズオン展示の実際を学ぶ。 小テスト	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
10回	展示の技法Ⅱ 展示グラフィック・解説文・展示図録 展示パネルの種類や解説文、図録作成のプロセスを学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
11回	展示の技法Ⅲ ワークシート・ワークブック・教育プログラム 教育プログラムの実例を通して利活用のあり方を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
12回	展示の技法Ⅳ ユニバーサルデザイン・展示評価 ユニバーサルデザインの考え方、展示評価の目的を学ぶ。	復習:配付資料を振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	20分
13回	博物館展示の情報化と広報活動 小テスト 展示解説の方法、他言語表記、広報活動のあり方を学ぶ。	復習:配付資料、小テストを振り返り、事例報告も含めて内容を整理しておく。	30分
14回	博物館展示の実際（施設見学） 見学や学芸員との質疑を通して館の課題を知り評価を行う。 ・見学レポート作成	予習:事前案内や配付資料を読み返す。 見学レポートをまとめる。	60分
15回	まとめ 授業や施設見学の課題（試験やレポート等）のフィードバックを行い、これからの展示について討議する。	復習:試験問題を振り返る。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業の冒頭に前回の振り返り、終わりに感想や質問内容をメモで提出。各小テスト・レポート提出後の講義で内容解説を行なう。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	①レポート ②小テスト ③授業姿勢（欠席・遅刻も含む）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし 課題内容に即した資料プリントを配布します。

■参考文献

加藤有次他編 「新編博物館学講座9 博物館展示論」 雄山閣
青木豊著 「博物館展示の研究」 雄山閣

■オフィスアワー・研究室

講義日の講義終了後、第三校舎講師控室(第3校舎1階)、もしくは教務課(本校舎1階)を通じて連絡をしてください。

■備考

なし

博物館教育論

浪川 幹夫

3年 前期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館法の基本法が社会教育法であるところから、博物館における教育は博物館の総体であると考えなければならない。したがって、博物館の基本機能は、すべて博物館教育を目的としている。つまり、収集・保存・研究は展示と教育を目的としているので、博物館教育論は博物館の最終機能となる。

展示は博物館教育の基本であるが、展示論は別途科目として存在するため、ここでは展示及び展示関連事業を基本とした教育諸活動に焦点をあてて理解を求めるとする。

■到達目標（学修成果）

- ・博物館教育活動の歴史と概念の理解
- ・博物館における教育諸活動の具体的実践

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき博物館に関する科目の単位の一つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス 自己紹介（学生も） 鎌倉の博物館紹介 授業の進め方	予習：シラバス（学芸員課程部分）をよく確認する	30分
2回	博物館法および関係法規から見る博物館教育（講義・前半）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
3回	博物館法および関係法規から見る博物館教育（講義・後半）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
4回	博物館教育の概念と歴史・教育論研究史（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
5回	博物館教育の具体例Ⅰ ミュージアムワークシート・ミュージアムワークショップ（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
6回	博物館教育の具体例Ⅱ 講演会・講座・出前授業・各種ワークショップ（講義）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
7回	杉野学園衣裳博物館を見学（博物館教育論の視点から）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
8回	展示資料の取り扱いと、展示手法について（博物館教育論の観点から・実技）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
9回	博物館教育論の観点から行う、資料の研究手法（実技。古文書読解）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
10回	ミュージアムワークシートの作成 概念説明（講義と、対象博物館選定・実技）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り（ワークシート作成準備）	30分
11回	ミュージアムワークシートの作成（実技）	復習：ワークシートの作成	30分
12回	ミュージアムワークシートの作成（実技）	復習：ワークシートの作成	30分
13回	ミュージアムワークシートの作成（実技）および教育用としての展覧会図録の作成について（講義）	復習：ワークシートの作成および配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
14回	博学連携 出前授業（講義と実技） （博物館の裏側について。出前授業の実例紹介）	復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	30分
15回	まとめ（成果物の提出と評価）	復習：14回全体の振り返り	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートの添削返却

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

随時 紹介する。
レジュメ等、資料を配付する（随時）。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：第3校舎講師控え室（第3校舎1階） 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 なし

博物館情報・メディア論

丸山 憲子

3年 後期 学芸員課程必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

博物館を「情報」「メディア」という語をキーワードに学んでいく。「情報」「メディア」という用語の理解の上、実際の今日の博物館での資料の情報化他「情報」の諸相、「情報」の伝達手段としての「メディア」の実際について学習していく。

■到達目標（学修成果）

博物館における「情報」「メディア」についての基本的知識の習得
博物館活動における「情報」の本質について考察できることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得するとともに得られる資格）のために、文部科学省令の定める大学で習得すべき科目の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館情報・メディア論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	コレクション・ドキュメンテーション（1）について学習する。	予習：教科書の情報メディア論の部分を読んでおくこと。 復習：語句を整理しておくこと。	30分
3回	コレクション・ドキュメンテーション（2）について学習する。	復習：語句を整理しておくこと、コレクションドキュメンテーションについてまとめておくこと。	60分
4回	データベース化、デジタル・アーカイブについて学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句を整理しておくこと。デジタルアーカイブのまとめをしておくこと。	60分
5回	博物館における情報管理と情報発信について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
6回	インターネットを利用した他機関との連携について学習する。	予習：インターネット上で博物館データベースを閲覧しておくこと。 復習：配布資料の読み返し。	30分
7回	博物館における知的財産権について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
8回	RFIDなどの新技術と博物館活動について学習する。 資料の情報化・情報管理・情報発信についてのまとめ（小テスト）	復習：配布資料の読み返し。	30分
9回	メディアとしての博物館について学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
10回	博物館における視聴覚メディアの歴史を学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
11回	教育普及活動における情報伝達の方法について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。 博物館へのフィールドワーク。博物館での情報伝達の実態を見学、ディスカッション準備。	60分
12回	情報伝達についてのディスカッション。 映像について学習する。	復習：ディスカッション整理。	30分
13回	博物館における映像展示をはじめとした視聴覚メディアについて学習する。	復習：配布資料の読み返し。	30分
14回	博物館における視聴覚メディアの導入及びその効果について学習する。	復習：視聴覚メディアについてのまとめをしておくこと。	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 芙蓉書房出版

■参考文献

随時 紹介する
課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 積極的に博物館見学をし、manaba等を利用しての見学記の発表及びコメント書き込みをしてもらいます。